

米子市人権問題市民意識調査

(人権に関する市民アンケート)

報 告 書

令和4年9月調査

米 子 市

はじめに

日ごろから、米子市の人権施策の推進につきまして、ご理解、ご協力をいただき深く感謝申し上げます。

米子市では、米子市人権施策基本方針・推進プランに基づき、様々な人権施策を推進しており、推進にあたっては、5年ごとに人権問題市民意識調査を行っています。この調査は、人権問題に関する市民意識の現状を把握することにより、人権問題の解決に向けて取り組んできた成果と課題を明らかにし、米子市人権施策基本方針・推進プランを効果的に推進するための基礎資料として活用することを目的としています。

今回の調査では、多様化する人権問題をできる限り多く取り上げ、調査を行いました。今後、人権施策を推進するうえで、今回の調査結果を有効に活用してまいります。最後に、本調査にご協力いただいた市民のみなさまに心よりお礼を申し上げます。

令和5年7月

米子市長 伊木 隆司

目 次

はじめに

第1章 調査概要

1 目的.....	1
2 実施時期.....	1
3 調査対象.....	1
4 調査方法.....	1
5 回収結果.....	1
6 回答者の属性.....	2

第2章 回答結果集計

1 個別集計及び年齢別クロス集計結果	
問 1 人権問題についての関心.....	3
問 2 関心がある人権課題.....	4
問 3 人権に関する考え方.....	6
問 4 職場における人権.....	13
問 5 家庭生活における人権.....	20
問 6 社会生活における人権.....	29
問 7 インターネット上での書き込み等.....	36
問 8 身元調査.....	42
問 9 差別解消に関する3つの法律.....	45
問 10 人権に関する行動.....	48
問 11 人権尊重社会のための取組.....	55
問 12 人権に関する研修会や講演会への参加.....	57
問 13 人権への理解を深めるために役立つもの.....	59
2 自由記述.....	61
3 調査結果のまとめ.....	65

参考資料

調査票.....	73
----------	----

第1章

調査概要

1 目的

本市では、旧米子市において、「同和問題に関する意識調査」として昭和 52 年から平成 9 年の間に 4 回、また、「人権・同和問題に関する意識調査」として平成 14 年に 1 回、さらに旧米子市・旧淀江町の合併後、「人権問題市民意識調査」として平成 19 年、平成 24 年及び平成 29 年の計 8 回の意識調査を、全市民を対象として実施し、教育・啓発の基礎資料として活用してきた。

調査は、人権問題に関する市民意識の現状を把握することによって、人権問題に取り組んできた成果と課題を明らかにし、米子市人権施策基本方針・推進プランを効果的に推進するための基礎資料として活用することを目的として実施した。

2 実施時期

令和 4 年 9 月

3 調査対象

米子市住民基本台帳から、15 歳以上 80 歳未満の市民 3,500 名を無作為抽出した。

4 調査方法等

郵送により配布し、回答は調査票の回収またはインターネットでの回答とした。

調査票及びインターネットでの回答はいずれも無記名とした。

5 回収結果

(1) 有効回収数：1,297 名

(2) 有効回収率：37.2%

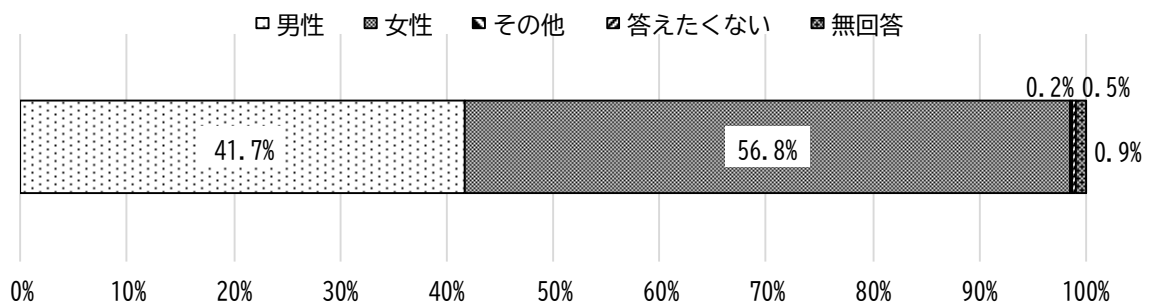
*宛先不明で返却された調査票（9 部）を発送数（3,500 部）から除く

6 回答者の属性

(1) 性別

回答者を性別で見ると、男性が41.7%、女性が56.8%、その他が0.2%、答えたくないが0.5%となっている。

男性	女性	その他	答えたくない	無回答	計
541	736	2	6	12	1,297
41.7%	56.8%	0.2%	0.5%	0.9%	100%

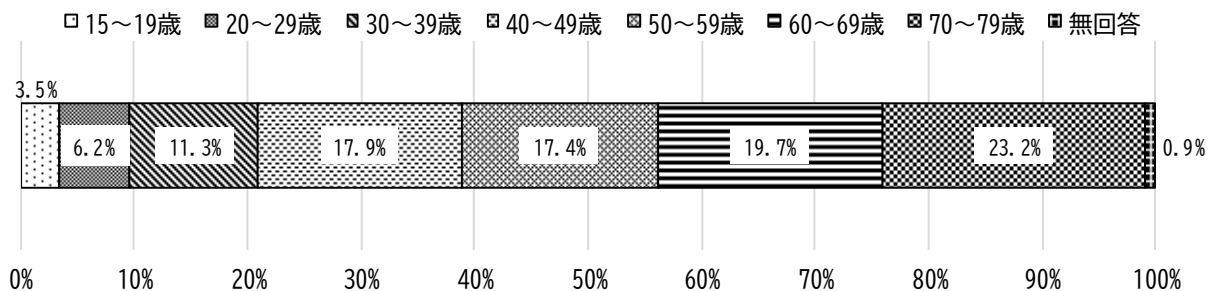


(2) 年齢

回答者を年齢別で見ると、15～19歳が3.5%、20～29歳が6.2%、30～39歳が11.3%、40～49歳が17.9%、50～59歳が17.4%、60～69歳が19.7%、70～79歳が23.2%となっている。

15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳
45人	80人	147人	232人	225人
3.5%	6.2%	11.3%	17.9%	17.4%

60～69歳	70～79歳	無回答	総計
255人	301人	12人	1,297人
19.7%	23.2%	0.9%	100%



第2章

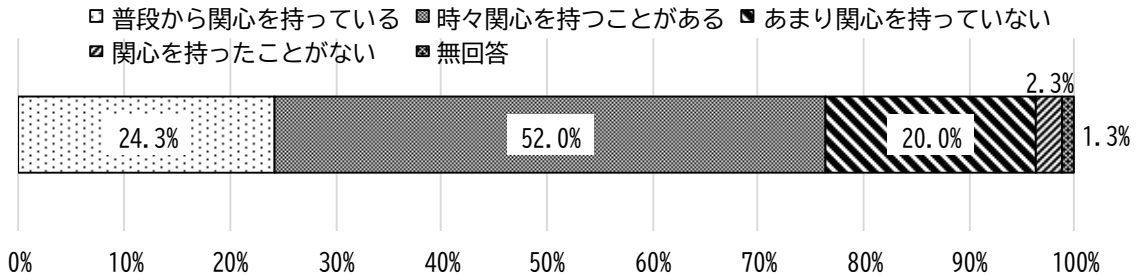
回答結果集計

百分率 (%) の計算は、四捨五入の影響で、%を足し合わせて 100%にならない場合がある。

1 個別集計及び年齢別クロス集計結果

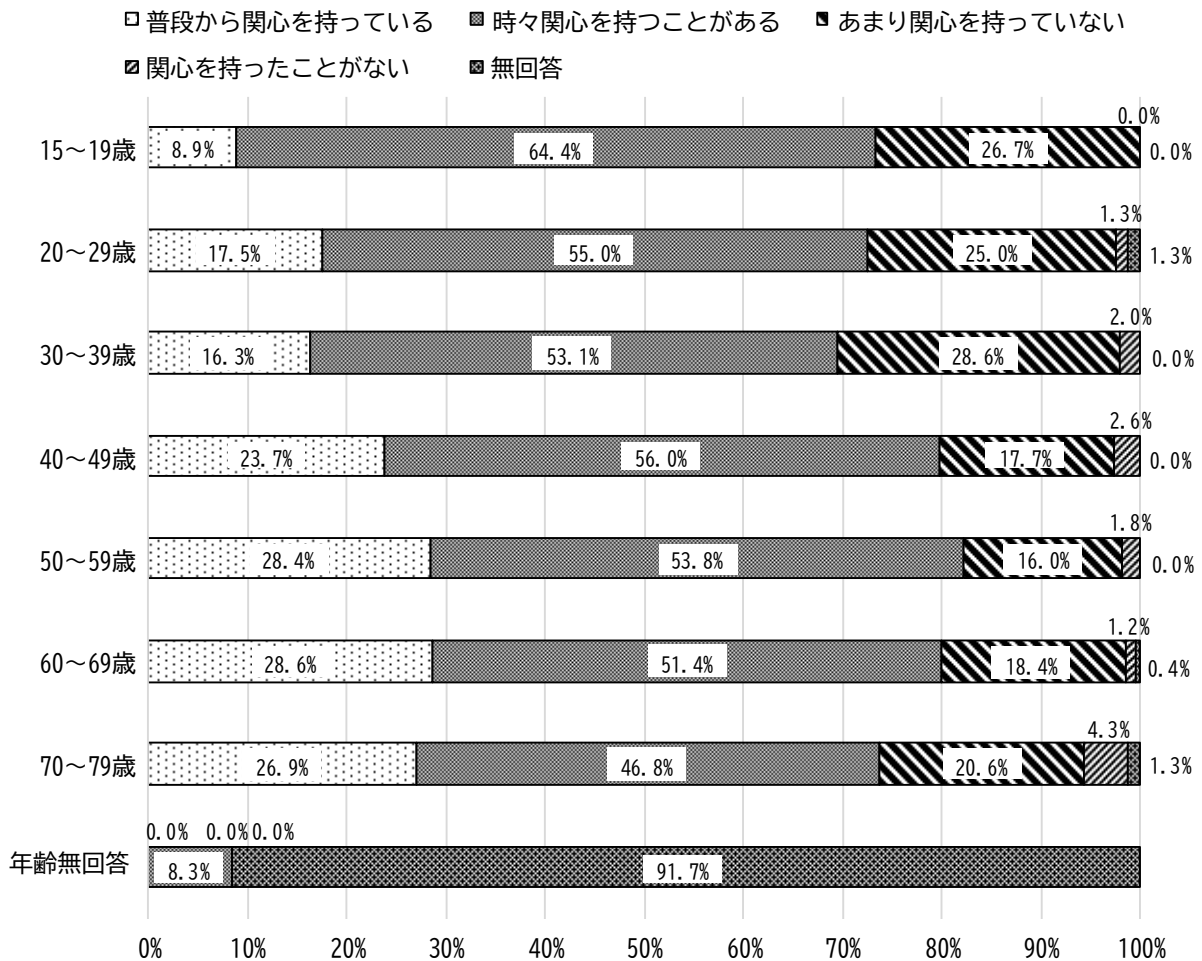
(年齢別集計の記述に関しては、年齢無回答の結果を除いて記載している)

問1 あなたは人権問題について関心がありますか。(〇は一つ)

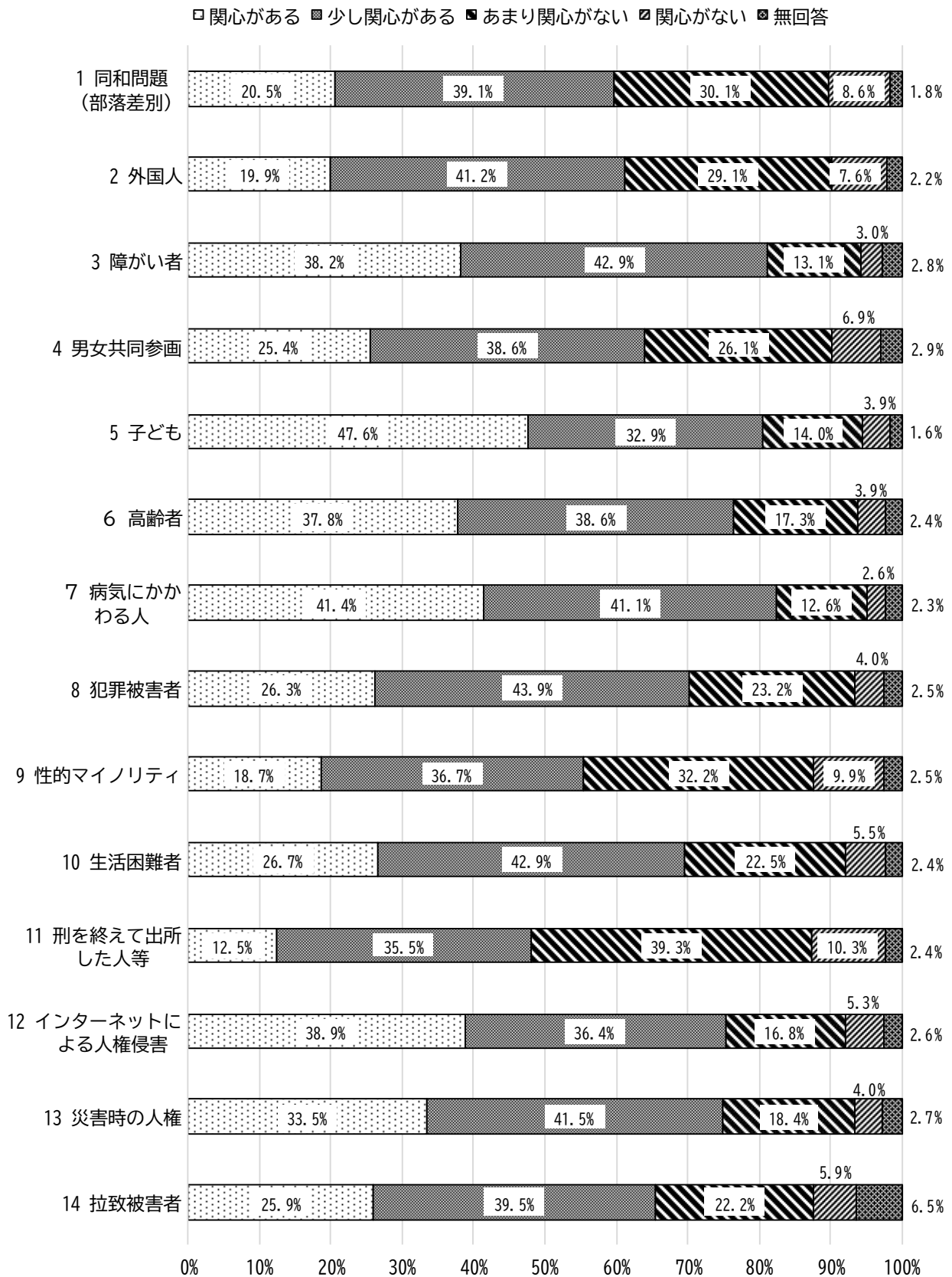


人権問題への関心について、「普段から関心を持っている」「時々関心を持つことがある」と答えた人の割合は76.3%、「あまり関心を持っていない」「関心を持ったことがない」と答えた人の割合は22.3%となっている。

年齢別でみると、「普段から関心を持っている」「時々関心を持つことがある」と答えた人の割合は、「50～59歳」(82.2%)が最も高く、次いで「60～69歳」(80.0%)、「40～49歳」(79.7%)となっている。



問2 次のような人権課題について、どの程度関心がありますか。1～14のすべてについてお答えください。（それぞれ1つに○をつけてください）



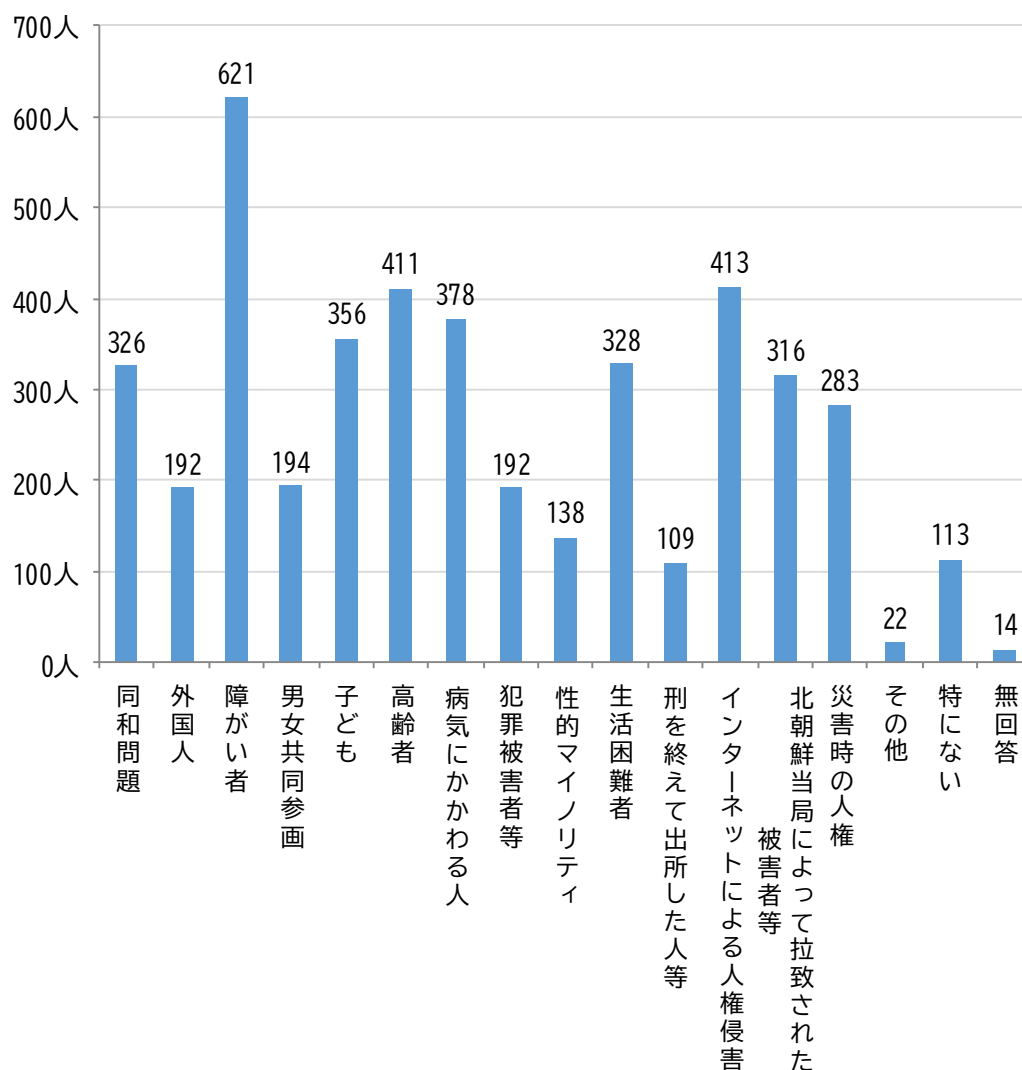
それぞれの人権課題への関心について「関心がある」「少し関心がある」と回答した人の割合が最も高い人権課題は、「7 病気にかかわる人」(82.5%)となっている。続いて、「3 障がい者」(81.1%)、「5 子ども」(80.5%)、「6 高齢者」(76.4%)の順に高くなっている。

年齢別で、「関心がある」「少し関心がある」と回答した人の割合が最も高い人権課題は、「15～19歳」が「3 障がい者」「12 インターネットによる人権侵害」(77.8%)、「20～29歳」が「12 インターネットによる人権侵害」(90.0%)、「30～39歳」が「12 インターネットによる人権侵害」(79.6%)、「40～49歳」が「7 病気にかかわる人」(90.9%)、「50～59歳」が「7 病気にかかわる人」(84.9%)、「60～69歳」が「3 障がい者」(82.7%)、「70～79歳」が「6 高齢者」(82.1%)となっている。

【参考】回答方法が前回と異なっているため、参考としてご参照ください。

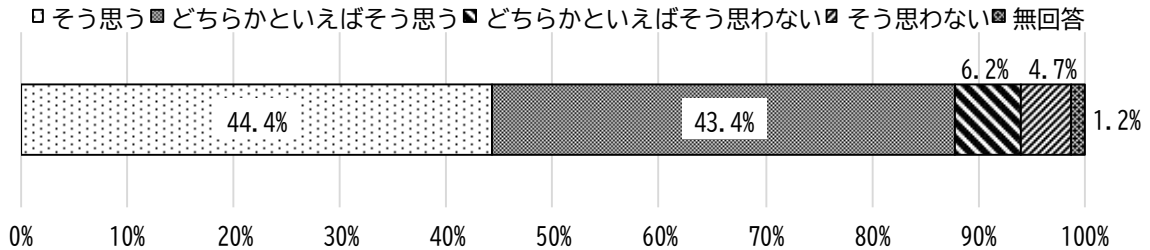
前回調査 (H29 調査)

どのような人権問題に関心をお持ちですか。関心があるものすべてに○をつけてください。



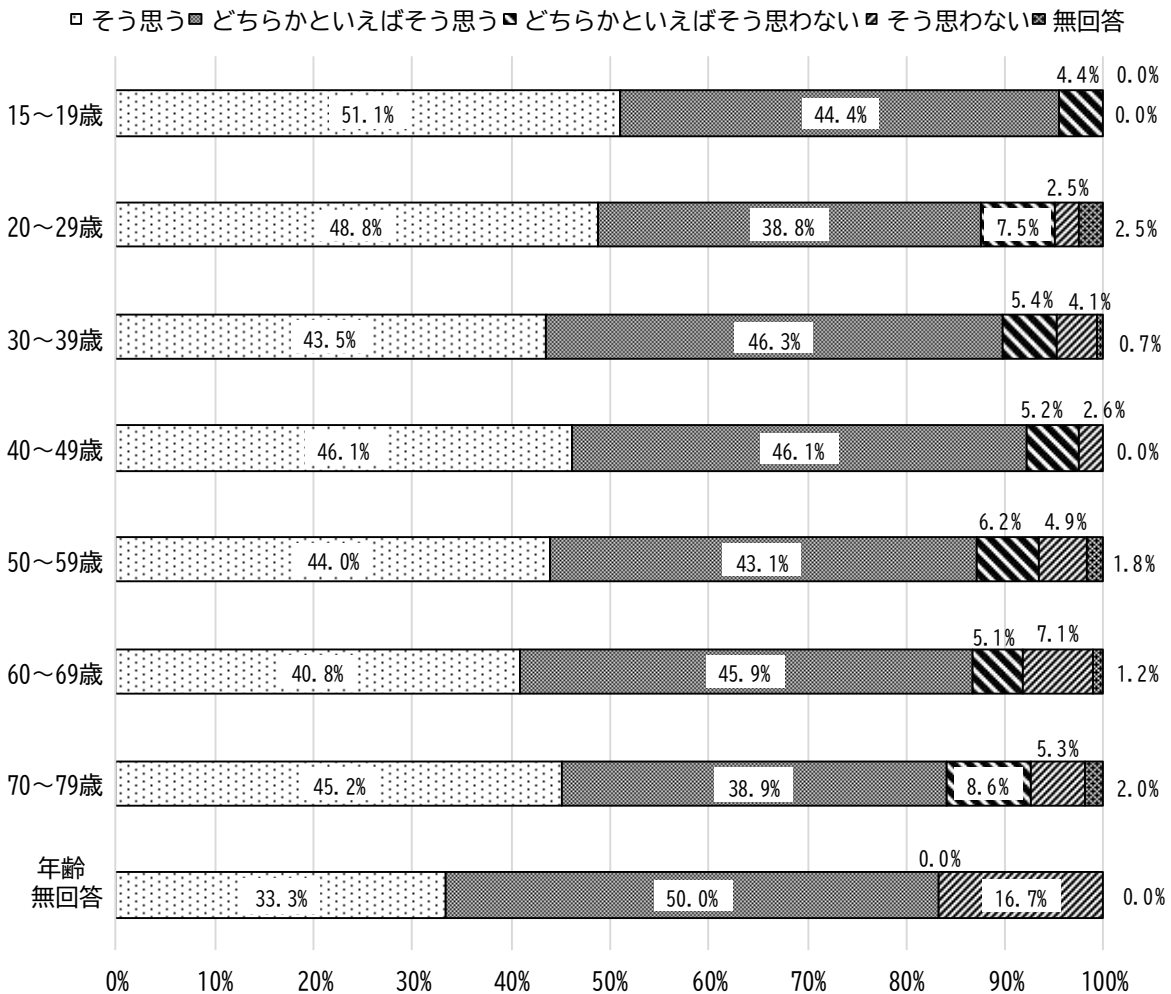
問3 次のような考え方についてどう思われますか。1～7のすべてについてお答えください。(それぞれ1つに○をつけてください)

1 差別やいじめは、する側に問題がある

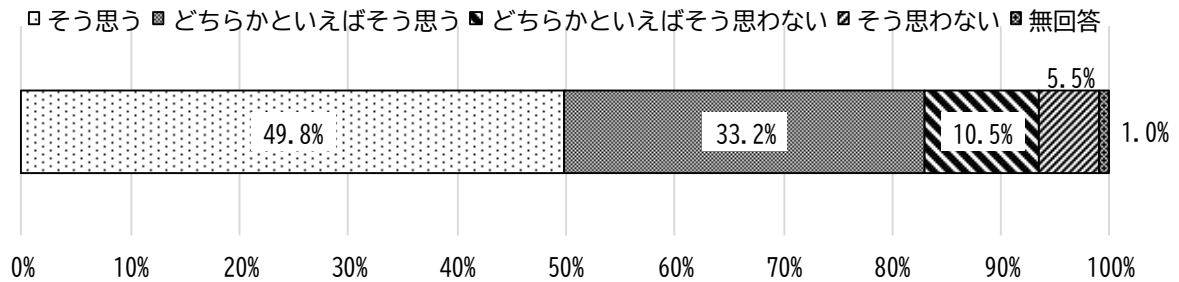


「差別やいじめは、する側に問題がある」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は87.8%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は10.9%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は、「15～19歳」(95.5%)が最も高く、次いで「40～49歳」(92.2%)、「30～39歳」(89.8%)となっている。

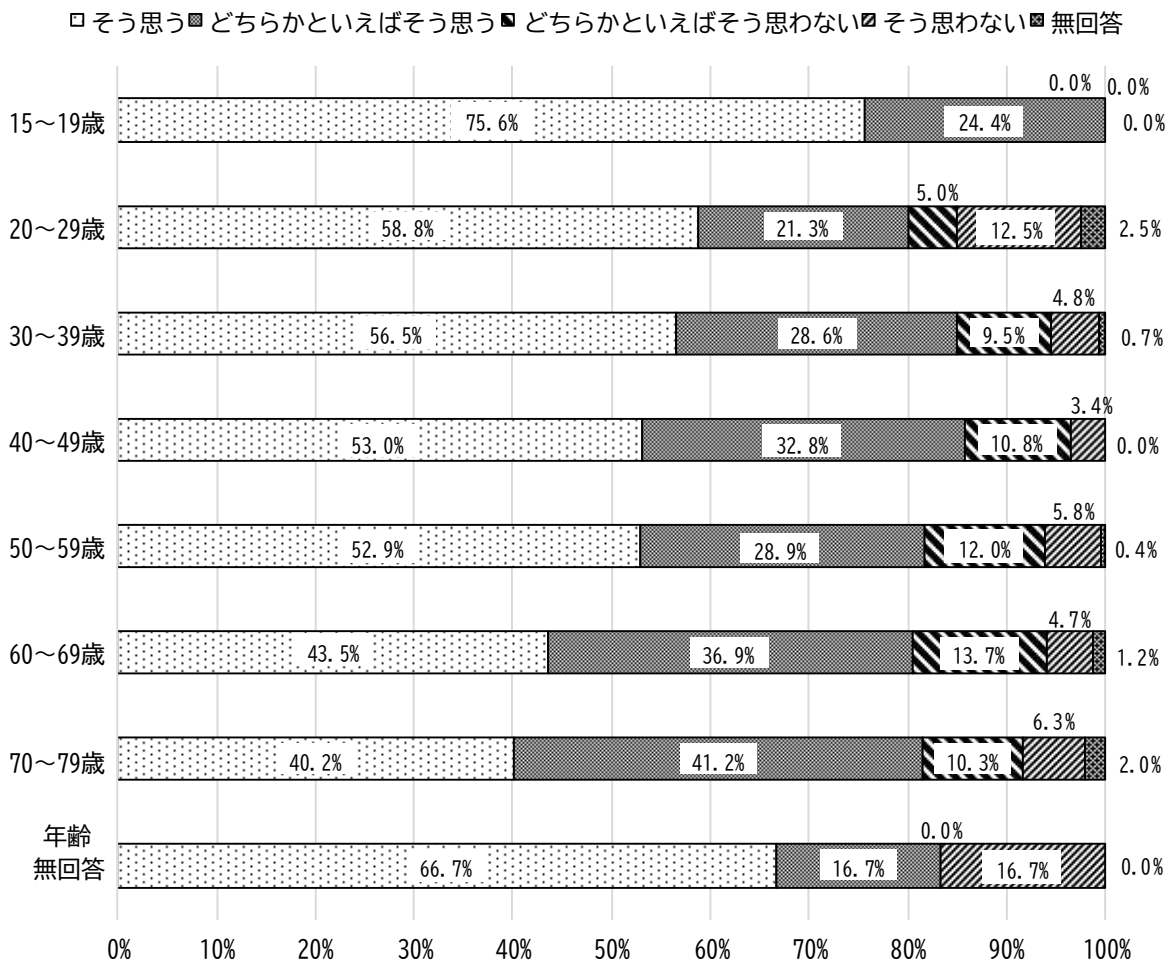


2 同和問題（部落差別）について、差別や偏見に基づく間違った情報に惑わされないためにも、正しい理解のための学習や啓発が必要だ

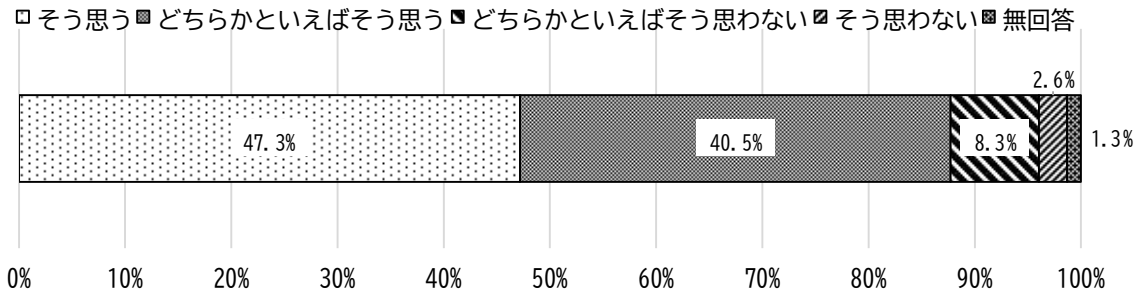


「同和問題（部落差別）について、差別や偏見に基づく間違った情報に惑わされないためにも、正しい理解のための学習や啓発が必要だ」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は83.0%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は16.0%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」（100.0%）が最も高く、次いで「40～49歳」（85.8%）、「30～39歳」（85.1%）となっている。

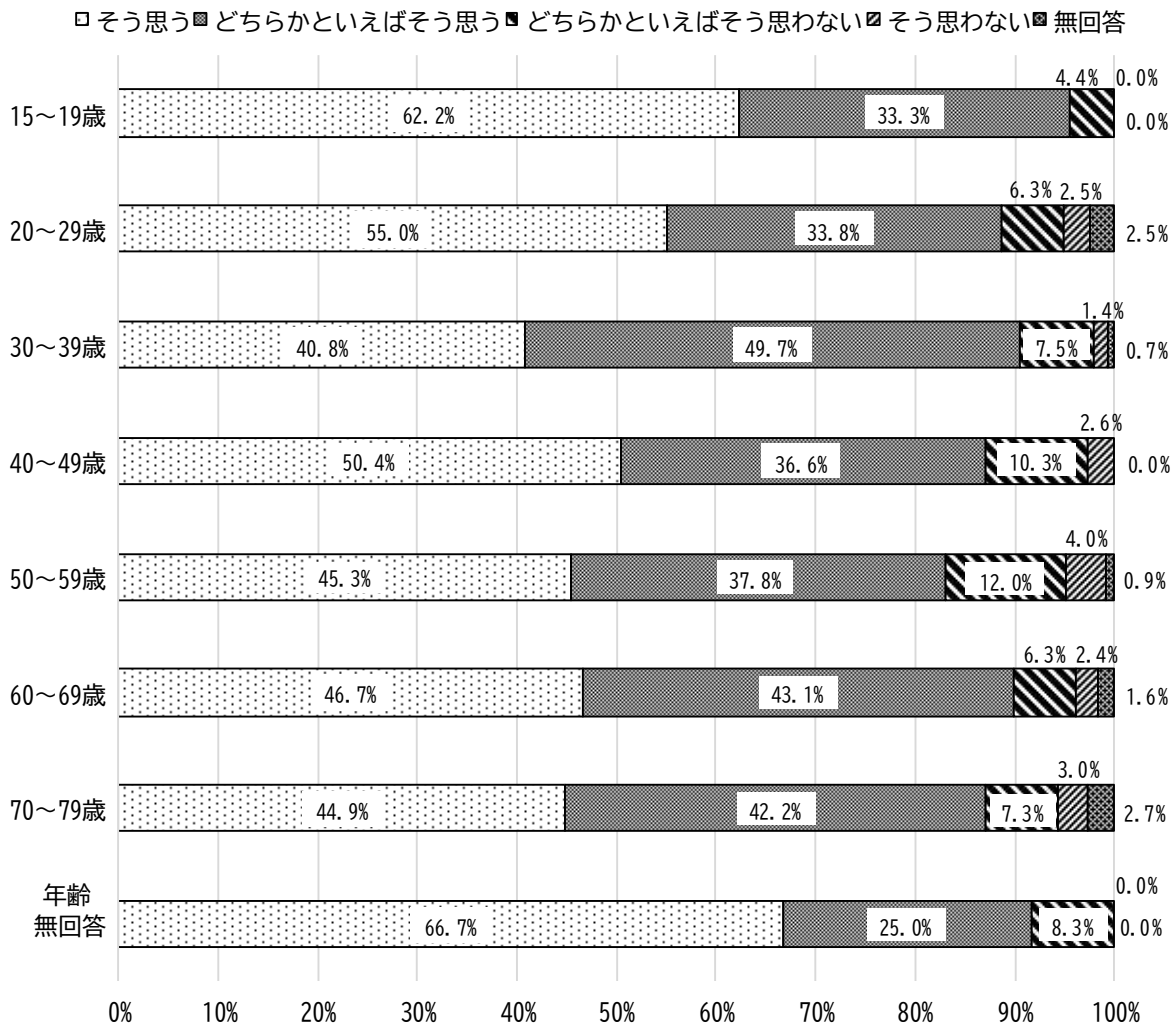


3 日本で暮らす外国人が母国の言葉や文化を大切にすることを、尊重するべきだ

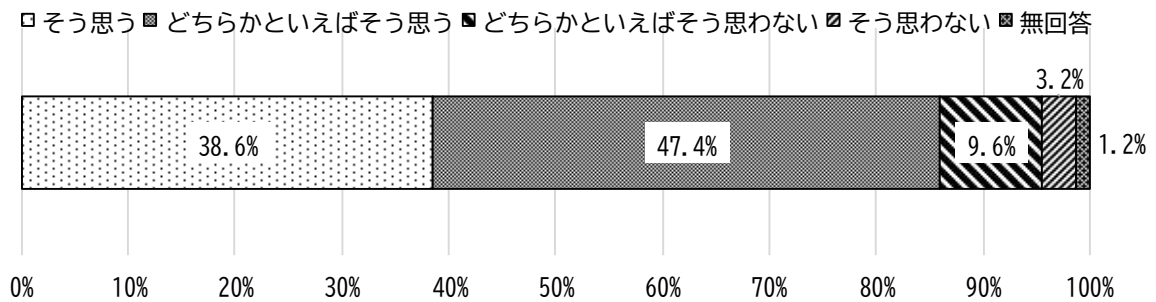


「日本で暮らす外国人が母国の言葉や文化を大切にすることを、尊重するべきだ」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は87.8%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は10.9%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」(95.5%)が最も高く、次いで「30～39歳」(90.5%)、「60～69歳」(89.8%)となっている。

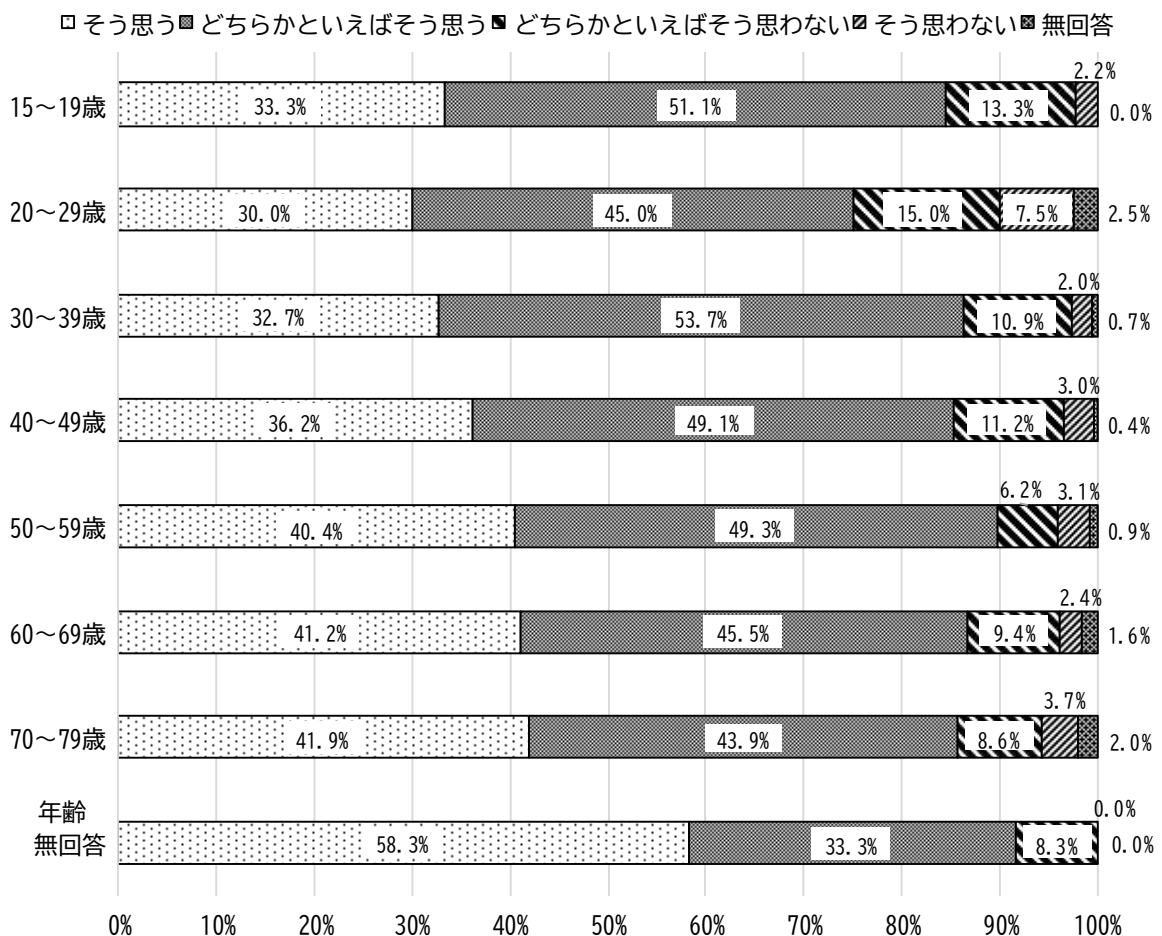


4 障がいのある人が困難を経験するのは、周りの環境や制度などが障がいのない人（多数派）に合わせて作られているからだ

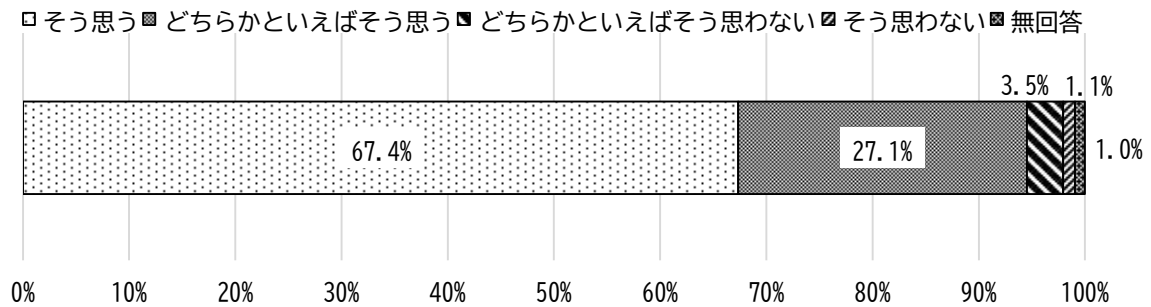


「障がいのある人が困難を経験するのは、周りの環境や制度などが障がいのない人（多数派）に合わせて作られているからだ」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は86.0%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は12.8%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「50～59歳」（89.7%）が最も高く、次いで「60～69歳」（86.7%）、「30～39歳」（86.4%）となっている。

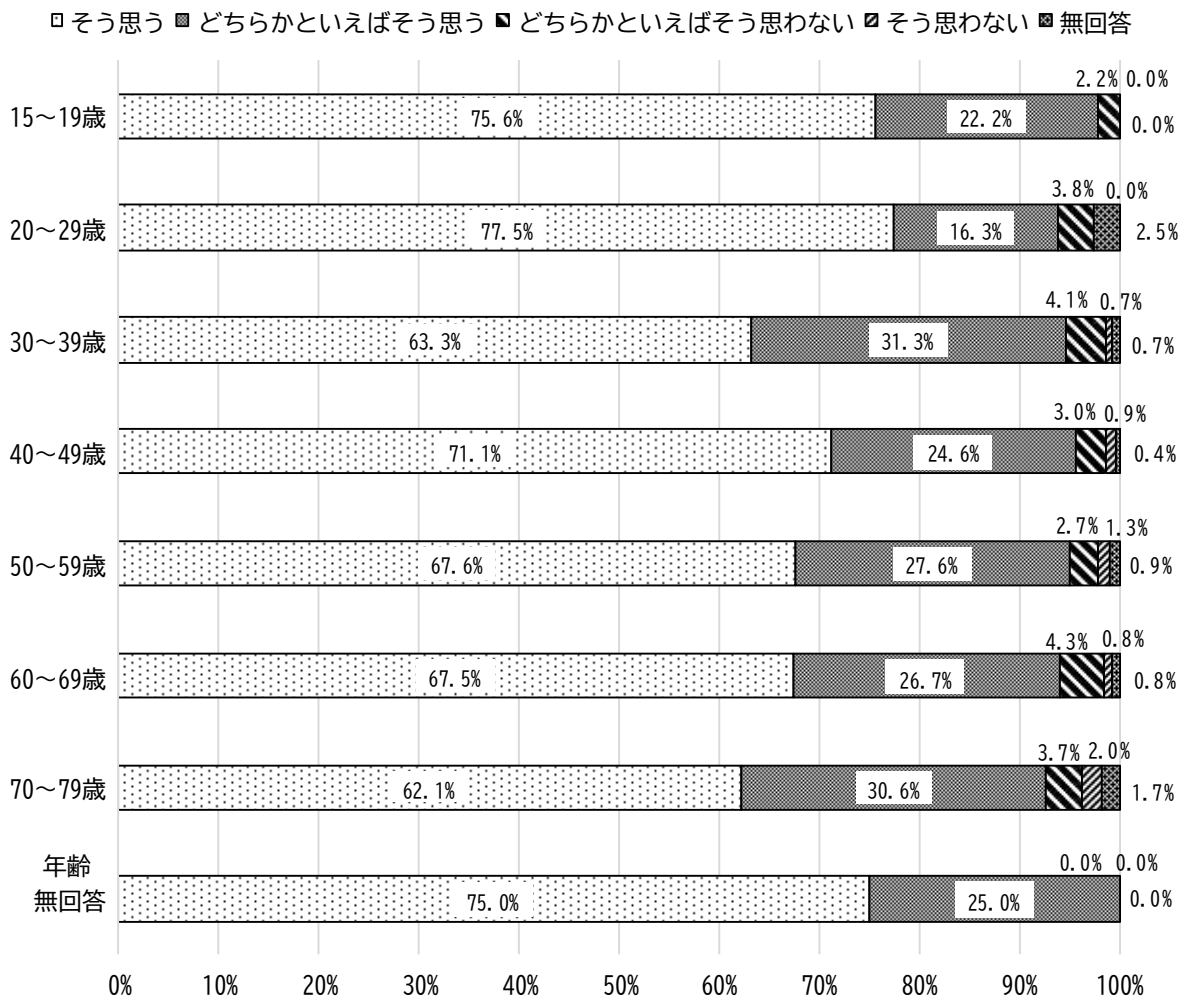


5 犯罪被害者やその家族に対する、過剰な取材や中傷は人権侵害である

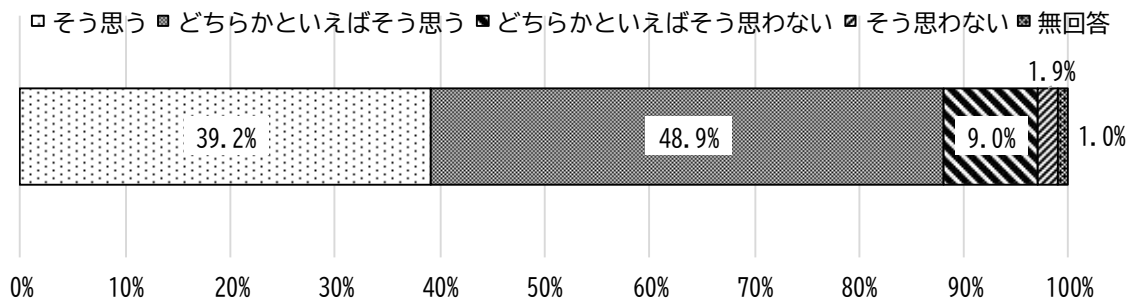


「犯罪被害者やその家族に対する、過剰な取材や中傷は人権侵害である」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は94.5%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は4.6%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」(97.8%)が最も高く、次いで「40～49歳」(95.7%)、「50～59歳」(95.2%)となっている。

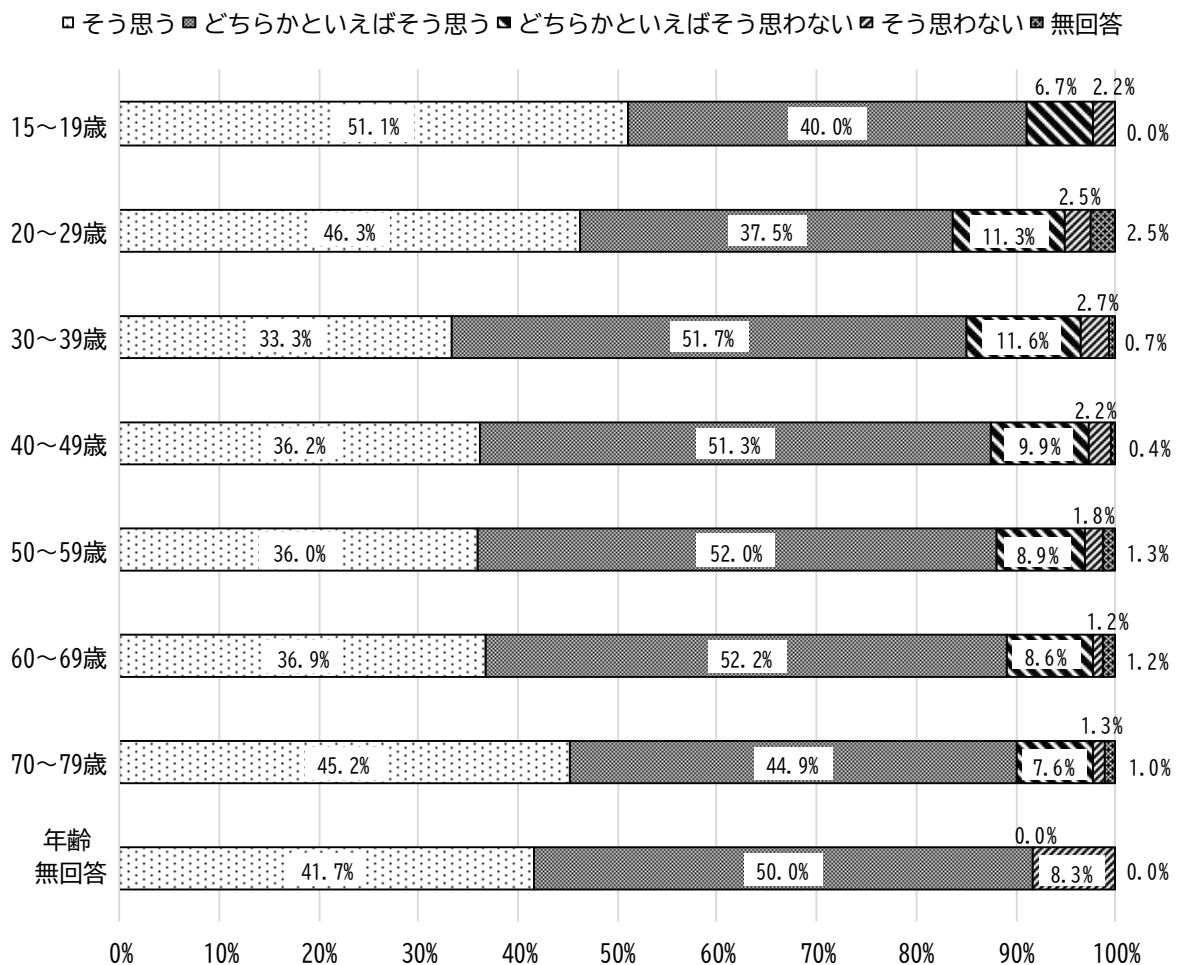


6 生活困窮の問題は、本人の努力だけでは全てを解決することは不可能なので、支援が必要である

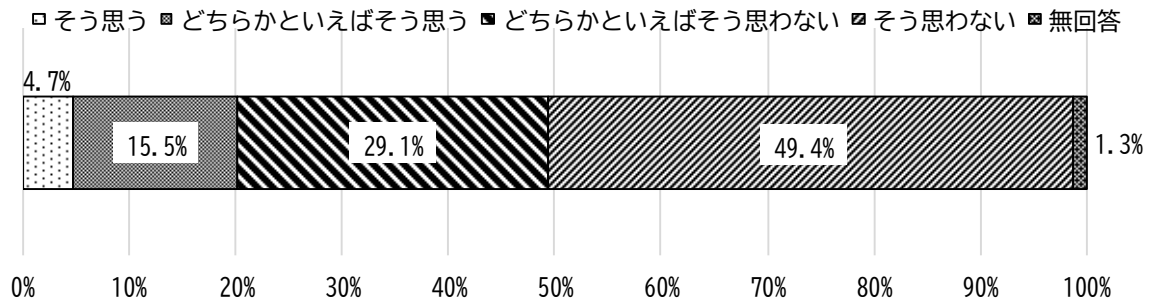


「生活困窮の問題は、本人の努力だけでは全てを解決することは不可能なので、支援が必要である」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は88.1%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は10.9%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」(91.1%)が最も高く、次いで「70～79歳」(90.1%)、「60～69歳」(89.1%)となっている。

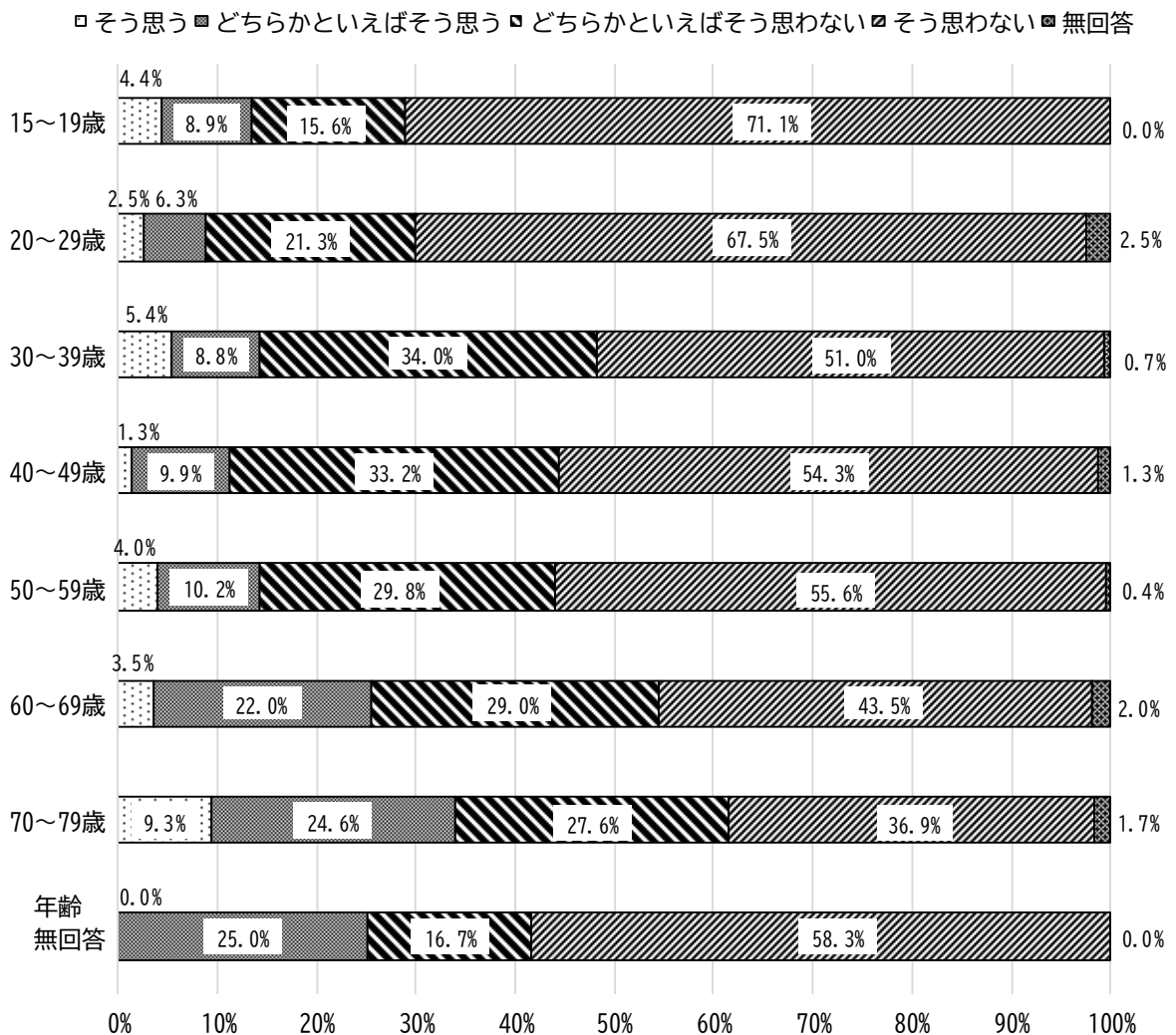


7 自分は差別しないので人権問題を学ぶ必要はない



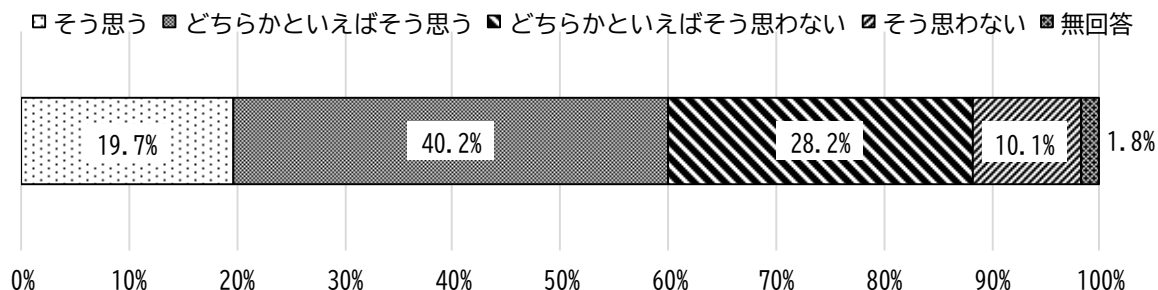
「自分は差別しないので人権問題を学ぶ必要はない」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は20.2%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は78.5%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「70～79歳」(33.9%)が最も高く、次いで「60～69歳」(25.5%)、「50～59歳」(14.2%)となっている。



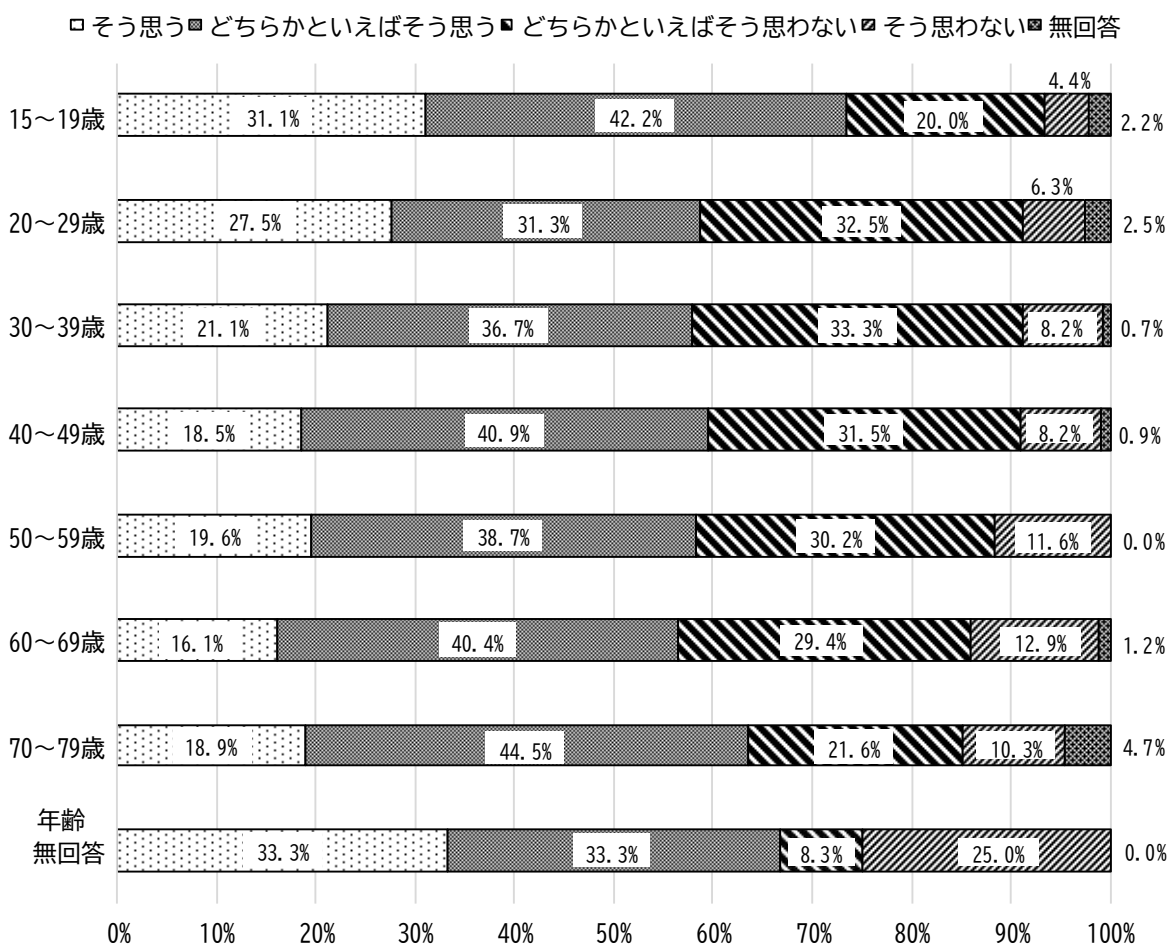
問4 職場における場面での次のような意見や考え方についてどう思われますか。1～7のすべてについてお答えください。(それぞれ1つに○をつけてください)

1 障がいがあるからといって、仕事をするのに仕事内容を制限されるべきではない

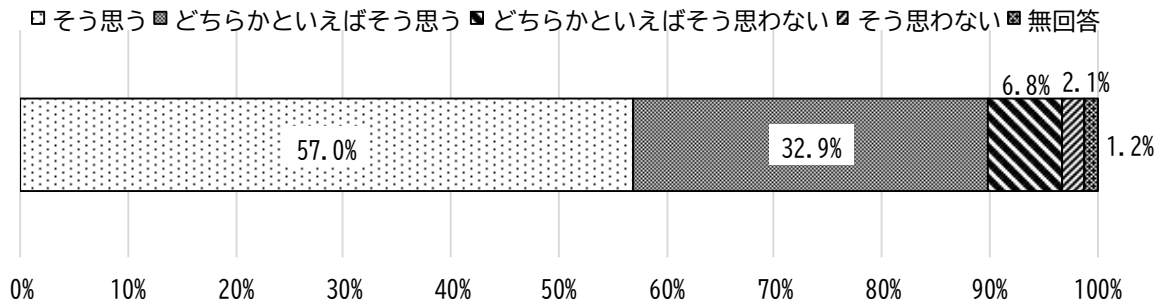


「障がいがあるからといって、仕事をするのに仕事内容を制限されるべきではない」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は59.9%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は38.3%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」(73.3%)が最も高く、次いで「70～79歳」(63.4%)、「40～49歳」(59.4%)となっている。

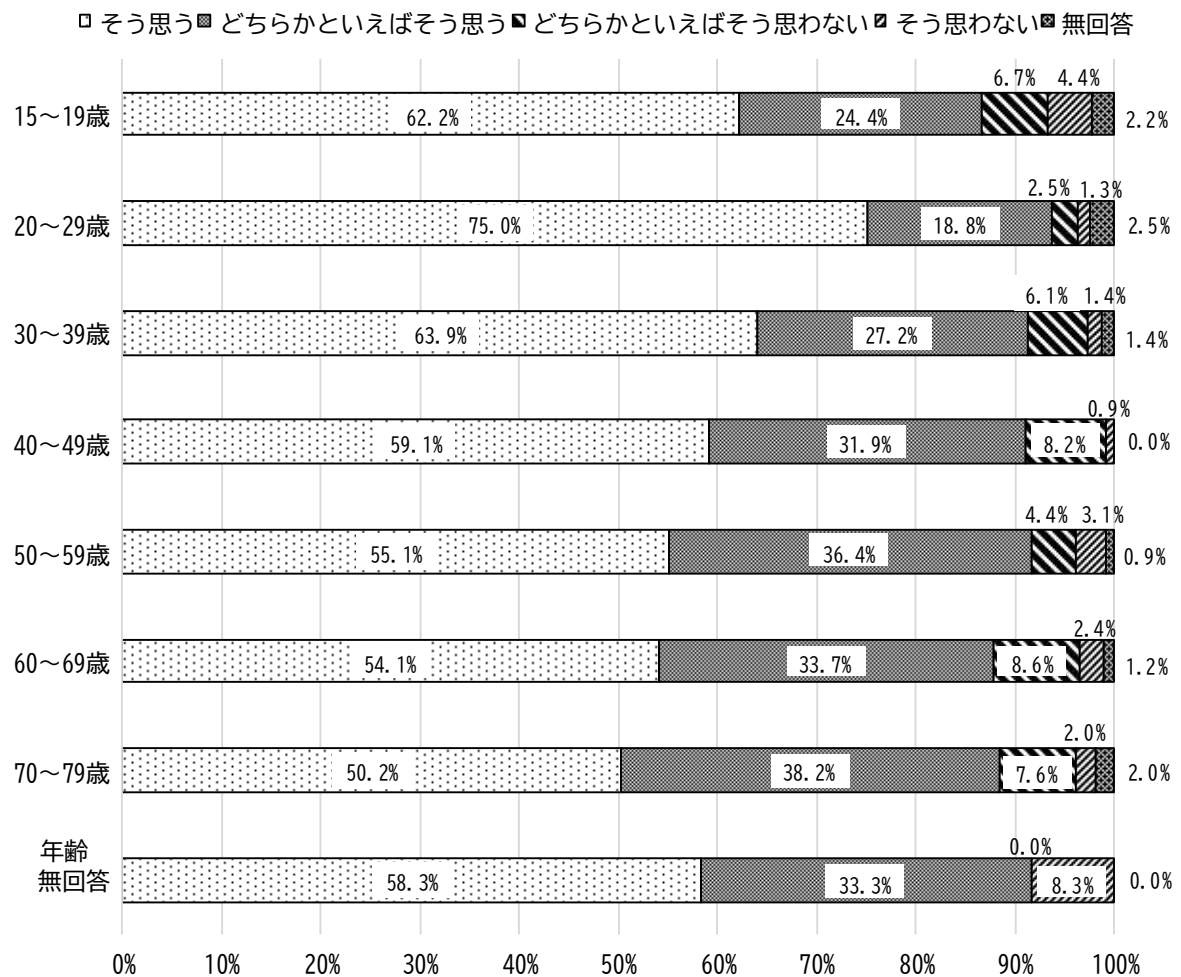


2 採用や昇給、昇進などで、男女の待遇に差が出るのは問題がある

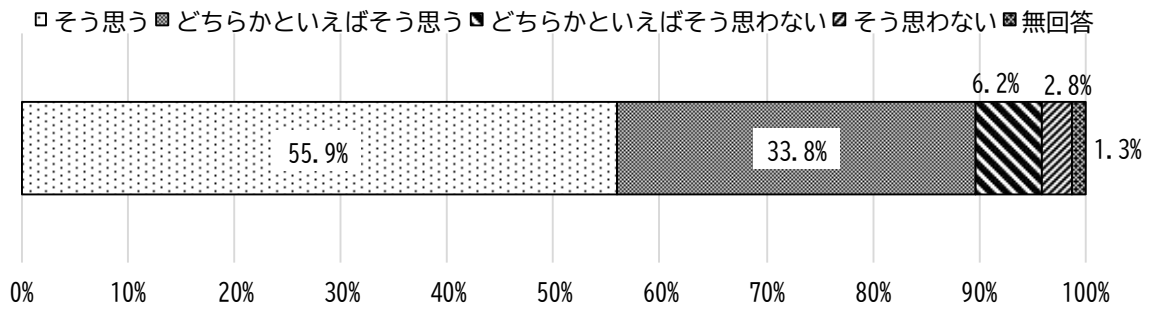


「採用や昇給、昇進などで、男女の待遇に差が出るのは問題がある」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は89.9%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は8.9%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「20～29歳」(93.8%)が最も高く、次いで「50～59歳」(91.5%)、「30～39歳」(91.1%)となっている。

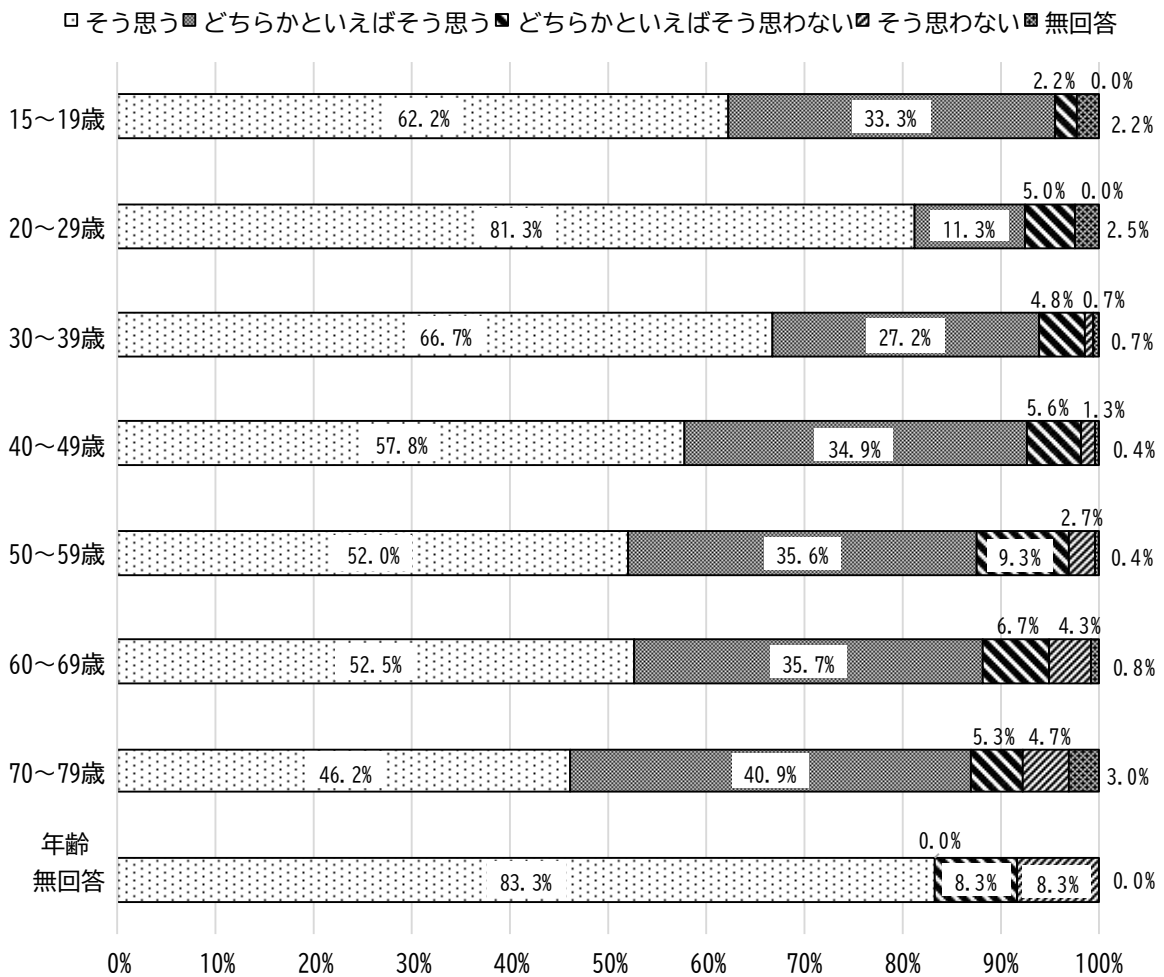


3 育児休業や介護休業の制度を取りにくい雰囲気があることは、結果的に職場のためにならない

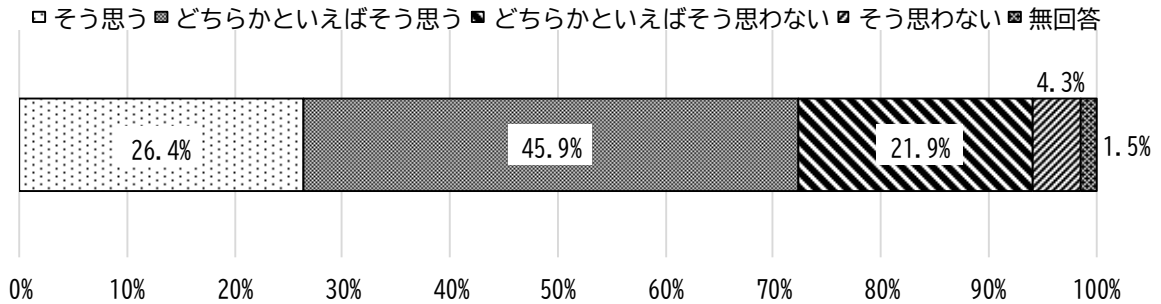


「育児休業や介護休業の制度を取りにくい雰囲気があることは、結果的に職場のためにならない」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は89.7%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は9.0%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」(95.5%)が最も高く、次いで「30～39歳」(93.9%)、「40～49歳」(92.7%)となっている。

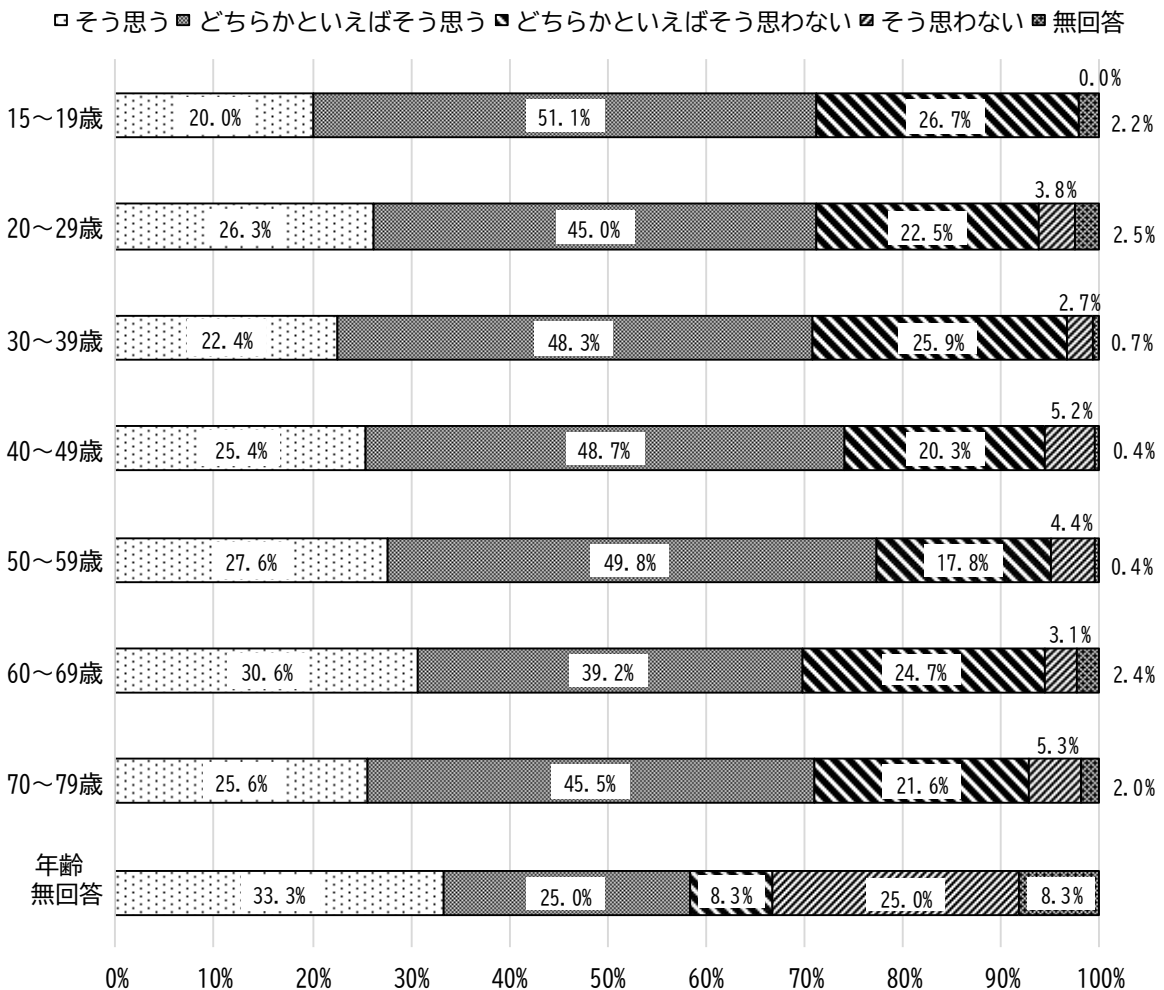


4 高齢者が、就職が困難だったり、労働条件が低くなるのは問題がある

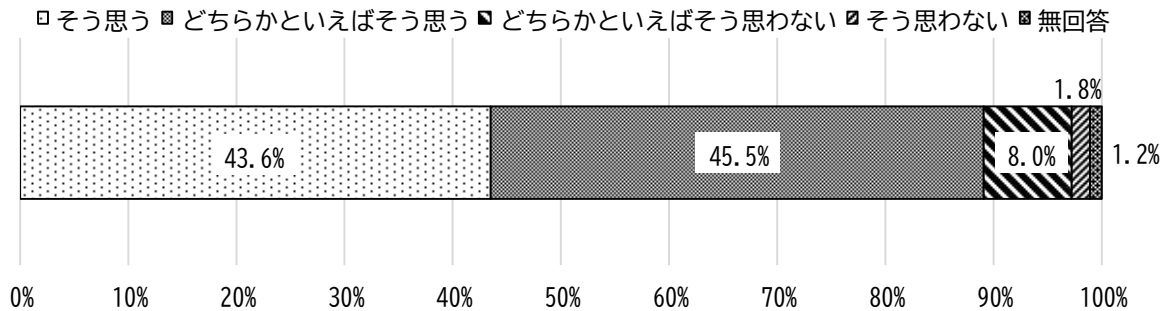


「高齢者が、就職が困難だったり、労働条件が低くなるのは問題がある」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は72.3%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は26.2%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「50～59歳」（77.4%）が最も高く、次いで「40～49歳」（74.1%）、「20～29歳」（71.3%）となっている。

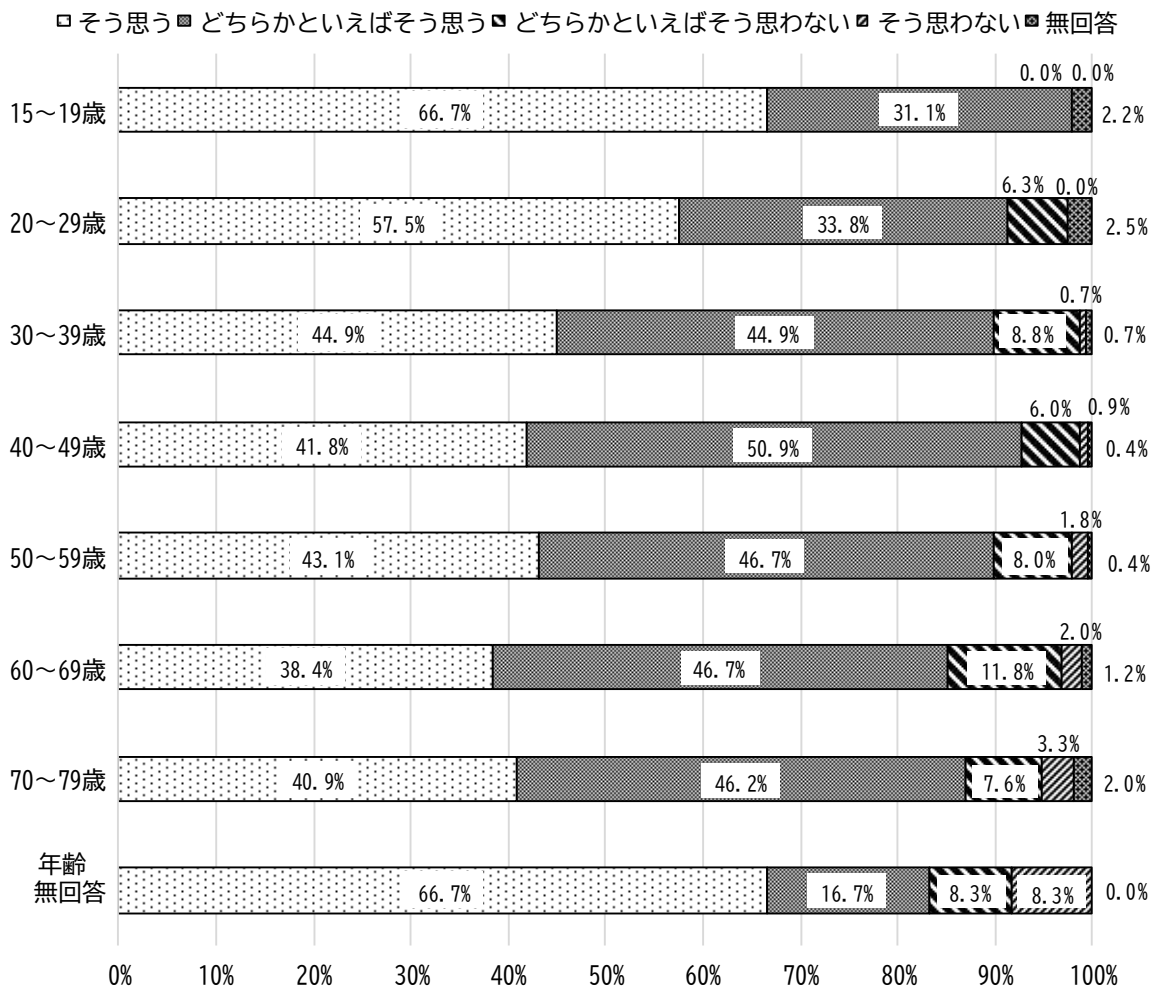


5 病歴から就職や仕事の待遇などで不利な扱いを受けるのは問題がある

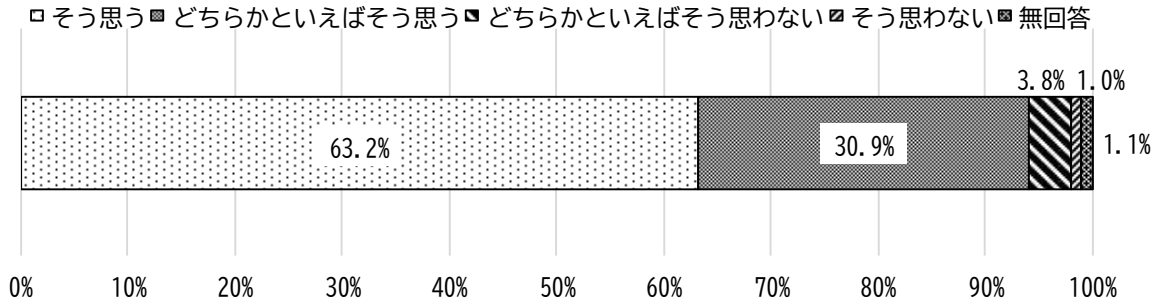


「病歴から就職や仕事の待遇などで不利な扱いを受けるのは問題がある」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は89.1%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は9.8%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」(97.8%)が最も高く、次いで「40～49歳」(92.7%)、「20～29歳」(91.3%)となっている。

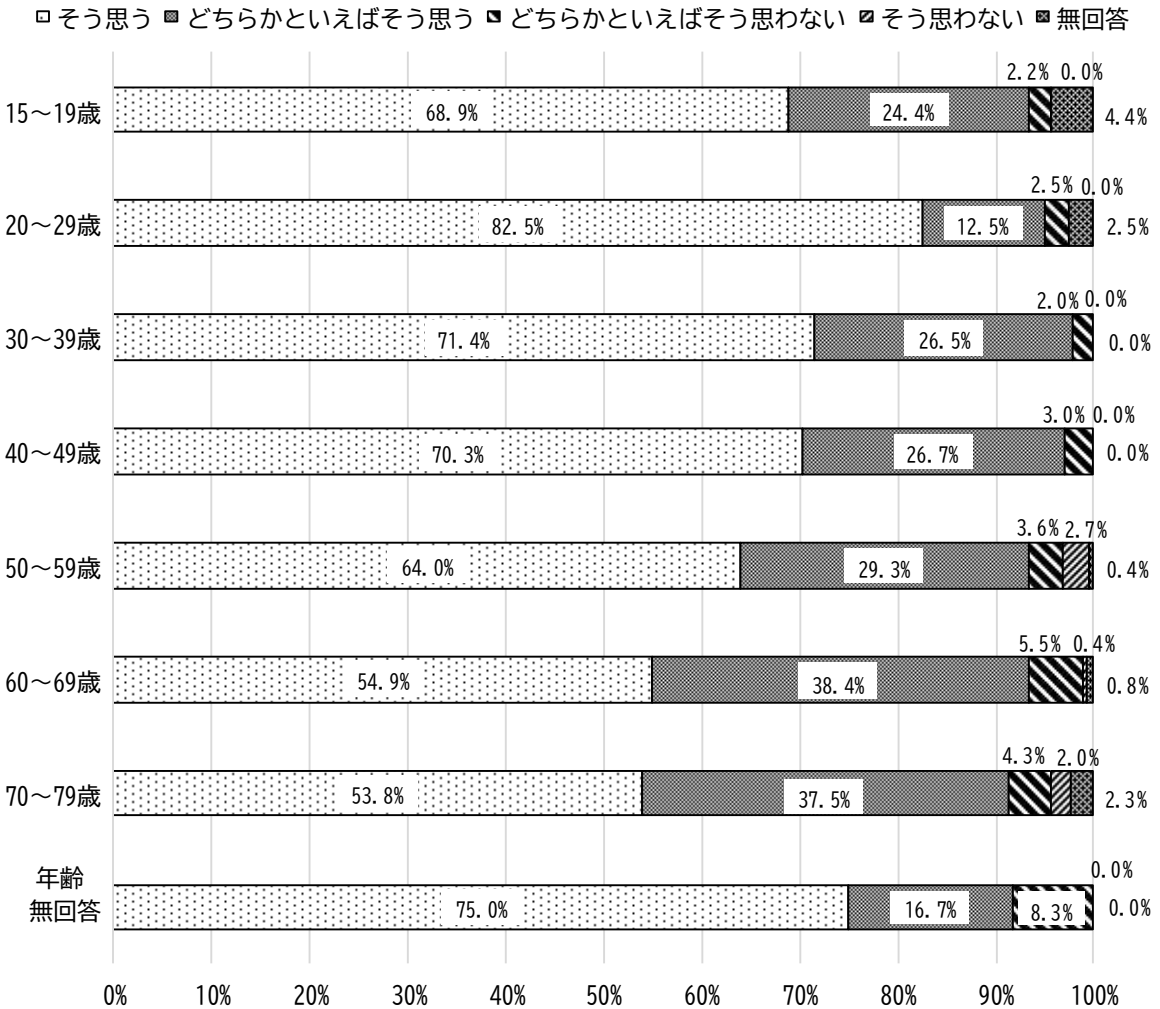


6 性的マイノリティという理由で、職場で嫌がらせや不利な扱いを受けるのは問題がある

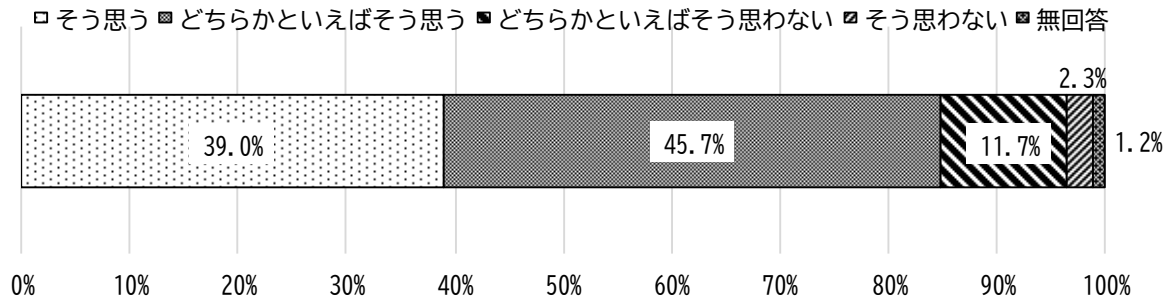


「性的マイノリティという理由で、職場で嫌がらせや不利な扱いを受けるのは問題がある」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は94.1%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は4.8%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「30～39歳」(97.9%)が最も高く、次いで「40～49歳」(97.0%)、「20～29歳」(95.0%)となっている。

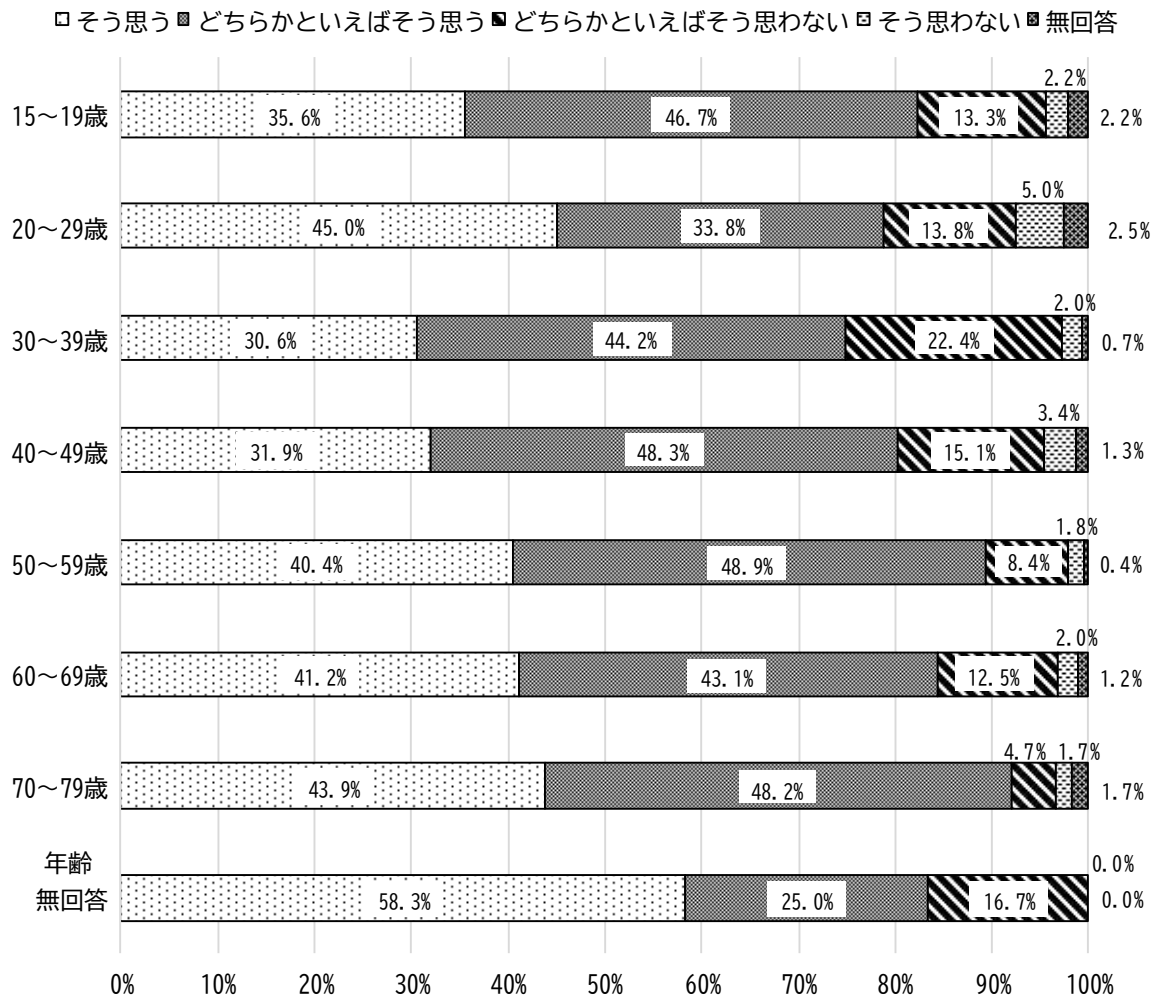


7 従業員が刑を終えて刑務所を出所した人だとわかったことで解雇されるのは問題がある



「従業員が刑を終えて刑務所を出所した人だとわかったことで解雇されるのは問題がある」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は84.7%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は14.0%となっている。

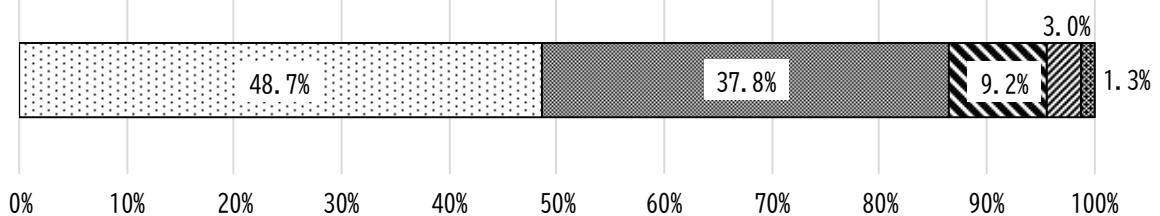
年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「70～79歳」(92.1%)が最も高く、次いで「50～59歳」(89.3%)、「60～69歳」(84.3%)となっている。



問5 家庭の生活場面での次のような意見や考え方についてどう思われますか。1～7のすべてについてお答えください。(それぞれ1つに○をつけてください)

1 自分の身内に同和地区の人との結婚話があったときには、本人の意思を尊重し結婚を祝福する

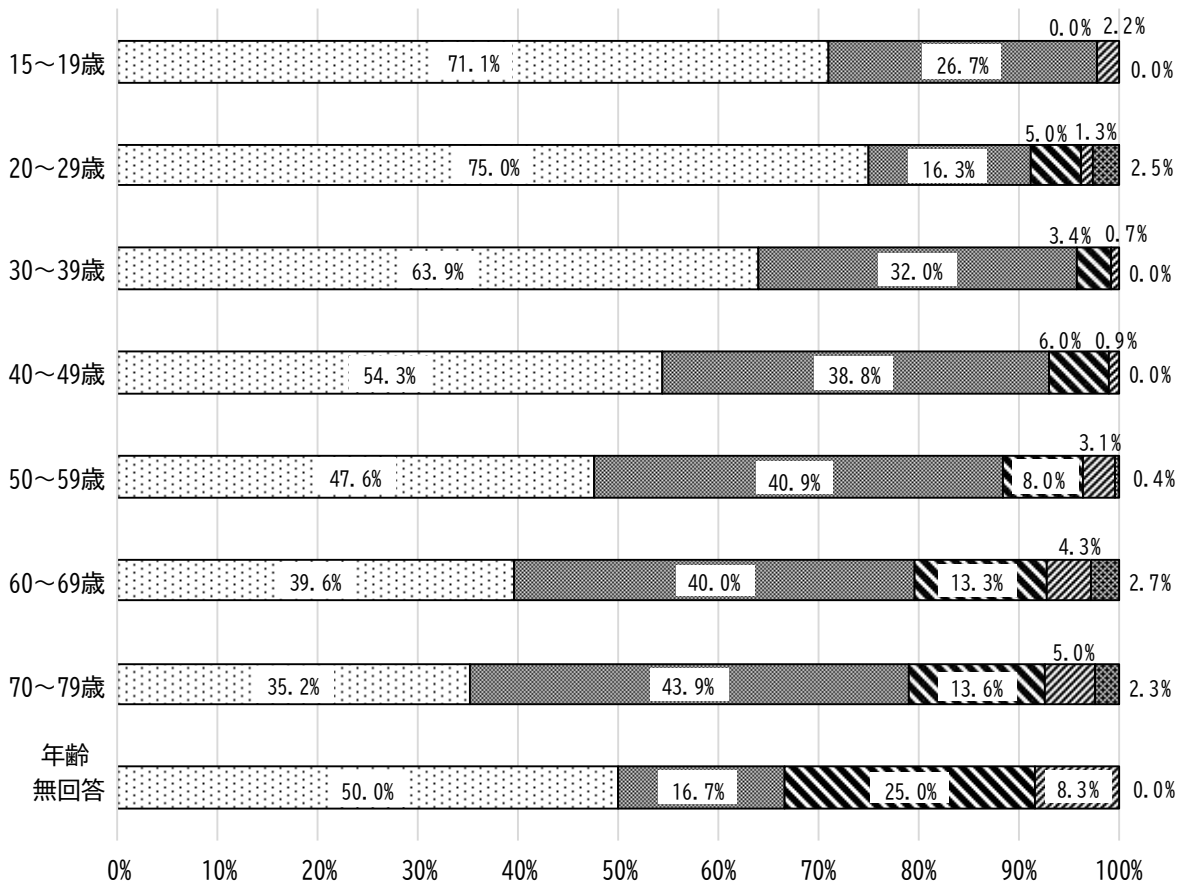
□ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ▨ どちらかといえばそう思わない ▩ そう思わない ◻ 無回答



「自分の身内に同和地区の人との結婚話があったときには、本人の意思を尊重し結婚を祝福する」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は86.5%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は12.2%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」(97.8%)が最も高く、次いで「30～39歳」(95.9%)、「40～49歳」(93.1%)となっている。

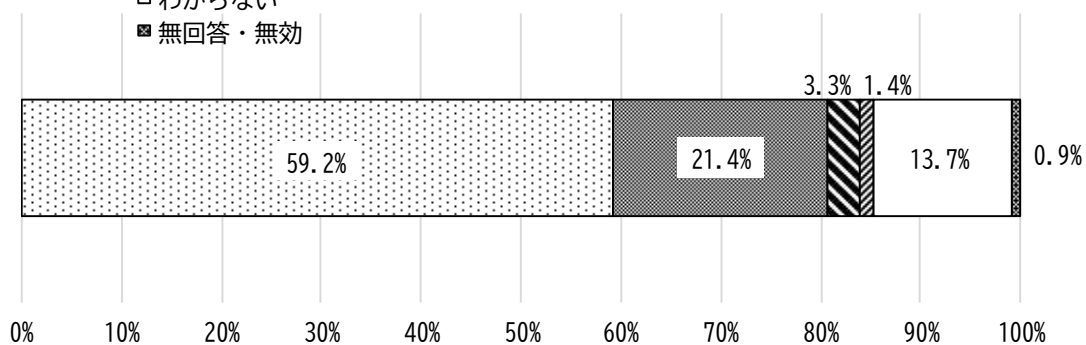
□ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ▨ どちらかといえばそう思わない ▩ そう思わない ◻ 無回答



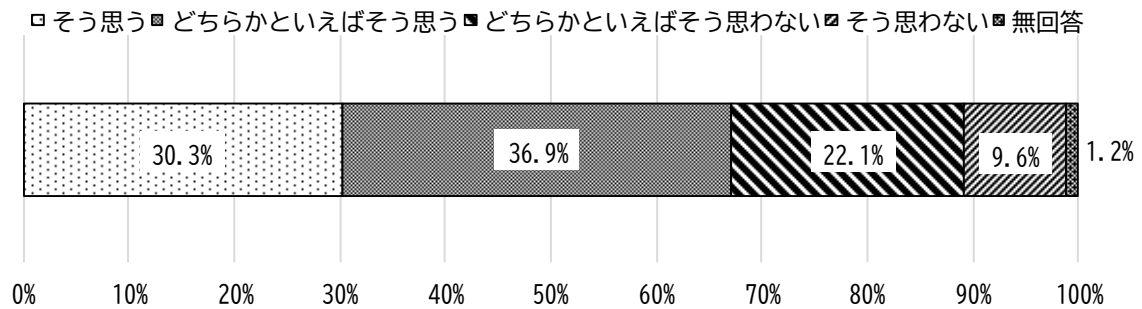
【参考】設問、選択肢の文言が前回と異なっているため、参考としてご参照ください。
前回調査（H29 調査）

もし、家族や親せきに同和地区の人との結婚話があったとき、どう思いますか。あなたの考えにいちばん近いものに、1つだけ○をつけてください。

- 本人の意思を尊重し、結婚を祝福する
- 自分としては、認めたくないが、本人の意思が強ければ結婚も仕方がない
- 家族や親せきの反対があれば、結婚は認めない
- ぜったい認めない
- わからない
- 無回答・無効

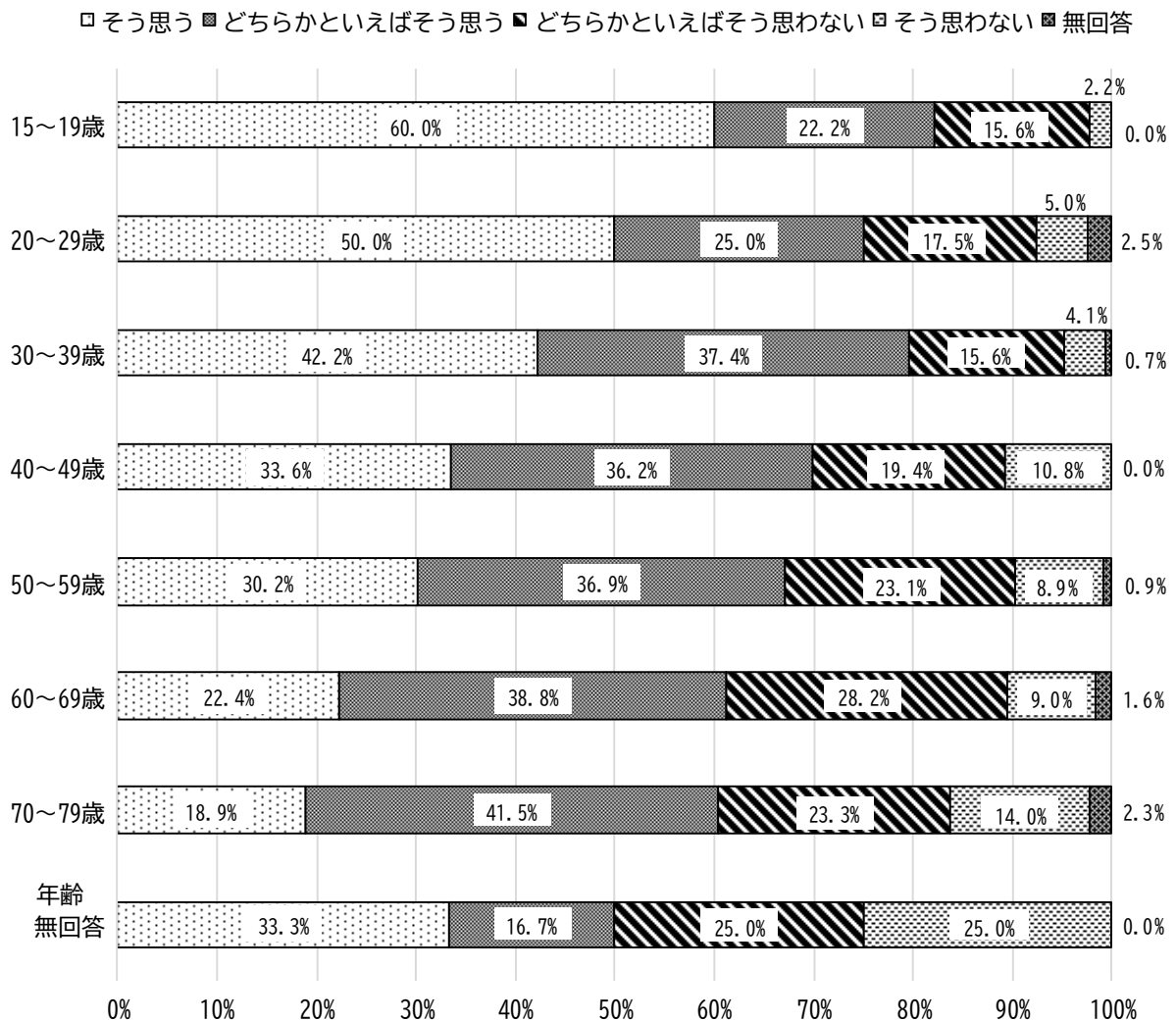


2 住居を選ぶ際に、物件が同和地区（被差別部落）にあるかどうかはこだわらない



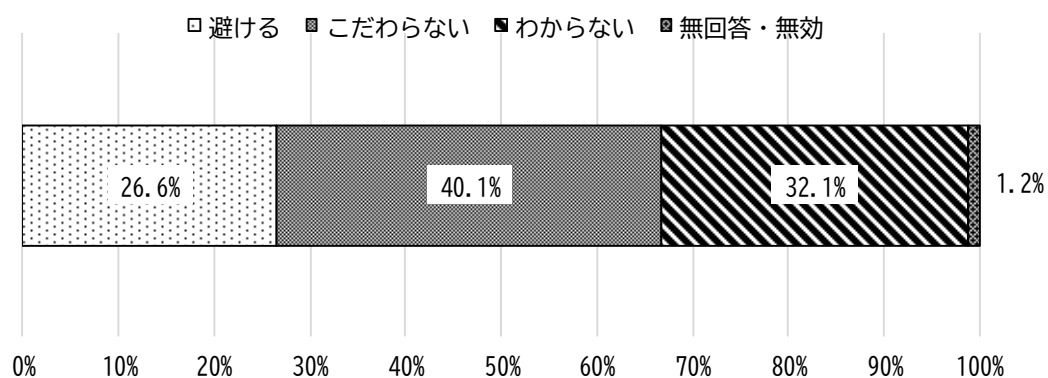
「住居を選ぶ際に、物件が同和地区（被差別部落）にあるかどうかはこだわらない」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は67.2%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は31.7%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」（82.2%）が最も高く、次いで「30～39歳」（79.6%）、「20～29歳」（75.0%）となっている。

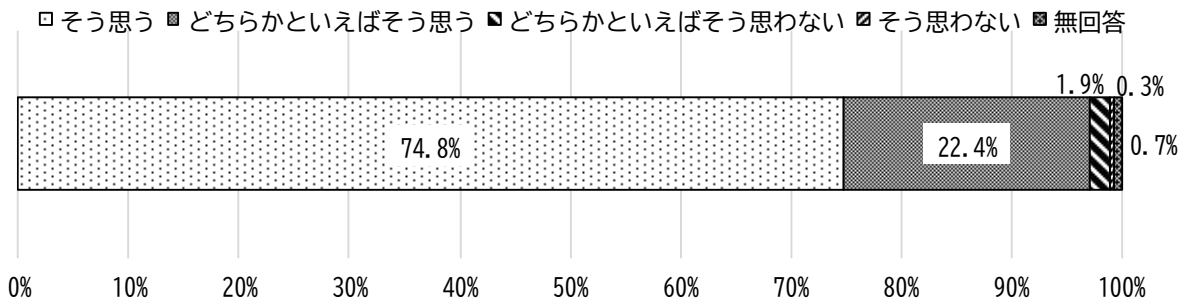


【参考】設問、選択肢の文言が前回と異なっているため、参考としてご参照ください。
前回調査（H29 調査）

家を購入したり、部屋を借りたりするなど住居を選ぶ際に、同和地区にある物件について、どう思いますか。あなたの考えにいちばん近いものに、1つだけ○をつけてください

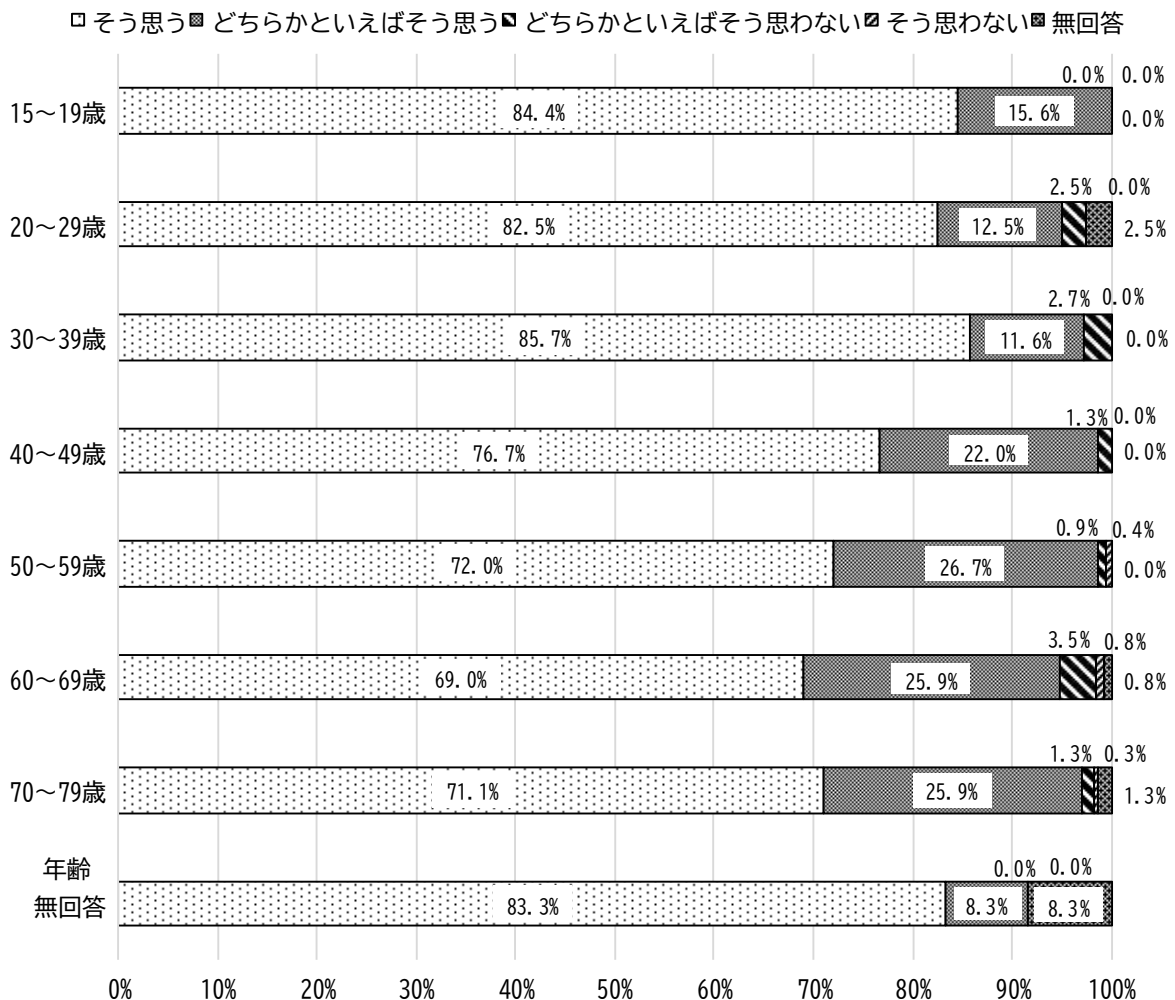


3 家事、育児、介護などは、男性・女性関係なく協力して行うのが良い

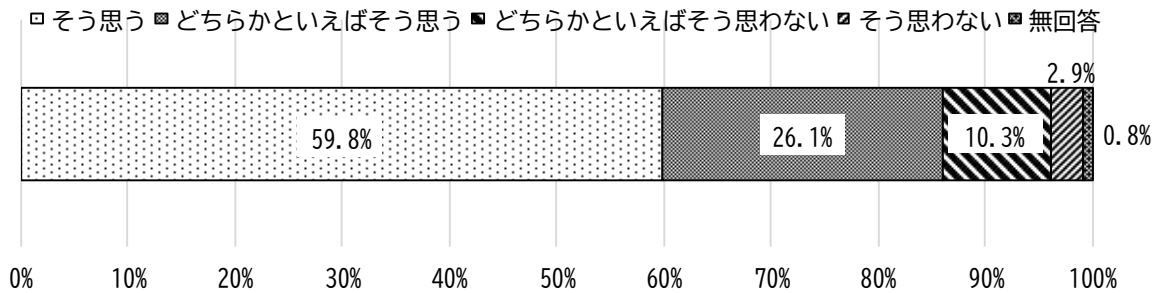


「家事、育児、介護などは、男性・女性関係なく協力して行うのが良い」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は97.2%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は2.2%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」（100.0%）が最も高く、次いで「40～49歳」「50～59歳」（98.7%）となっている。

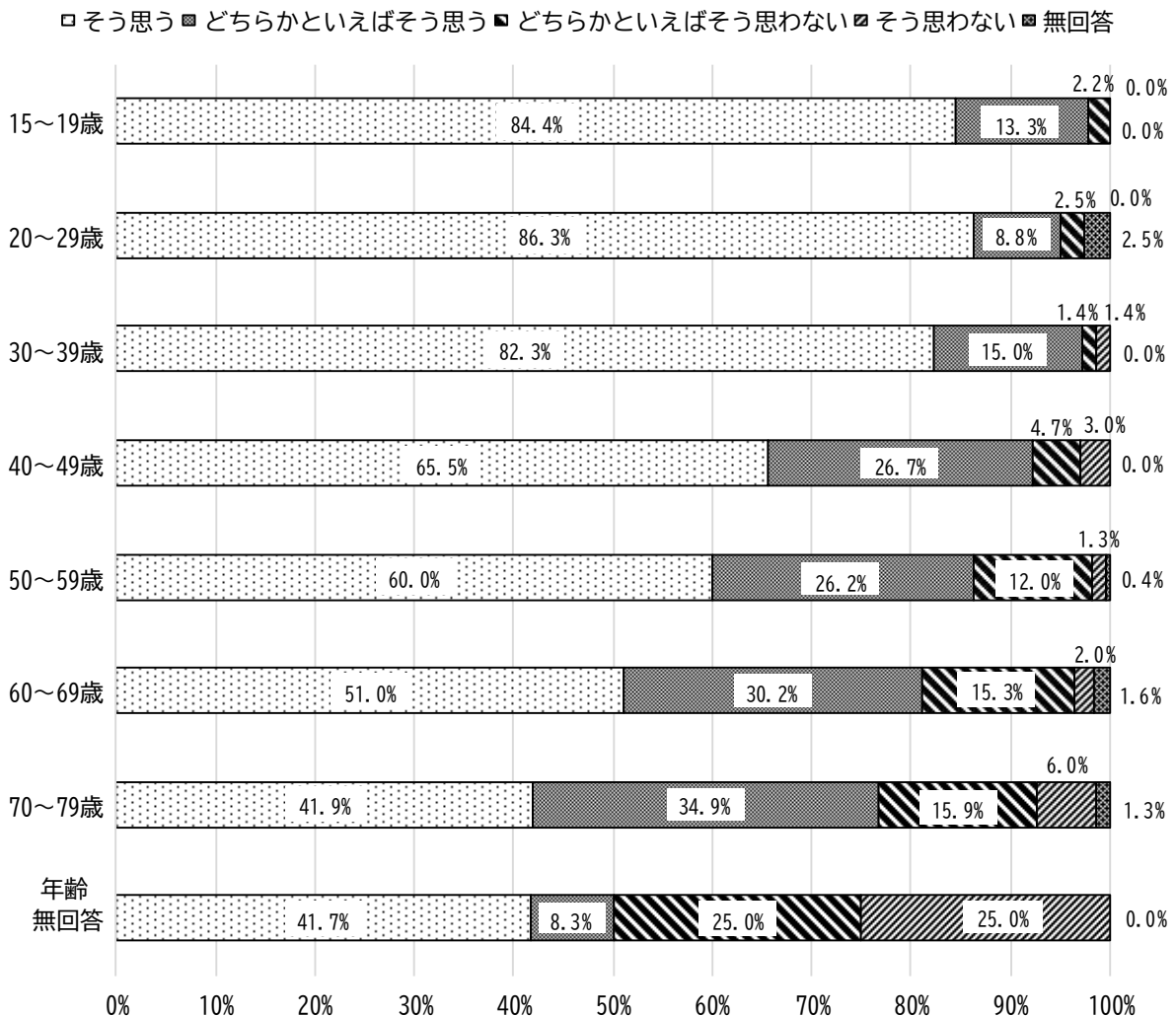


4 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくても良い

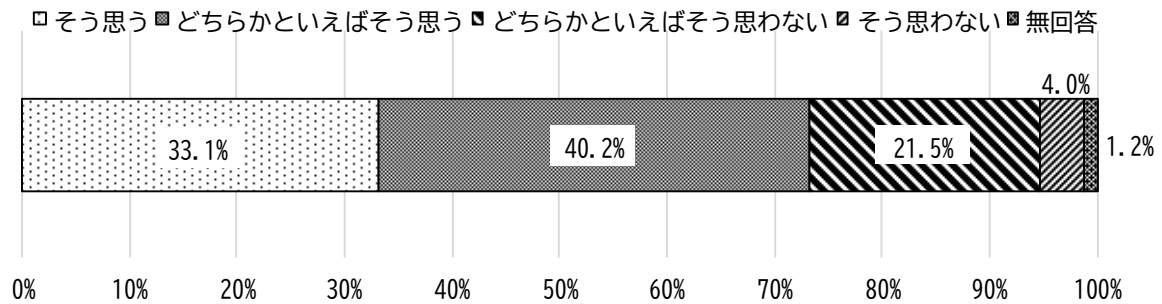


「結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくても良い」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は85.9%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は13.2%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」(97.7%)が最も高く、次いで「30～39歳」(97.3%)、「20～29歳」(95.1%)となっている。

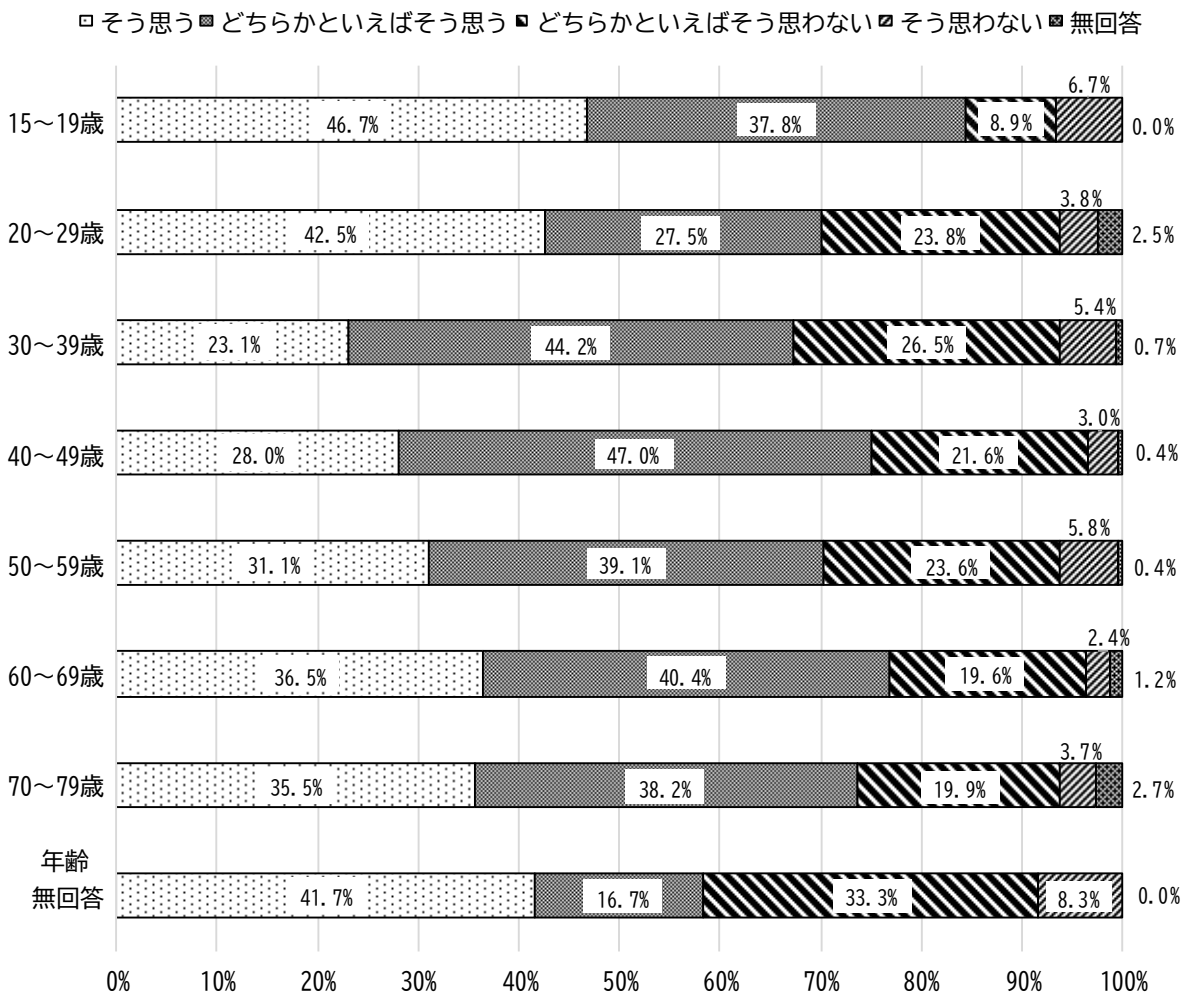


5 保護者が子どもを叩いたり怒鳴ったりするのは、しつけのためといわれても虐待である



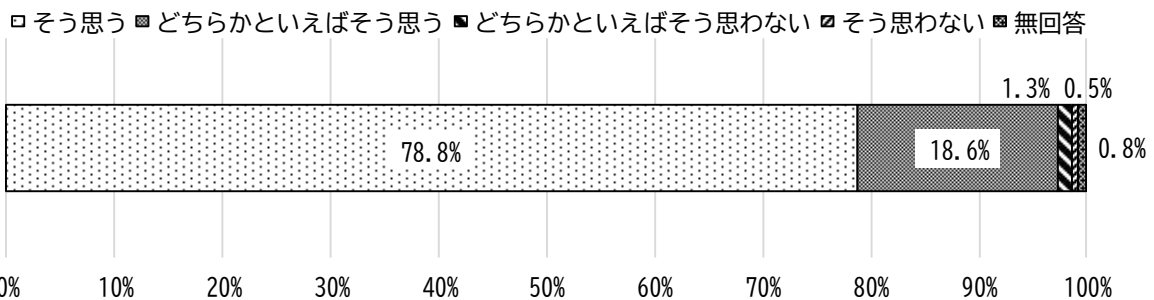
「保護者が子どもを叩いたり怒鳴ったりするのは、しつけのためといわれても虐待である」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は73.3%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は25.5%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」（84.5%）が最も高く、次いで「60～69歳」（76.9%）、「40～49歳」（75.0%）となっている。



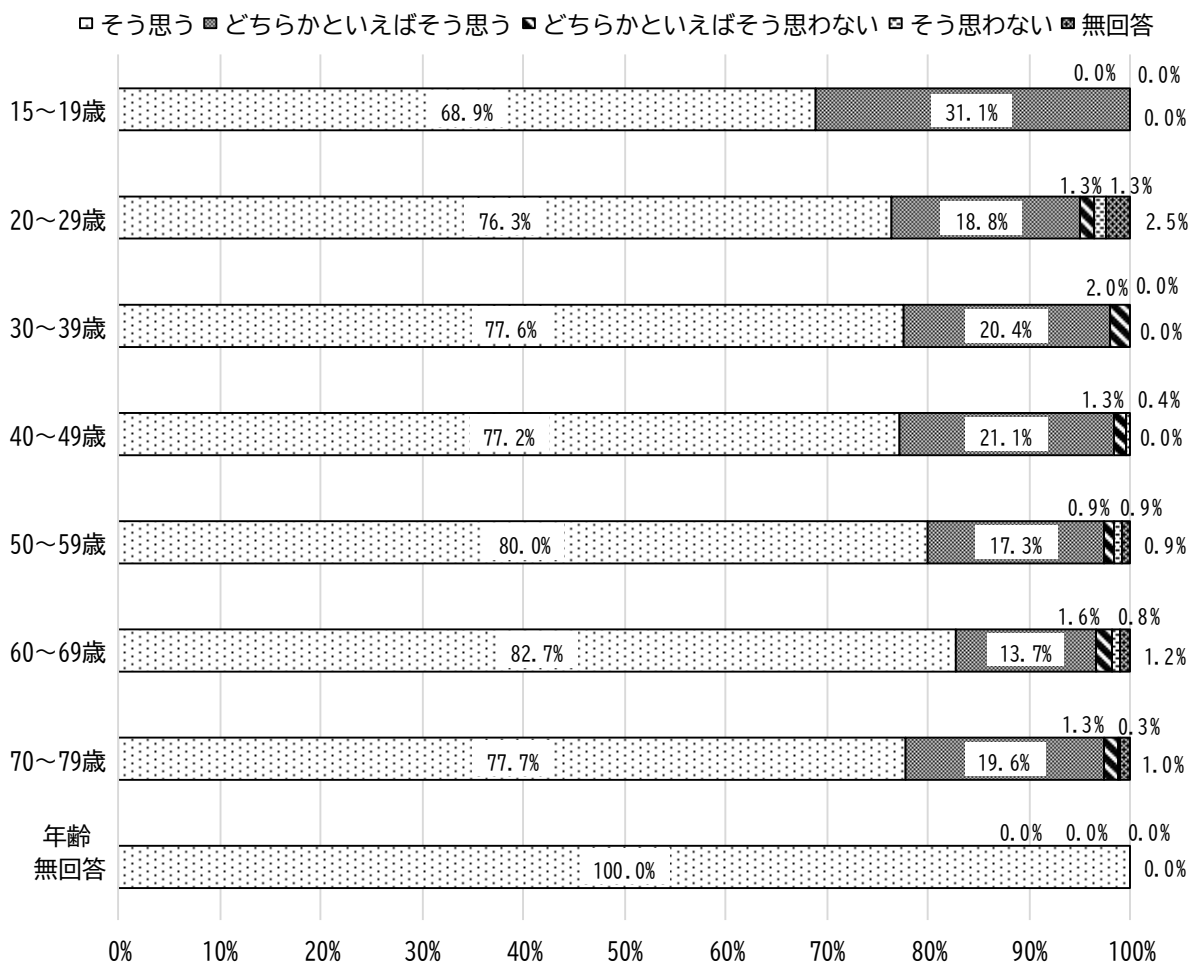
6 子どもが、過度な家事や家族の世話などを日常的に行い、学校に通えなかったり、友だちと遊べなかったりするのには問題がある

【*】このような状況にある18歳未満の子どもを「ヤングケアラー」と言う。

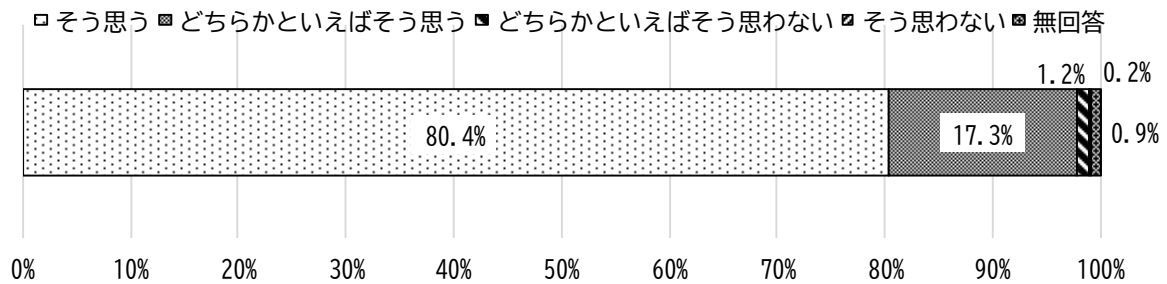


「子どもが、過度な家事や家族の世話などを日常的に行い、学校に通えなかったり、友だちと遊べなかったりするのには問題がある」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は97.4%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は1.8%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」（100.0%）が最も高く、次いで「40～49歳」（98.3%）、「30～39歳」（98.0%）となっている。

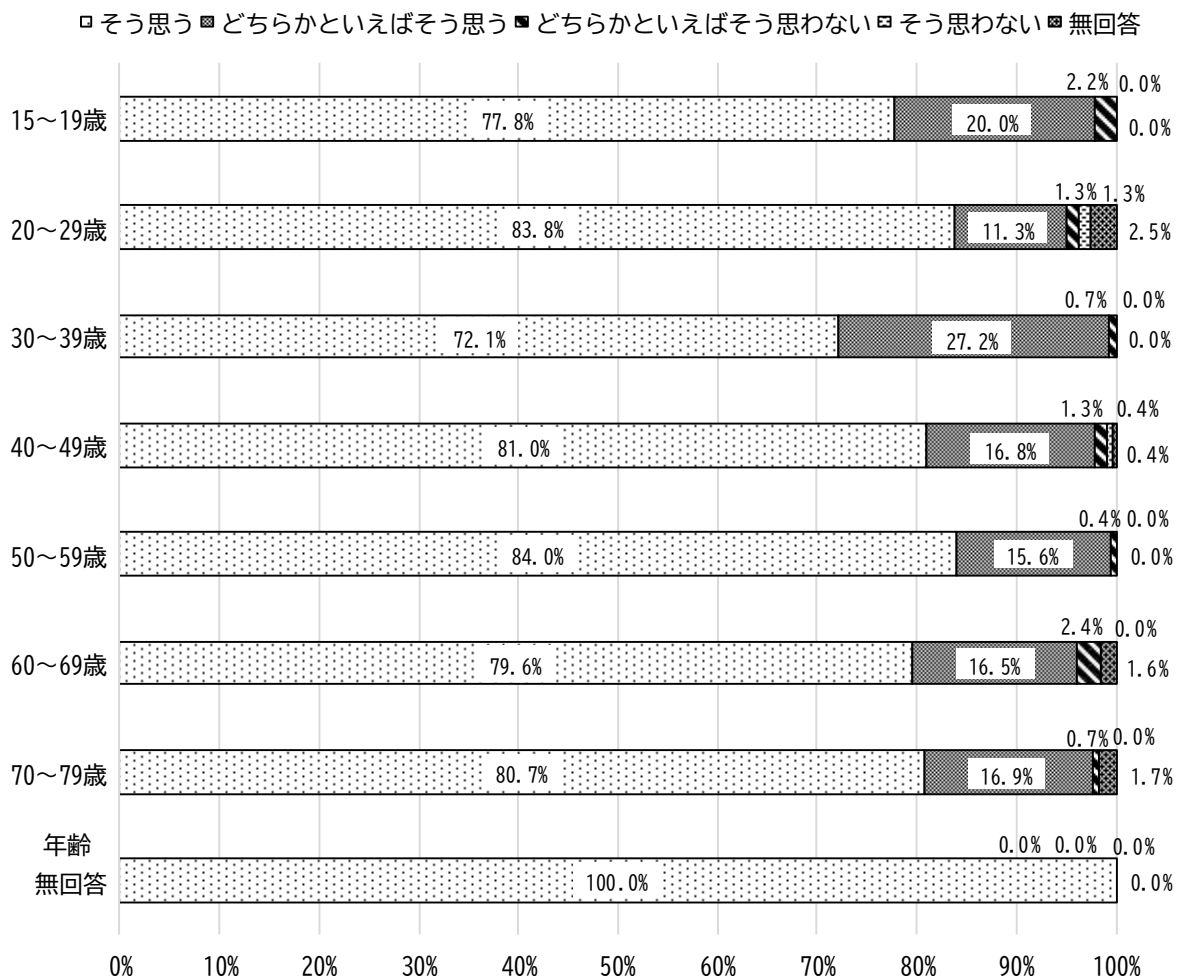


7 高齢者や障がいのある人を家庭で介護している人の負担を少なくするため、支援体制を充実させる必要がある



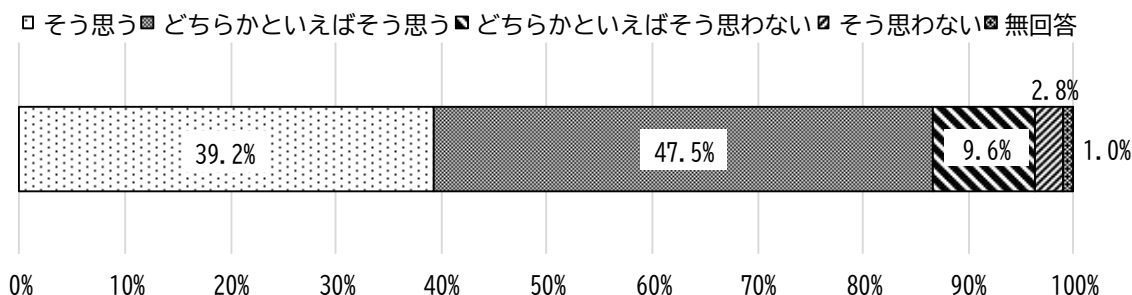
「高齢者や障がいのある人を家庭で介護している人の負担を少なくするため、支援体制を充実させる必要がある」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は97.7%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は1.4%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「50～59歳」(99.6%)が最も高く、次いで「30～39歳」(99.3%)、「15～19歳」「40～49歳」(97.8%)となっている。



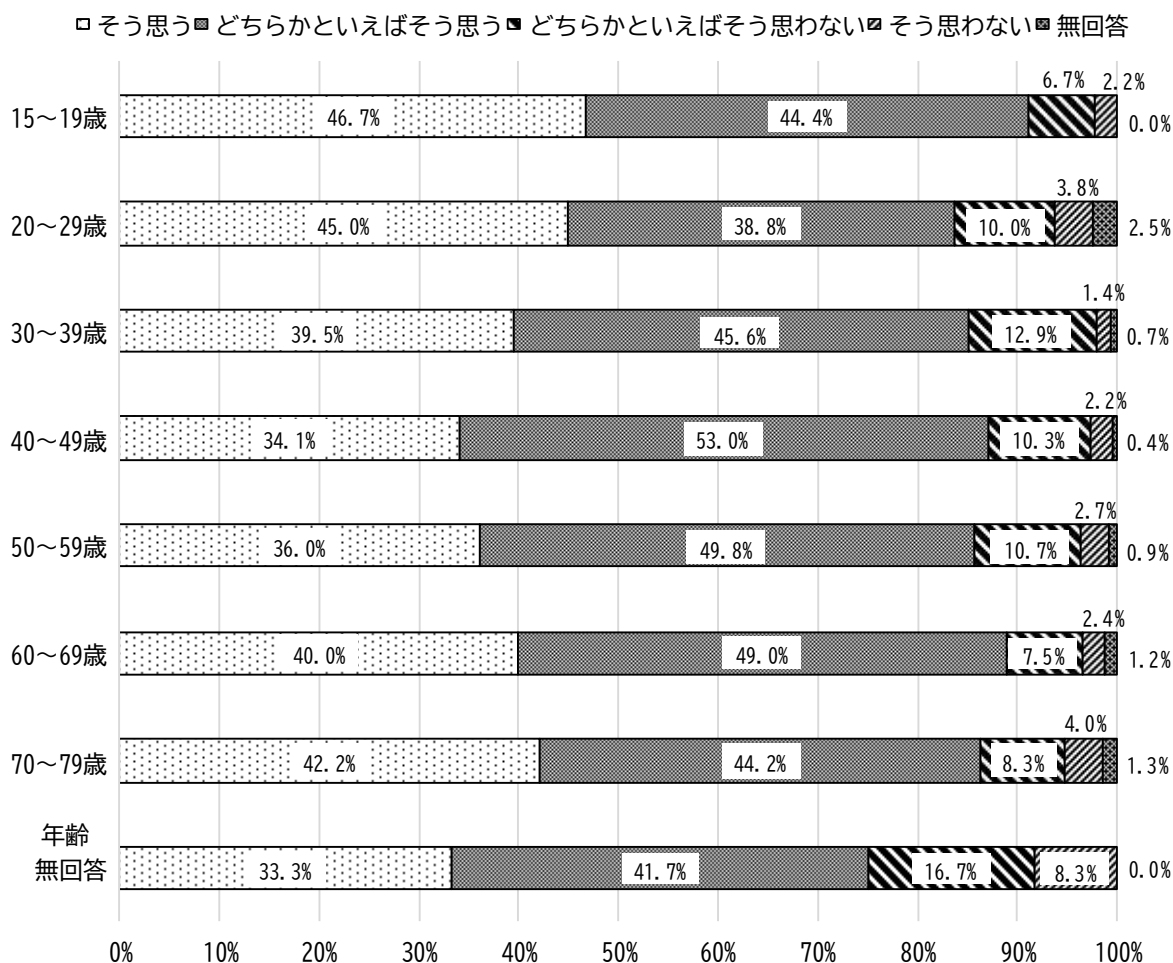
問6 社会生活の場面で次のような意見や考え方についてどう思われますか。1～7のすべてについてお答えください。(それぞれ1つに○をつけてください)

1 文化や生活習慣の違いを理由に、外国人の賃貸住宅などへの入居を拒否するのは問題がある

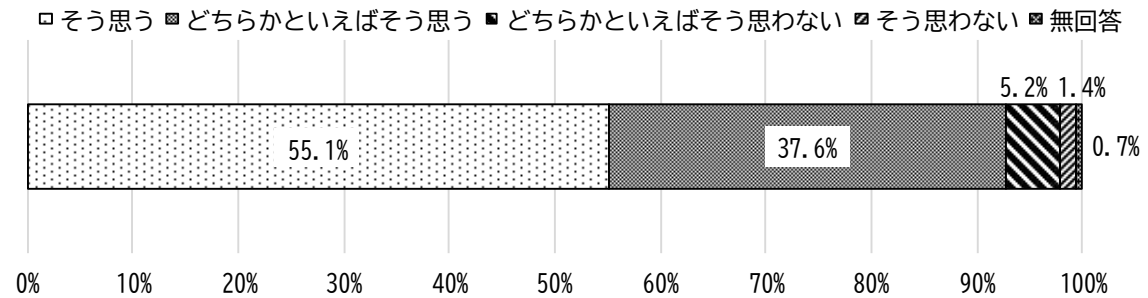


「文化や生活習慣の違いを理由に、外国人の賃貸住宅などへの入居を拒否するのは問題がある」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は86.7%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は12.4%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」(91.1%)が最も高く、次いで「60～69歳」(89.0%)、「40～49歳」(87.1%)となっている。

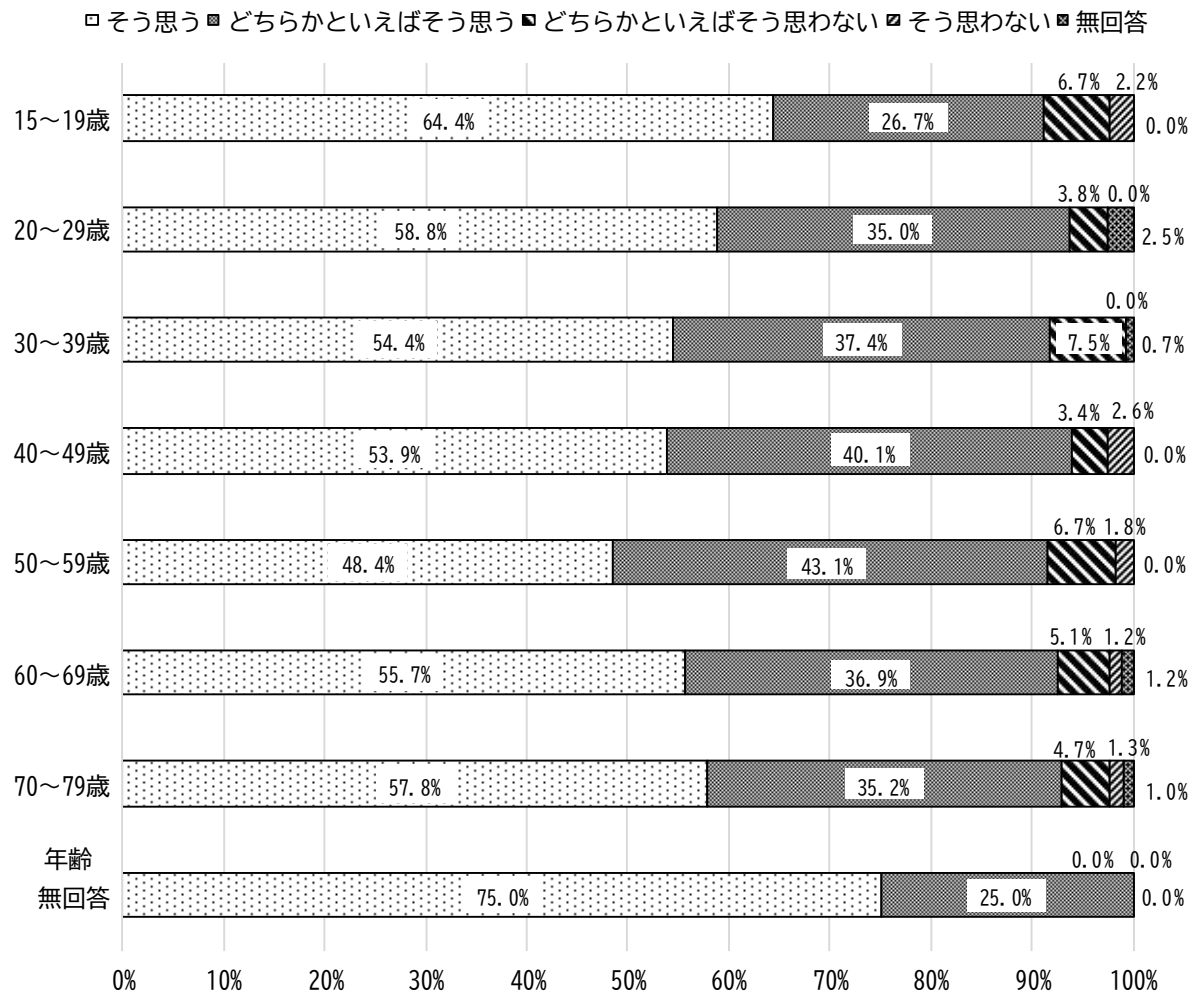


2 障がいのある人に対して、店や施設の利用など、サービスの提供や賃貸住宅などへの入居を拒否するのは問題がある

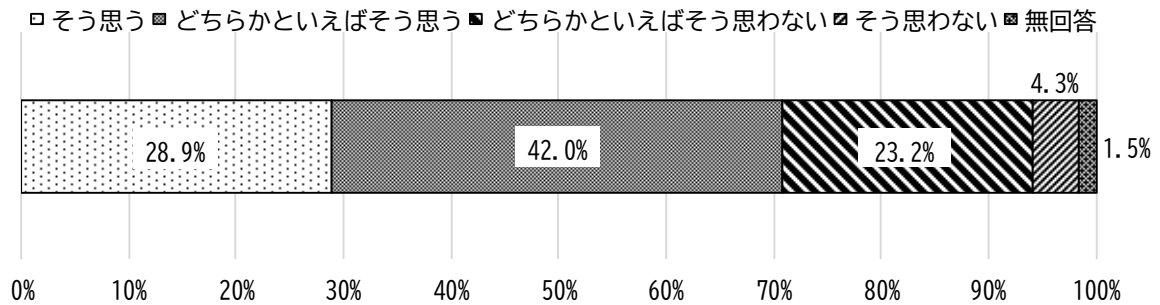


「障がいのある人に対して、店や施設の利用など、サービスの提供や賃貸住宅などへの入居を拒否するのは問題がある」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は92.7%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は6.6%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「40～49歳」（94.0%）が最も高く、次いで「20～29歳」（93.8%）、「70～79歳」（93.0%）となっている。

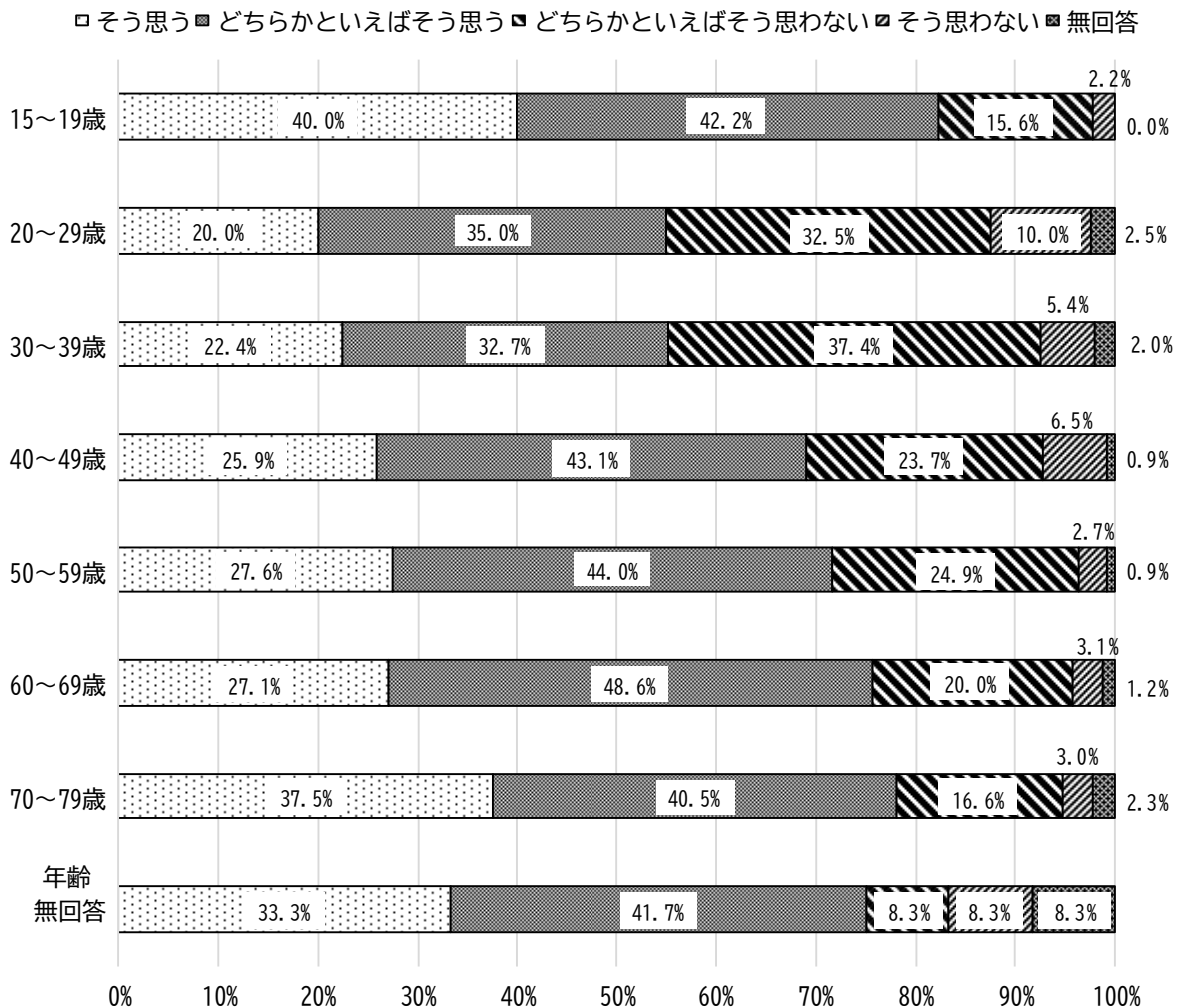


3 認知症の高齢者の徘徊を防ぐため、体を拘束することは高齢者の人権を侵害している

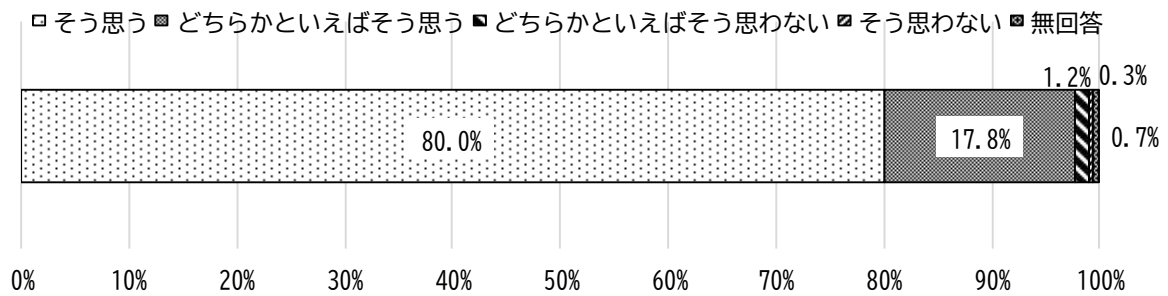


「認知症の高齢者の徘徊を防ぐため、体を拘束することは高齢者の人権を侵害している」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は70.9%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は27.5%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」(82.2%)が最も高く、次いで「70～79歳」(78.0%)、「60～69歳」(75.7%)となっている。

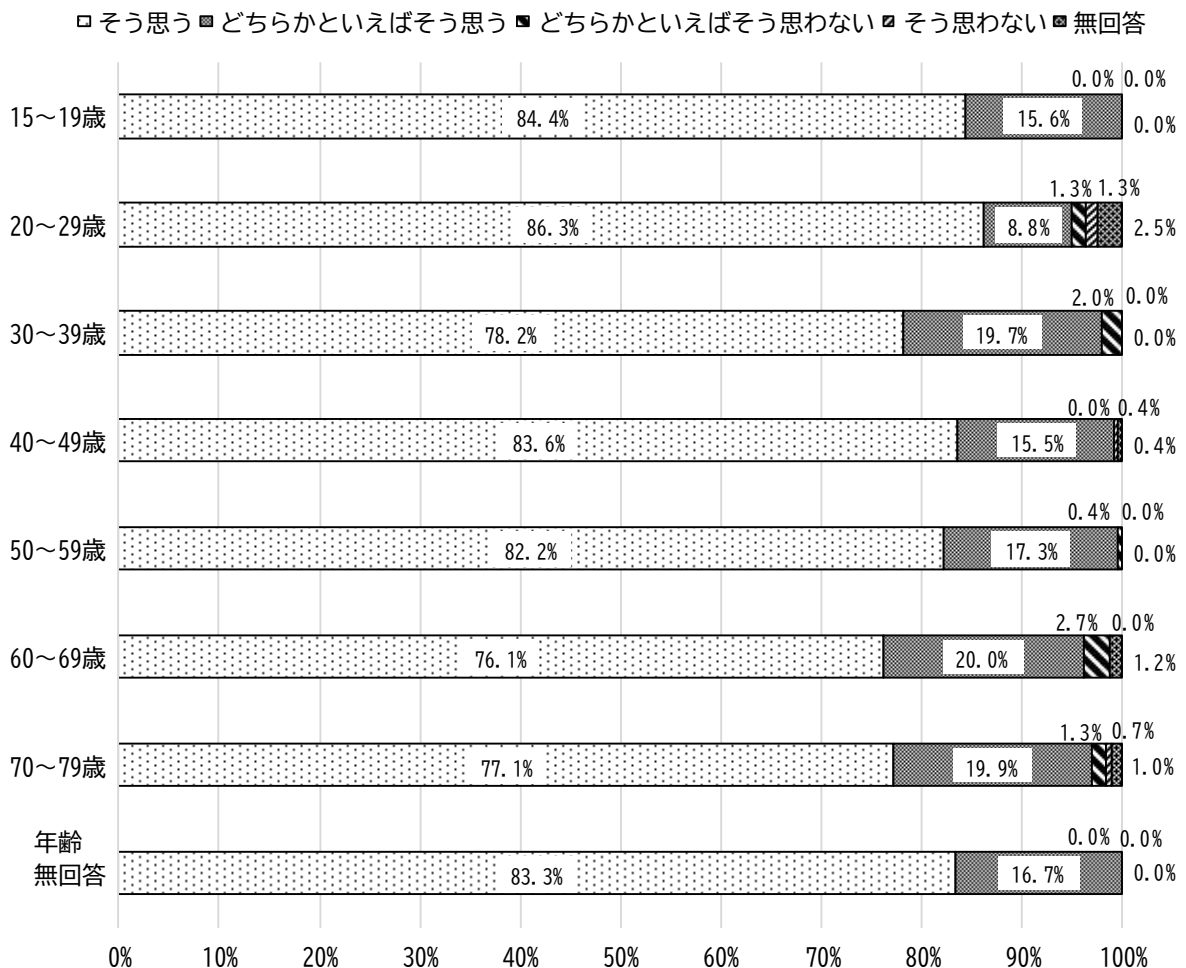


4 新型コロナウイルスへの感染者やその家族のほか、医療機関や学校、職場など関係する様々な人や機関への中傷や差別は許されない

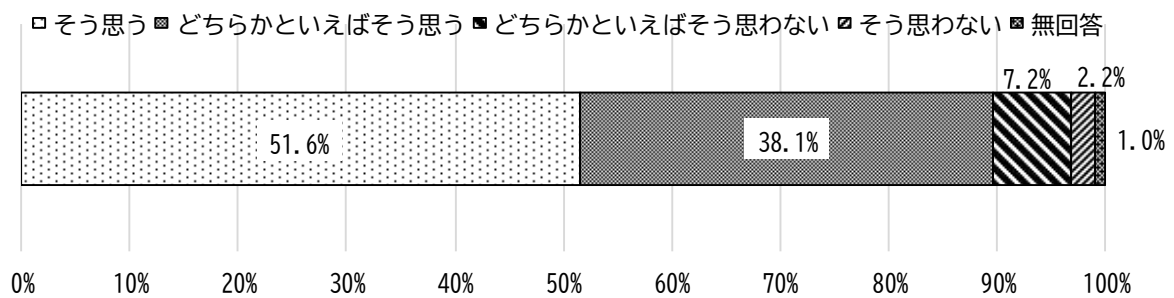


「新型コロナウイルスへの感染者やその家族のほか、医療機関や学校、職場など関係する様々な人や機関への中傷や差別は許されない」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は97.8%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は1.5%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」（100.0%）が最も高く、次いで「50～59歳」（99.5%）、「40～49歳」（99.1%）となっている。

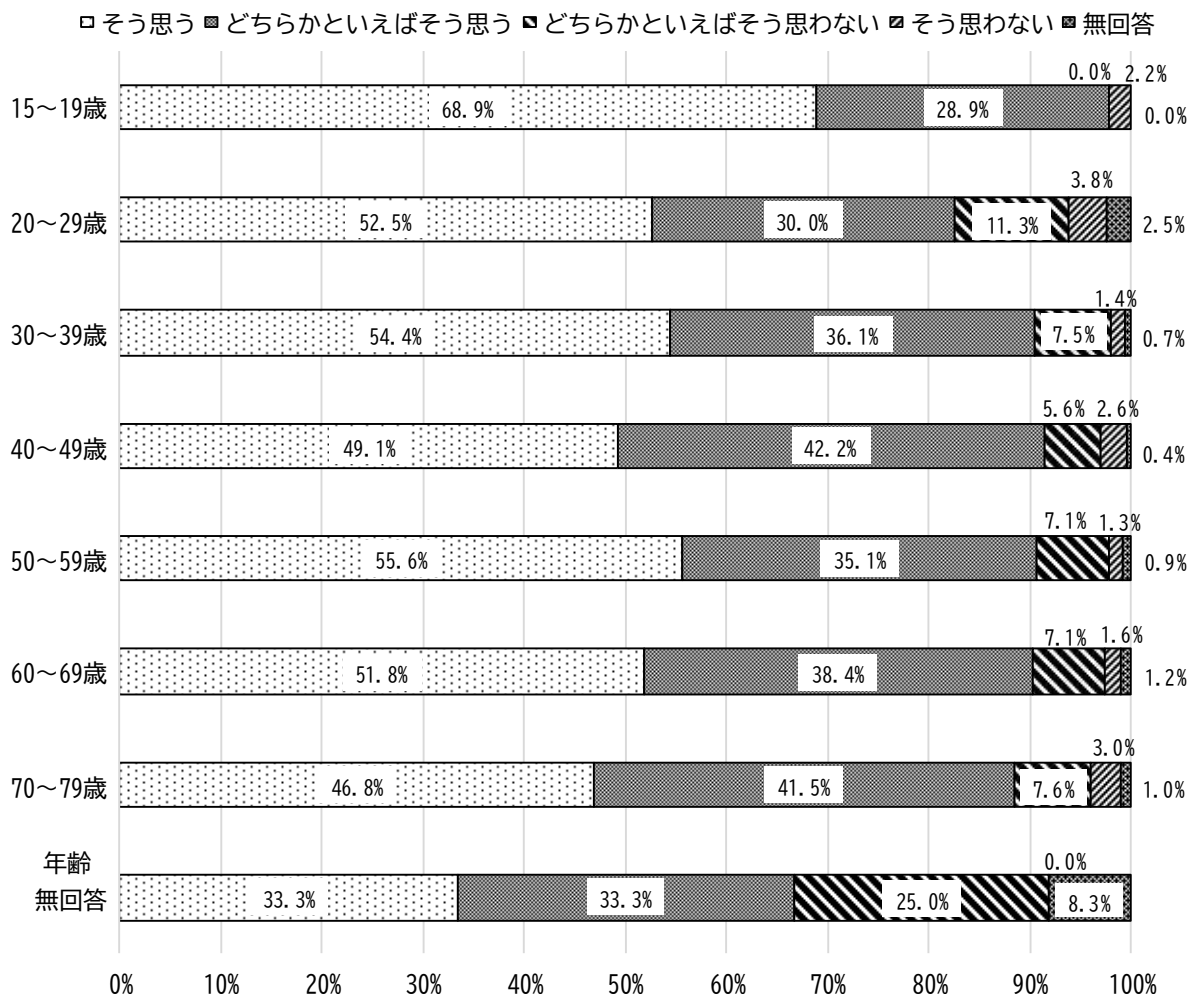


5 ホテルや旅館が、ハンセン病回復者やH I V感染者などの宿泊を断ることは、病気についての理解不足であり対応に問題がある

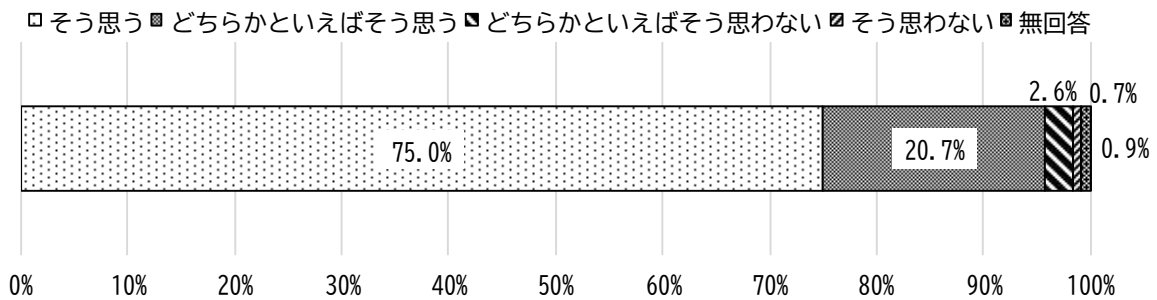


「ホテルや旅館が、ハンセン病回復者やH I V感染者などの宿泊を断ることは、病気についての理解不足であり対応に問題がある」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は89.7%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は9.4%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」(97.8%)が最も高く、次いで「40～49歳」(91.3%)、「50～59歳」(90.7%)となっている。

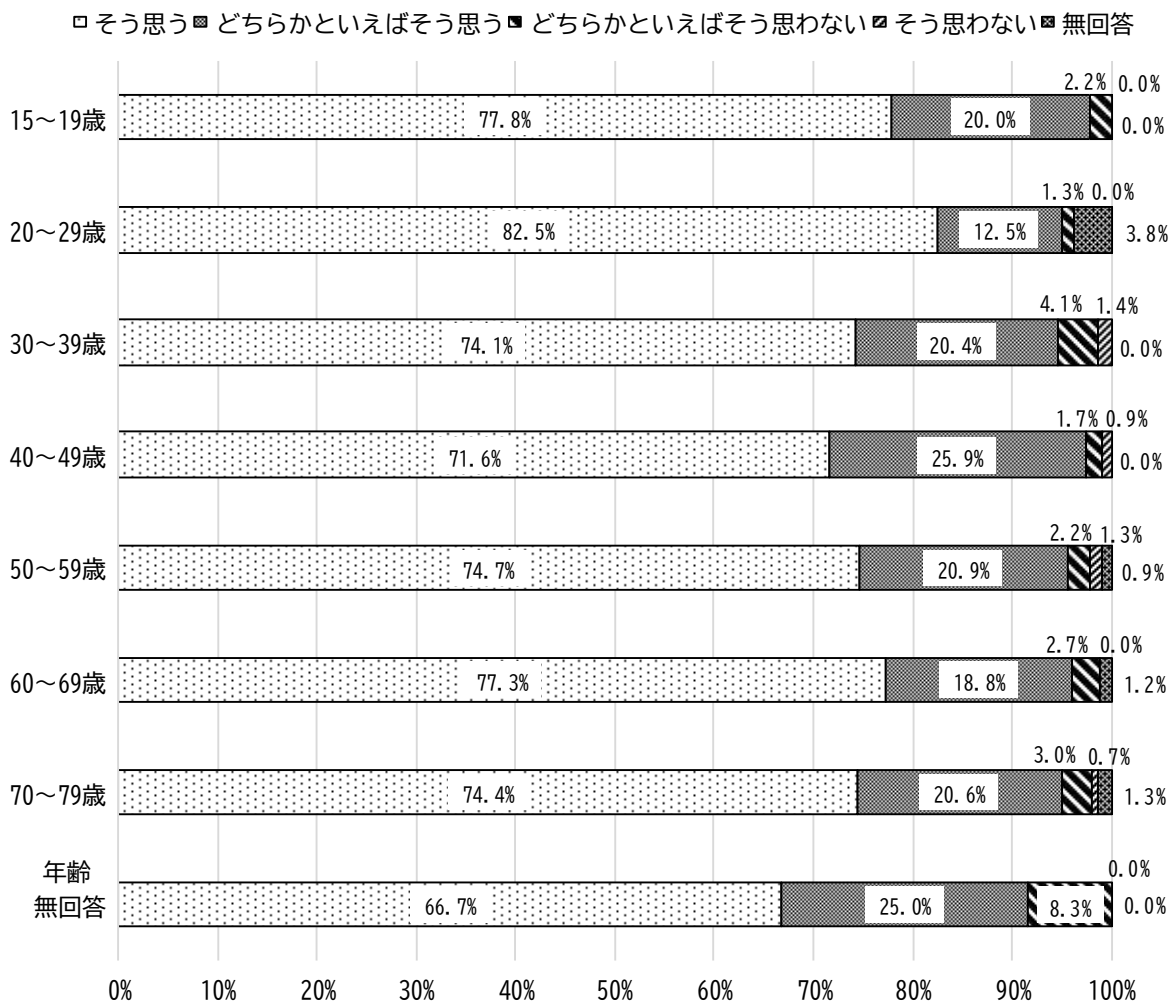


6 知人から性的マイノリティであることを告白され、そのことを本人の同意を得ずに他の人に教えることはあってはならない

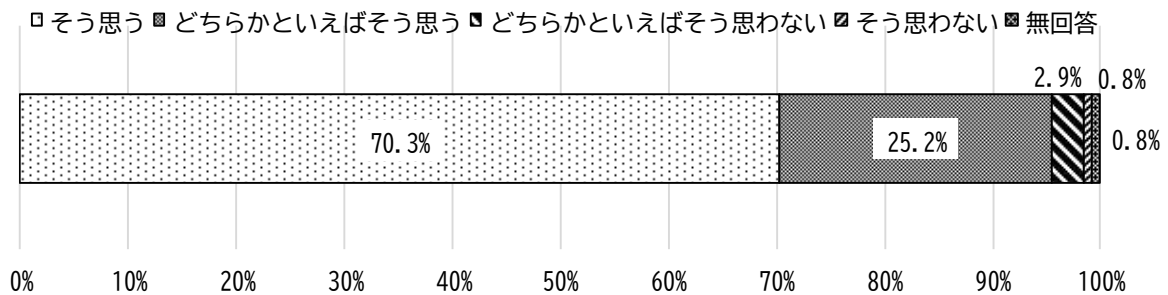


「知人から性的マイノリティであることを告白され、そのことを本人の同意を得ずに他の人に教えることはあってはならない」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は95.7%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は3.3%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」(97.8%)が最も高く、次いで「40～49歳」(97.5%)、「60～69歳」(96.1%)となっている。

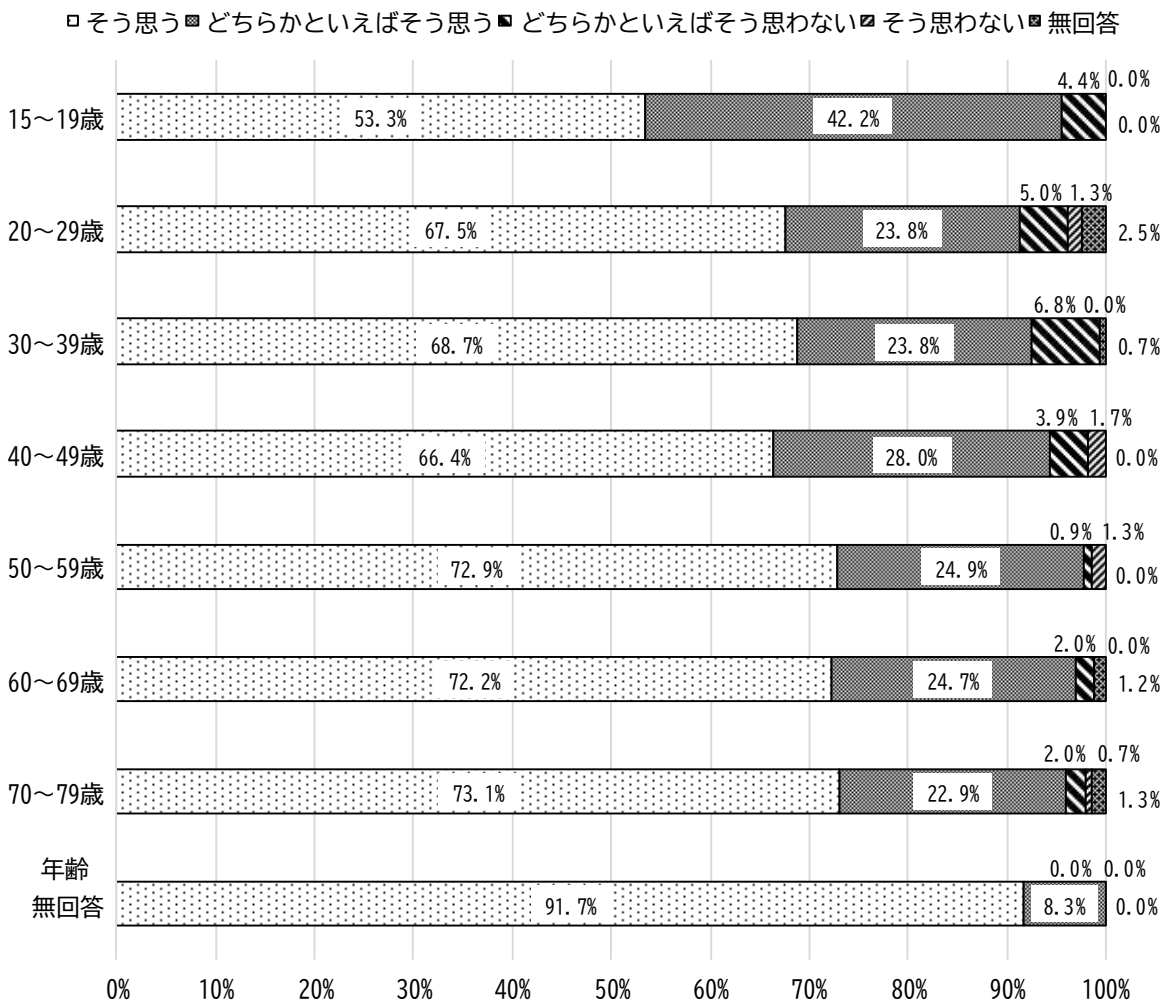


7 災害などの緊急時に、日本語がわからない外国人や、聴覚や視覚に障がいがある人への対応がおろそかになるのは問題がある



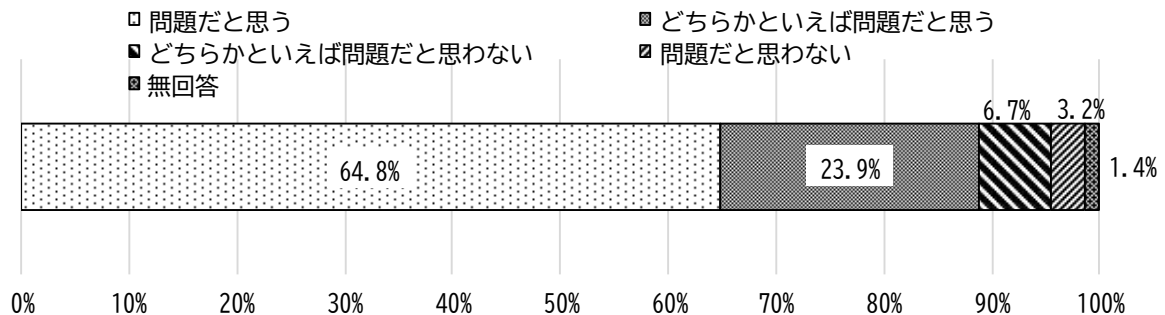
「災害などの緊急時に、日本語がわからない外国人や、聴覚や視覚に障がいがある人への対応がおろそかになるのは問題がある」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は95.5%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は3.7%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「50～59歳」(97.8%)が最も高く、次いで「60～69歳」(96.9%)、「70～79歳」(96.0%)となっている。



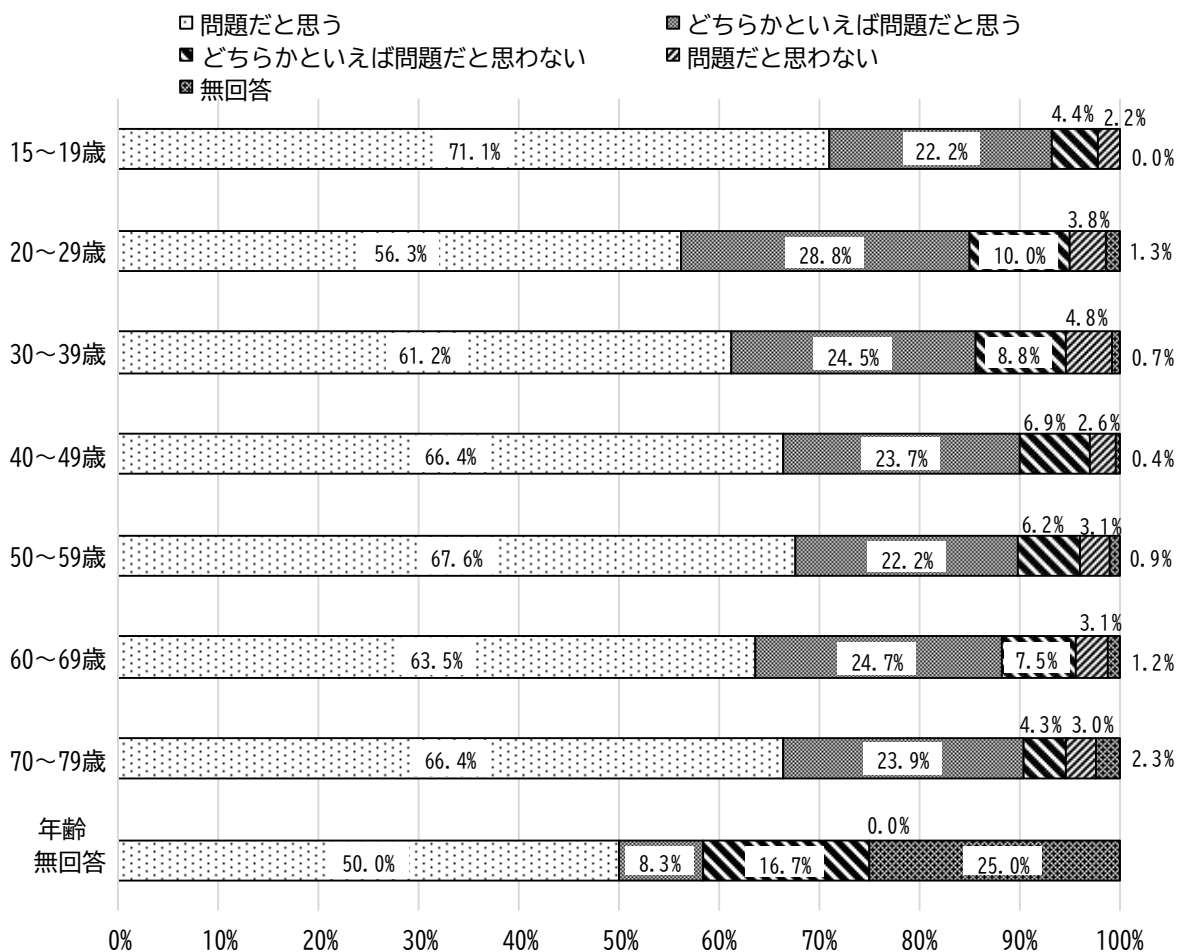
問7 インターネット上での次のような書き込みやそれを拡散する行為についてどう思われますか。1～6のすべてについてお答えください。（それぞれ1つに○をつけてください）

1 同和地区（被差別部落）の地名や所在地を明らかにする

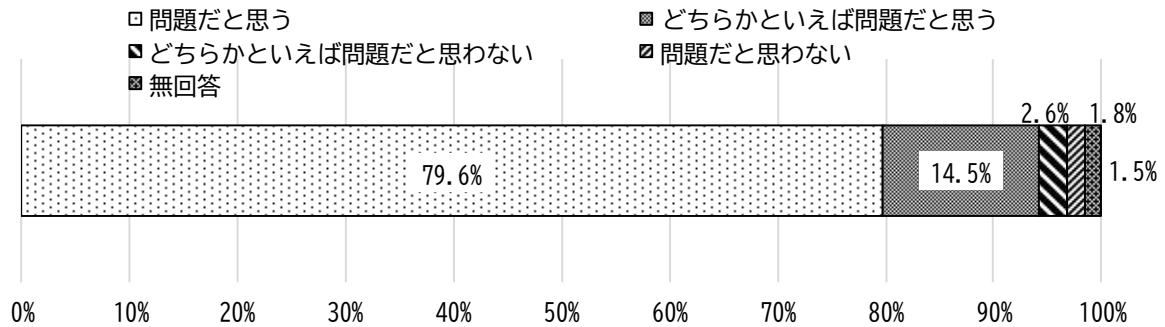


「同和地区（被差別部落）の地名や所在地を明らかにする」については、「問題だと思う」「どちらかといえば問題だと思う」と答えた人の割合は88.7%、「問題だと思わない」「どちらかといえば問題だと思わない」と答えた人の割合は9.9%となっている。

年齢別でみると、「問題だと思う」「どちらかといえば問題だと思う」と答えた人の割合は「15～19歳」（93.3%）が最も高く、次いで「70～79歳」（90.3%）、「40～49歳」（90.1%）となっている。

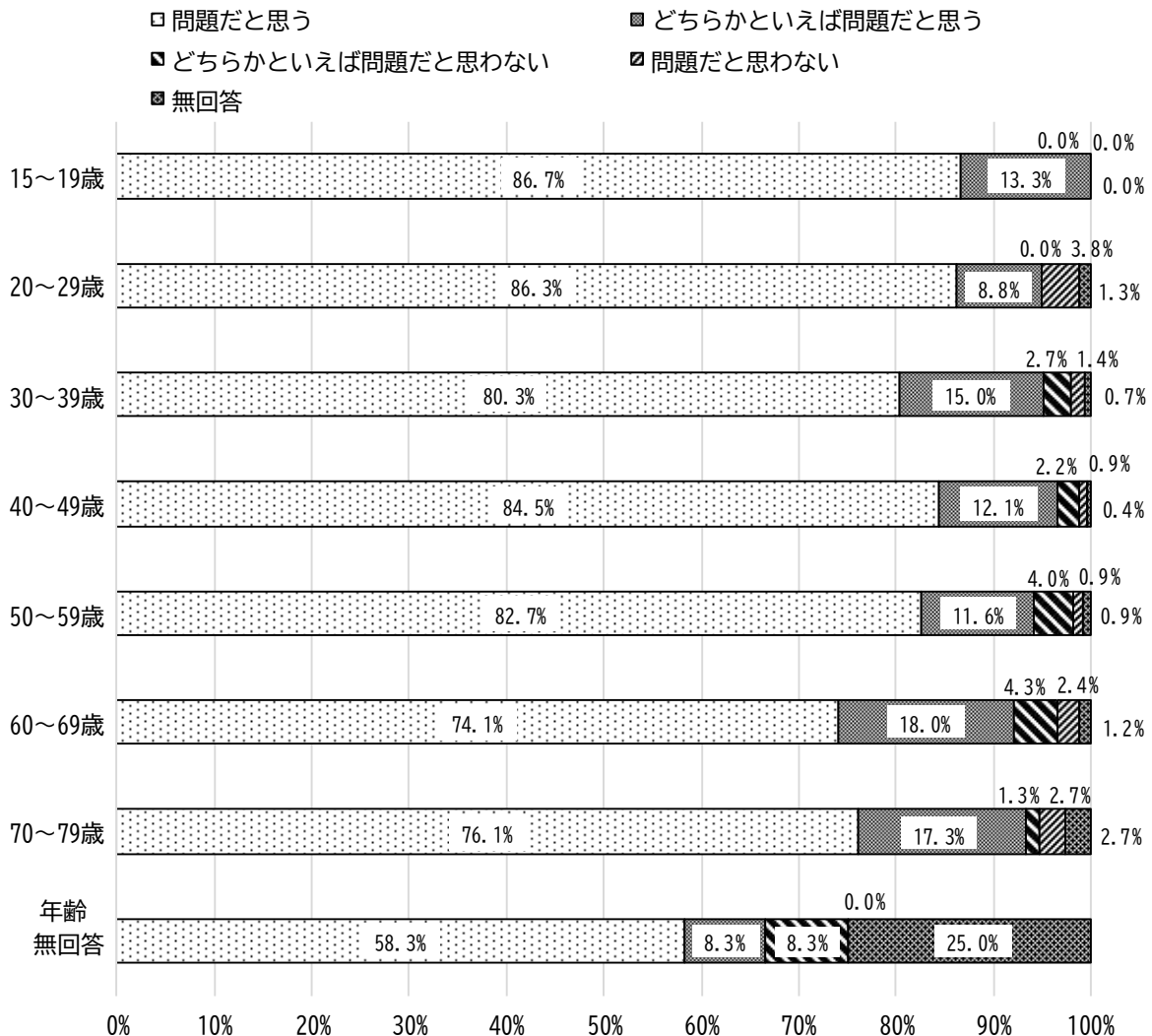


2 同和地区（被差別部落）出身者の名前や所在を明らかにする

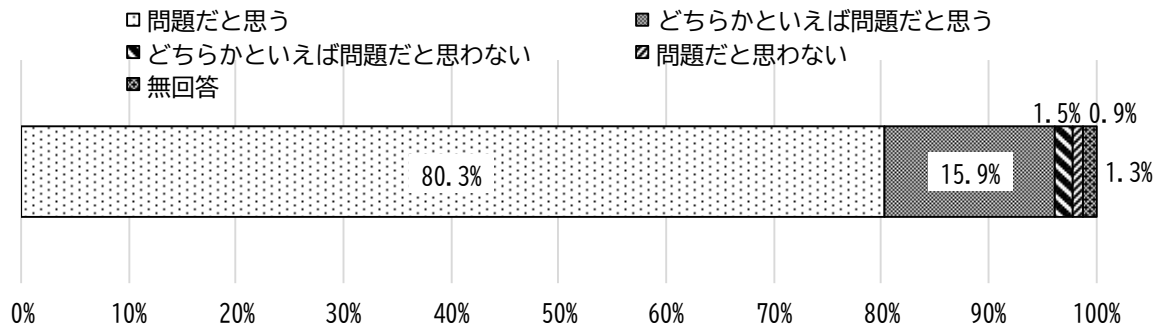


「同和地区（被差別部落）出身者の名前や所在を明らかにする」については、「問題だと思う」「どちらかといえば問題だと思う」と答えた人の割合は94.1%、「問題だと思わない」「どちらかといえば問題だと思わない」と答えた人の割合は4.4%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」（100.0%）が最も高く、次いで「40～49歳」（96.6%）、「30～39歳」（95.3%）となっている。

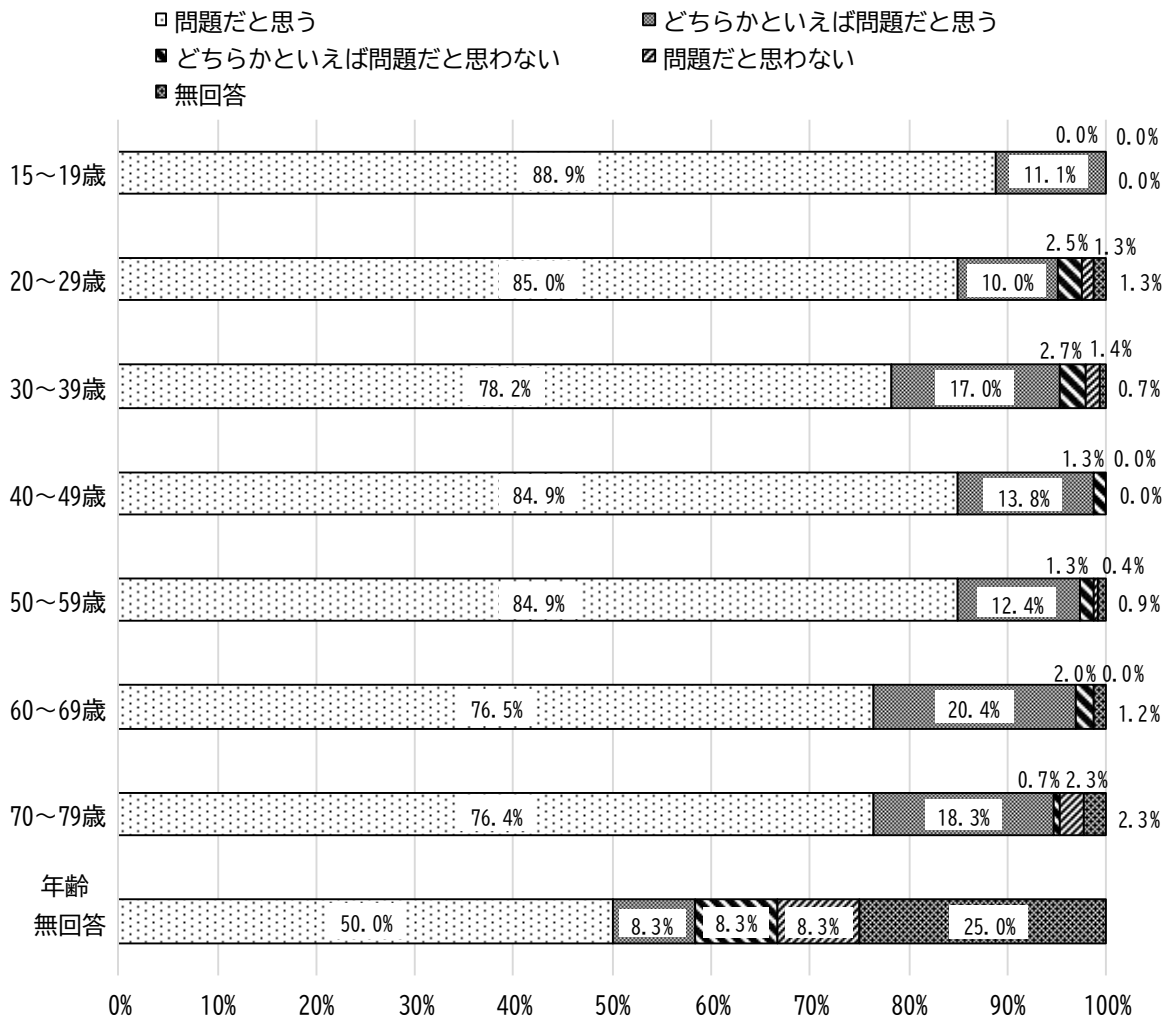


3 同和地区（被差別部落）に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げる

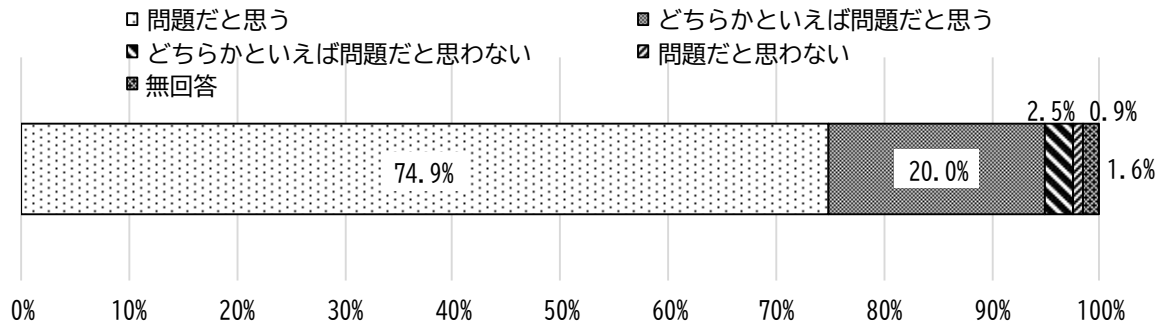


「同和地区（被差別部落）に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げる」については、「問題だと思う」「どちらかといえば問題だと思う」と答えた人の割合は96.2%、「問題だと思わない」「どちらかといえば問題だと思わない」と答えた人の割合は2.4%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」（100.0%）が最も高く、次いで「40～49歳」（98.7%）、「50～59歳」（97.3%）となっている。

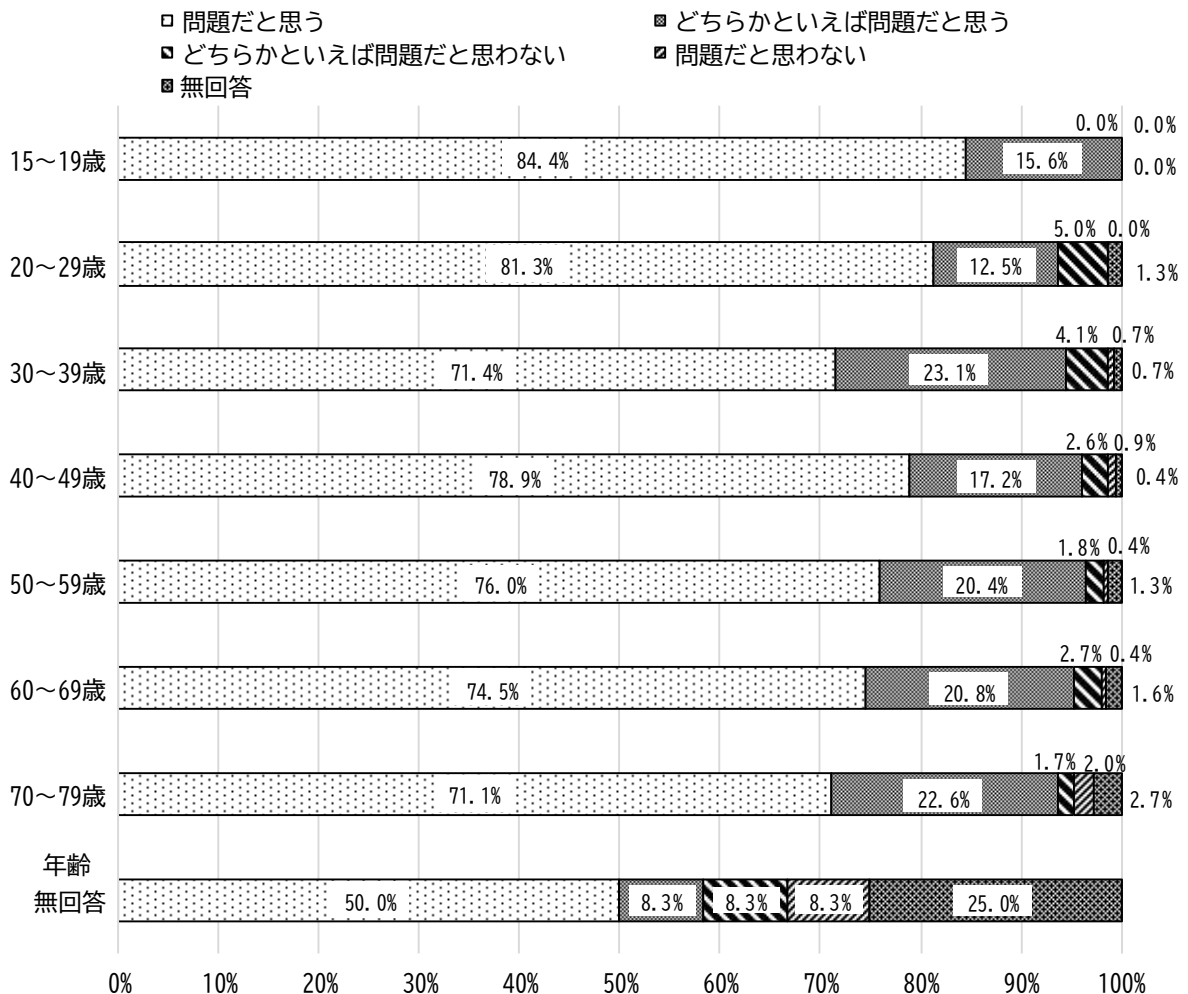


4 日本に住む外国人（在日韓国・朝鮮人など）に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げる

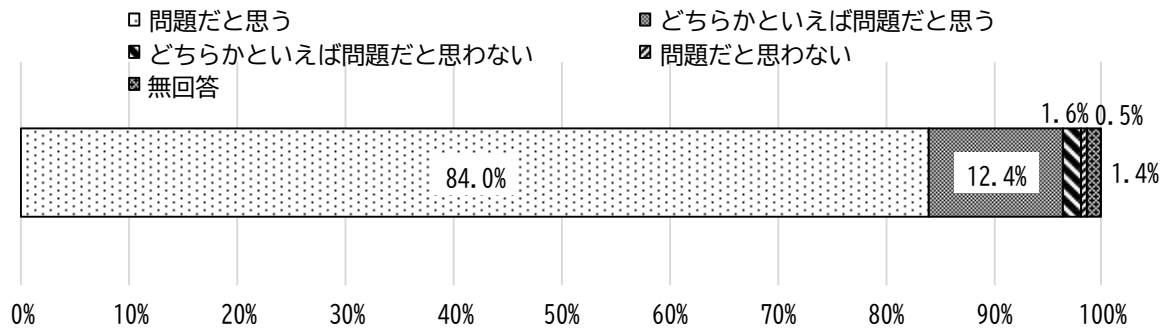


「日本に住む外国人（在日韓国・朝鮮人など）に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げる」については、「問題だと思う」「どちらかといえば問題だと思う」と答えた人の割合は94.9%、「問題だと思わない」「どちらかといえば問題だと思わない」と答えた人の割合は3.4%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」（100.0%）が最も高く、次いで「50～59歳」（96.4%）、「40～49歳」（96.1%）となっている。

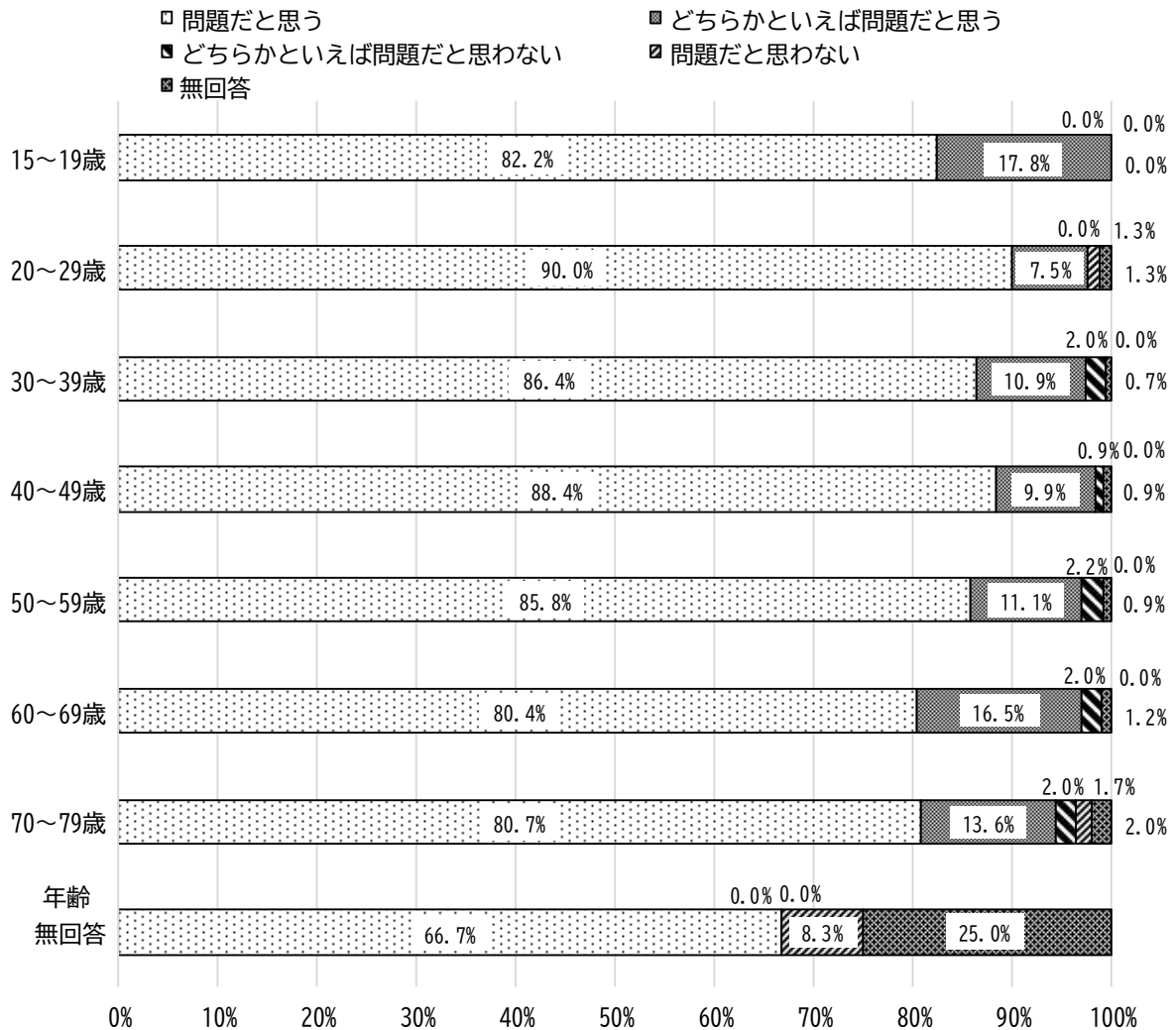


5 個人の私生活や人間関係などのプライバシーに関する情報

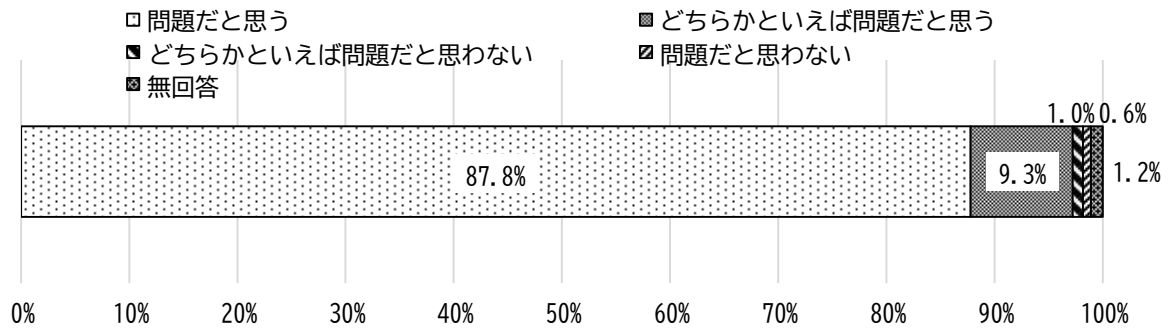


「個人の私生活や人間関係などのプライバシーに関する情報」については、「問題だと思う」「どちらかといえば問題だと思う」と答えた人の割合は96.4%、「問題だと思わない」「どちらかといえば問題だと思わない」と答えた人の割合は2.1%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」（100.0%）が最も高く、次いで「40～49歳」（98.3%）、「20～29歳」（97.5%）となっている。

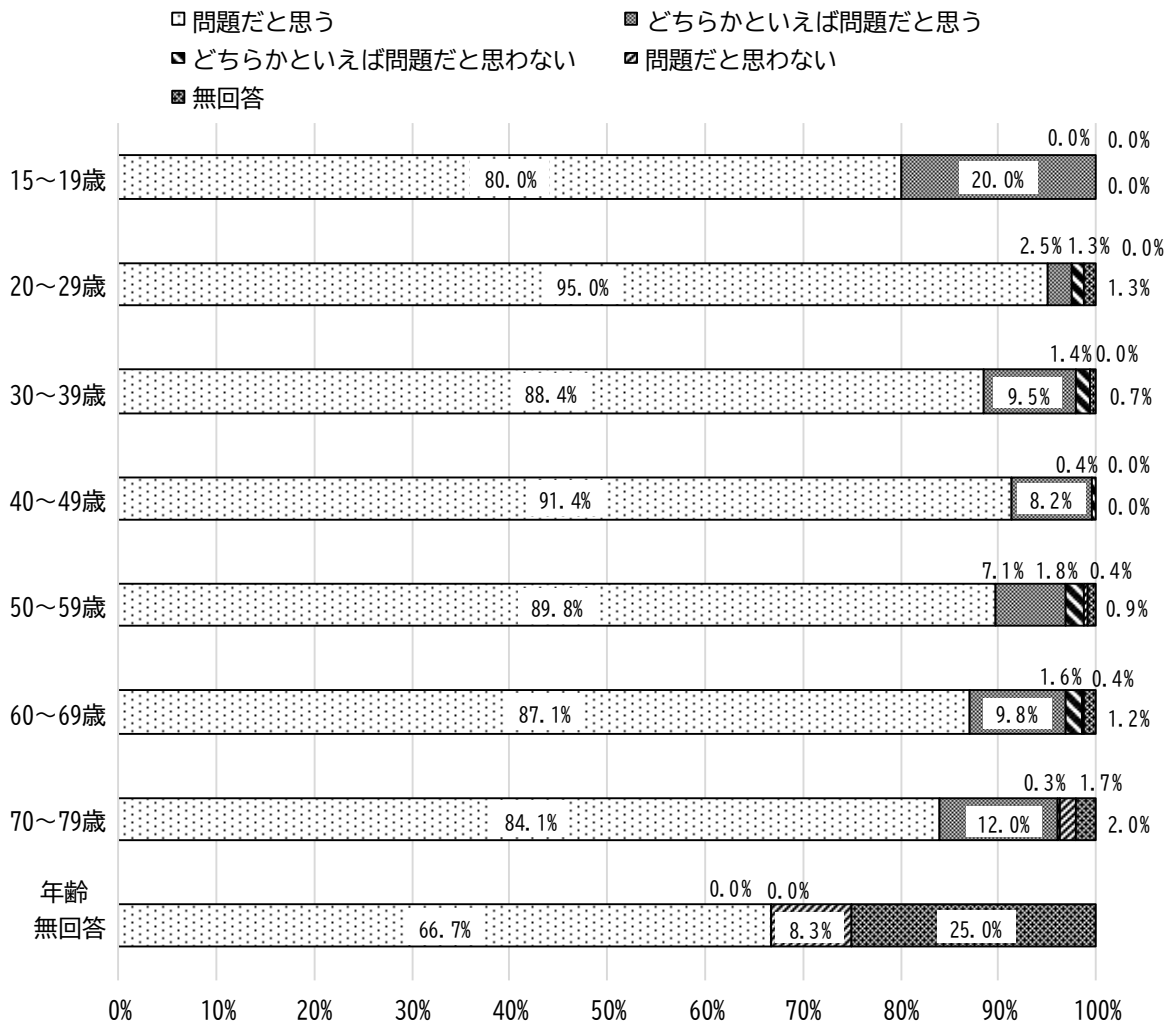


6 他人に対する根拠のない悪いうわさ、悪口など



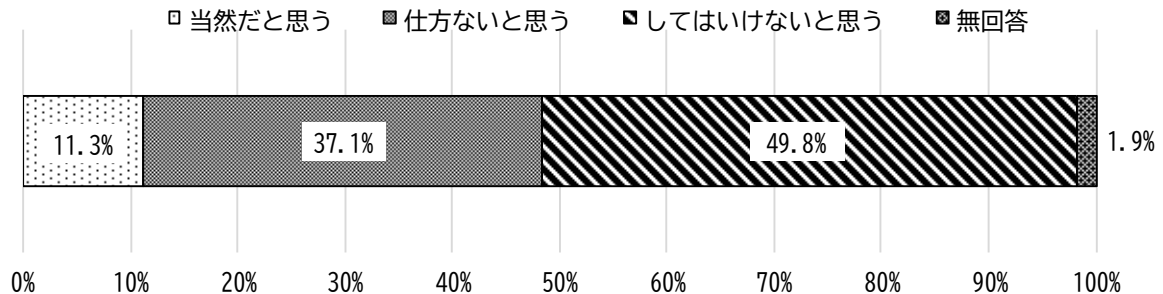
「他人に対する根拠のない悪いうわさ、悪口など」については、「問題だと思う」「どちらかといえば問題だと思う」と答えた人の割合は97.1%、「問題だと思わない」「どちらかといえば問題だと思わない」と答えた人の割合は1.6%となっている。

年齢別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は「15～19歳」（100.0%）が最も高く、次いで「40～49歳」（99.6%）、「30～39歳」（97.9%）となっている。



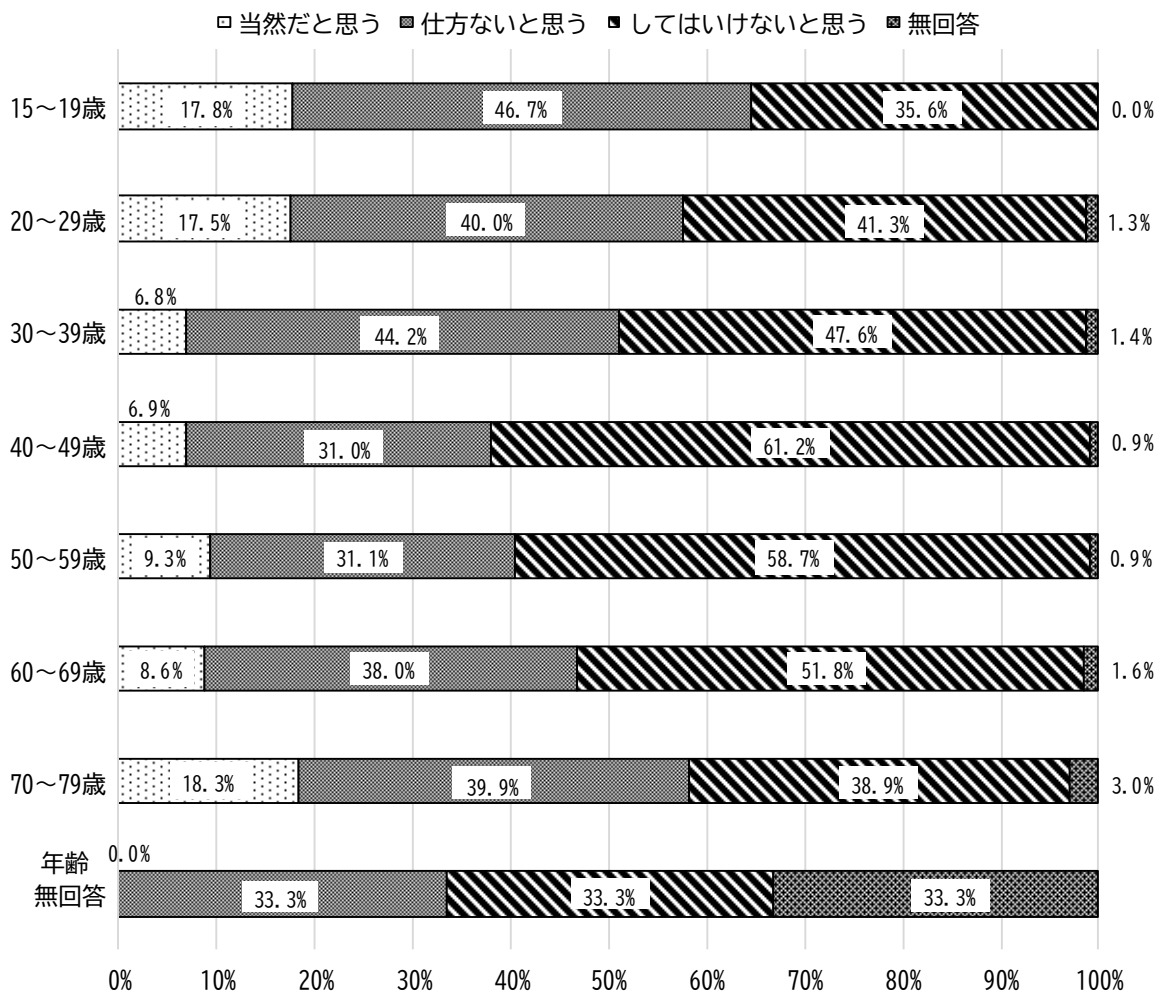
問8 あなたは、次のような場面で身元調査（本籍地・出生地・居住地などをしらべる）をすることをどう思われますか。（それぞれ1つに○をつけてください）

1 企業が社員を採用するとき

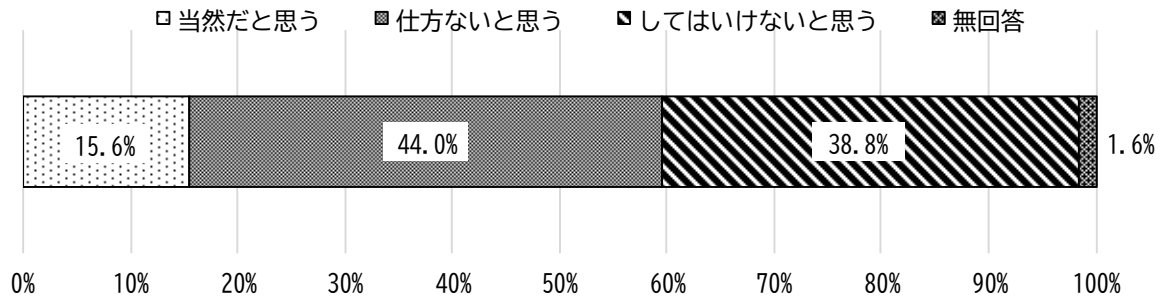


「企業が社員を採用するとき」の身元調査については、「当然だと思う」「仕方ないと思う」と答えた人の割合は48.4%、「してはいけないと思う」と答えた人の割合は49.8%となっている。

年齢別でみると、「当然だと思う」「仕方ないと思う」と答えた人の割合は「15～19歳」（64.5%）が最も高く、次いで「70～79歳」（58.2%）、「20～29歳」（57.5%）となっている。

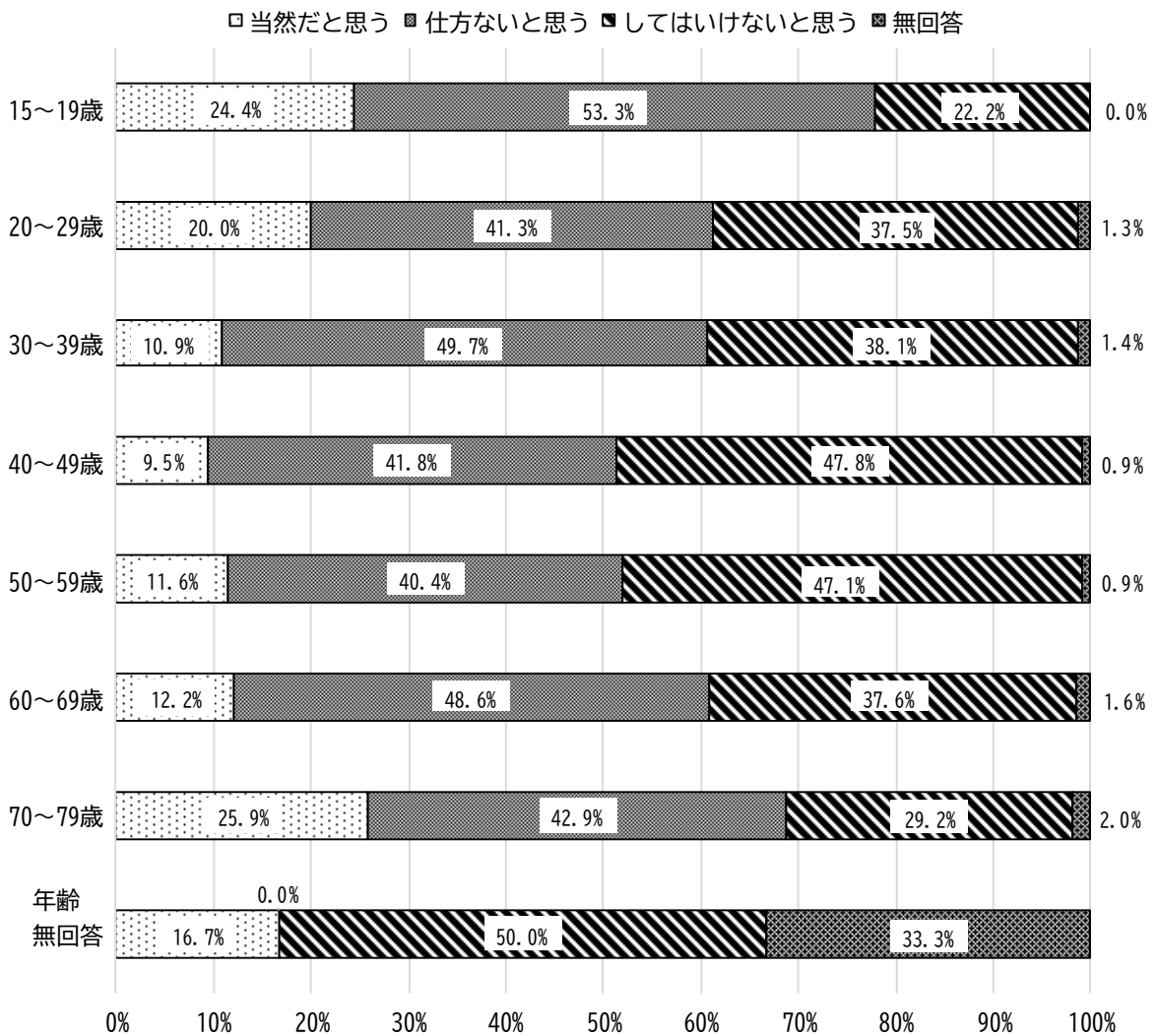


2 結婚するとき



「結婚するとき」の身元調査については、「当然だと思う」「仕方ないと思う」と答えた人の割合は59.6%、「してはいけないと思う」と答えた人の割合は38.8%となっている。

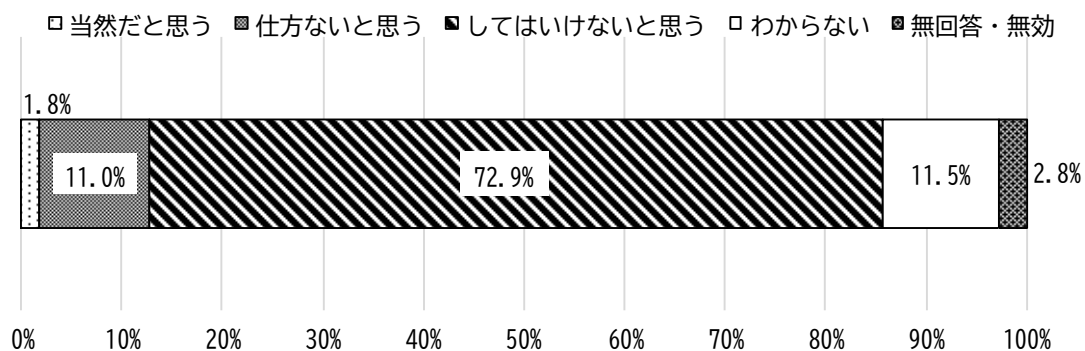
年齢別でみると、「当然だと思う」「仕方ないと思う」と答えた人の割合は「15～19歳」(77.7%)が最も高く、次いで「70～79歳」(68.8%)、「20～29歳」(61.3%)となっている。



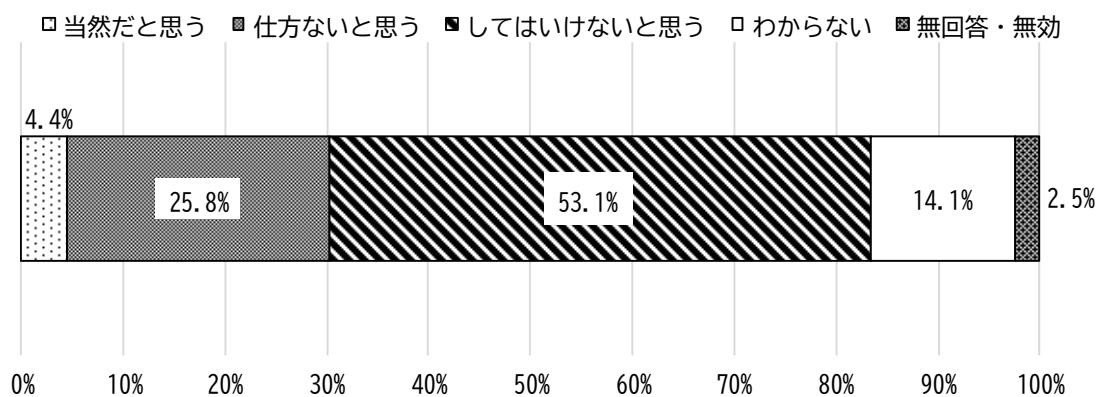
【参考】設問、選択肢の文言が前回と異なっているため、参考としてご参照ください。
前回調査（H29 調査）

同和地区との関わりの有無（本籍地・出生地・居住地など）を調査することについて、どう思いますか。

（ア）企業が社員を採用するとき

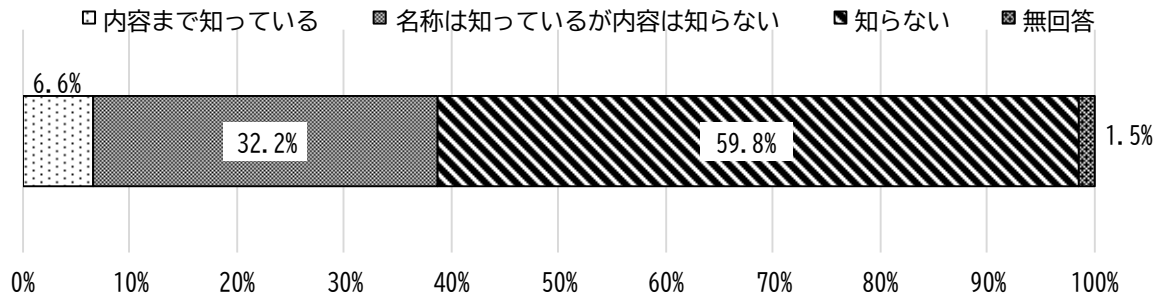


（イ）結婚するとき



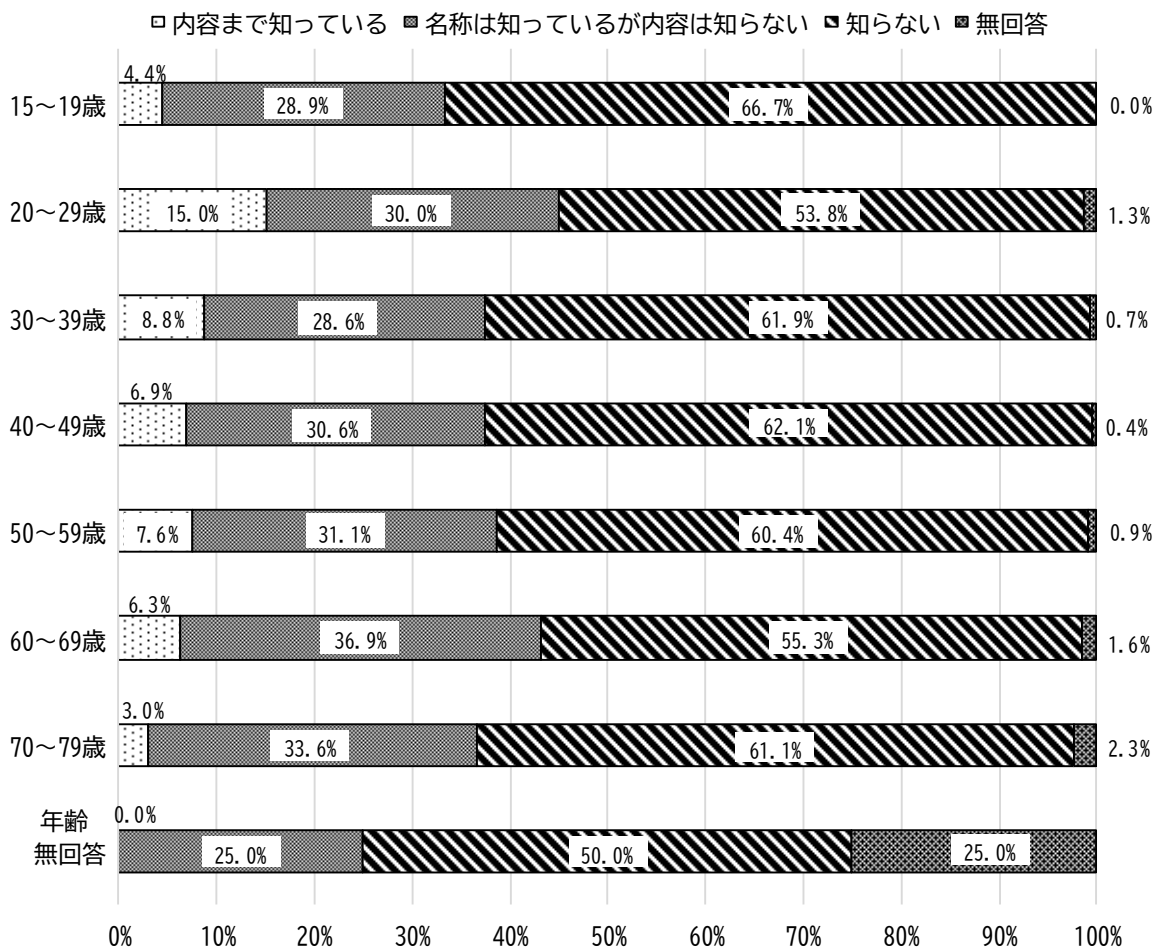
問9 次の差別解消に関する3つの法律を知っていますか。(それぞれ1つに○をつけてください)

1 障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）

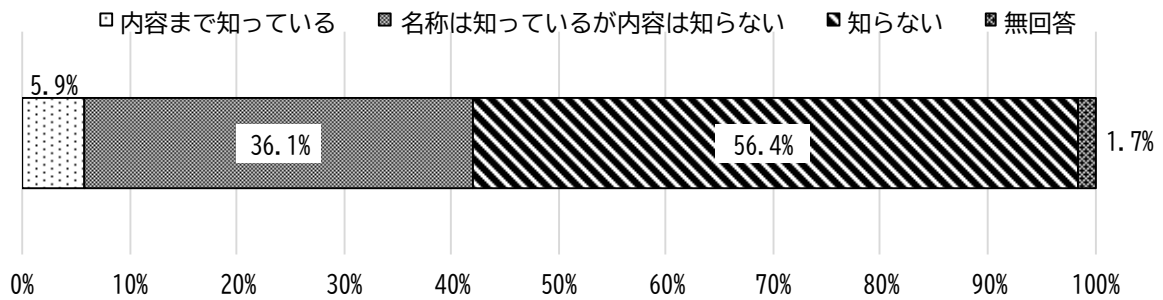


「障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）」については、「内容まで知っている」と答えた人の割合は6.6%、「名称は知っているが内容は知らない」と答えた人の割合は32.2%、「知らない」と答えた人の割合は59.8%となっている。

年齢別でみると、「内容まで知っている」と答えた人の割合は「20～29歳」（15.0%）が最も高く、次いで「30～39歳」（8.8%）、「50～59歳」（7.6%）となっている。

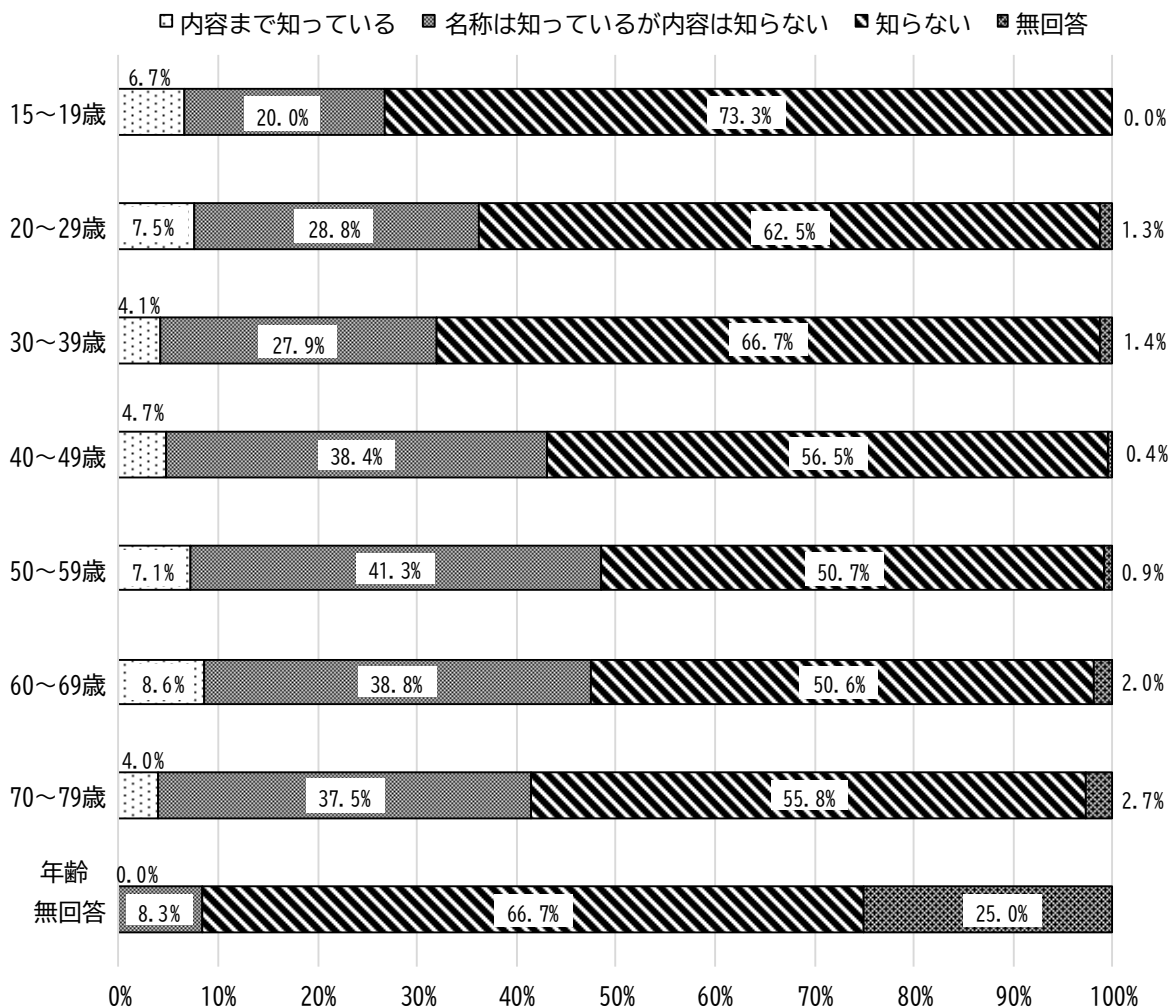


2 ハイトスピーチ解消法（本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律）

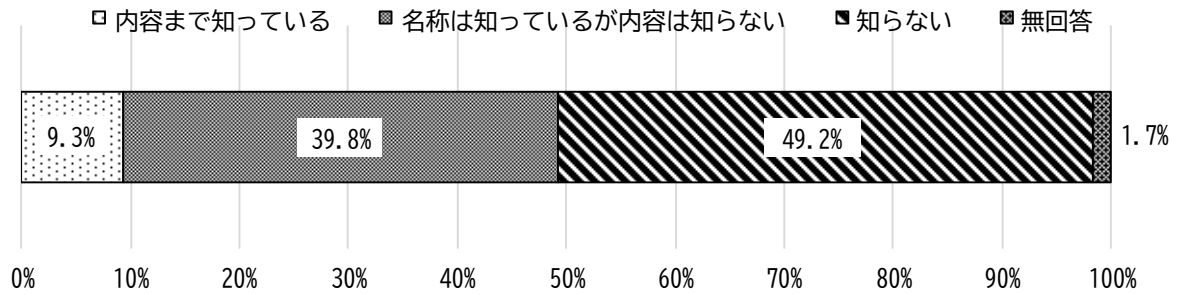


「ハイトスピーチ解消法（本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律）」については、「内容まで知っている」と答えた人の割合は5.9%、「名称は知っているが内容は知らない」と答えた人の割合は36.1%、「知らない」と答えた人の割合は56.4%となっている。

年齢別でみると、「内容まで知っている」と答えた人の割合は「60～69歳」（8.6%）が最も高く、次いで「20～29歳」（7.5%）、「50～59歳」（7.1%）となっている。

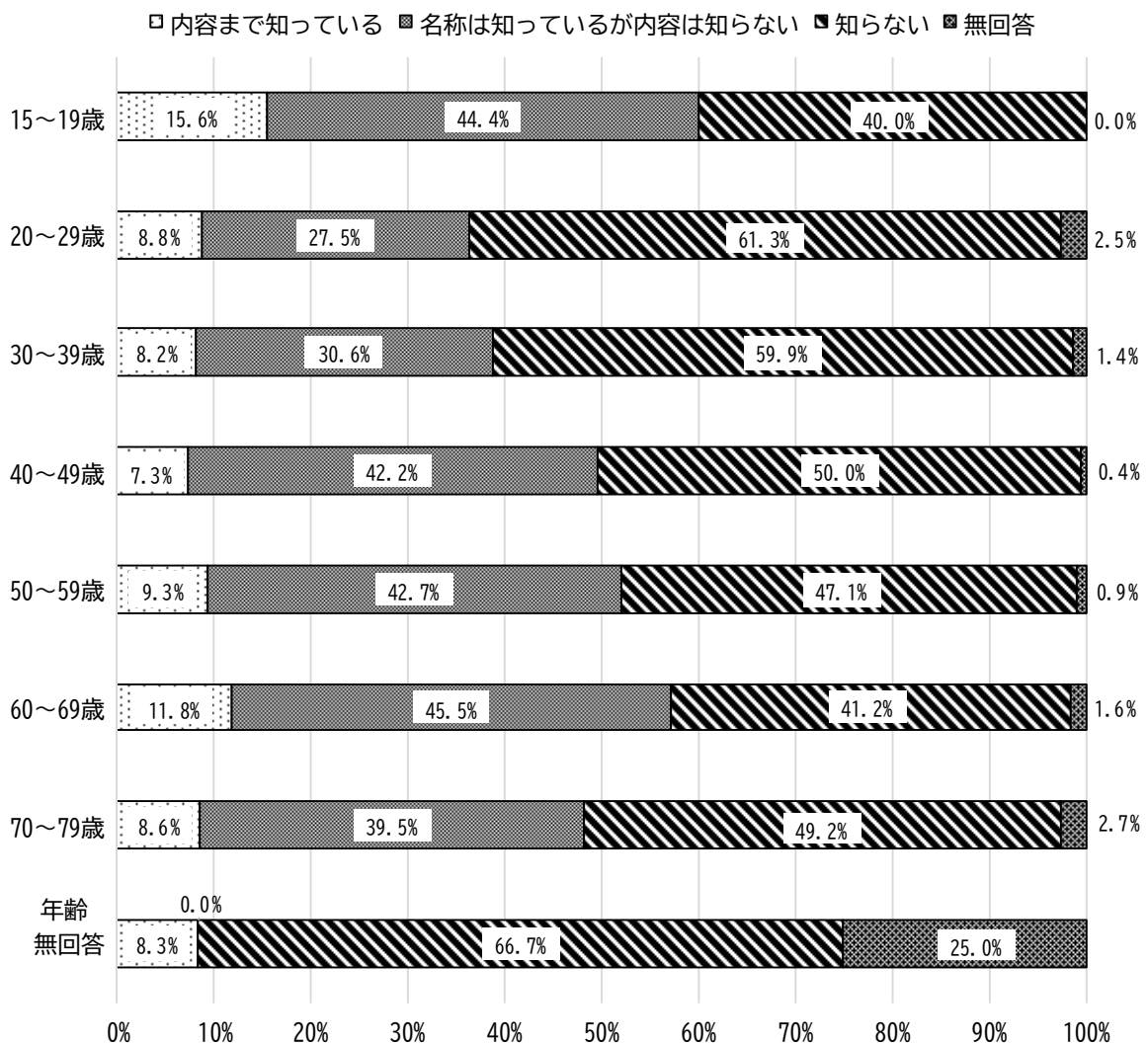


3 部落差別解消推進法（部落差別の解消の推進に関する法律）



「部落差別解消推進法（部落差別の解消の推進に関する法律）」については、「内容まで知っている」と答えた人の割合は9.3%、「名称は知っているが内容は知らない」と答えた人の割合は39.8%、「知らない」と答えた人の割合は49.2%となっている。

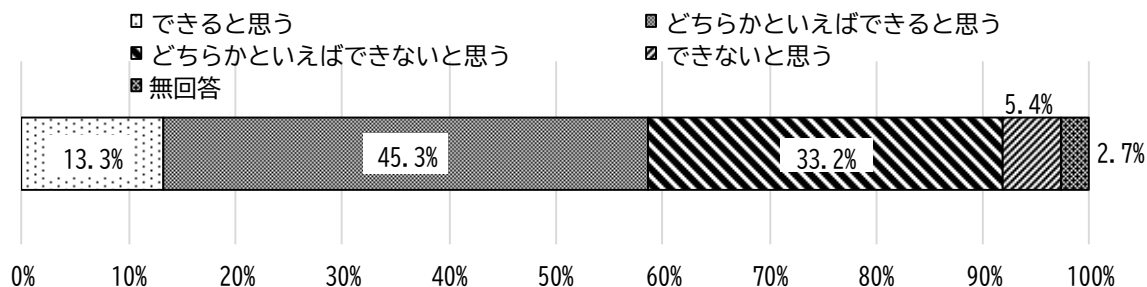
年齢別でみると、「内容まで知っている」と答えた人の割合は「15～19歳」（15.6%）が最も高く、次いで「60～69歳」（11.8%）、「50～59歳」（9.3%）となっている。



問10 あなたは、次のような行動をとることができると思いますか。1～7のすべてについてお答えください。(それぞれ1つに○をつけてください)

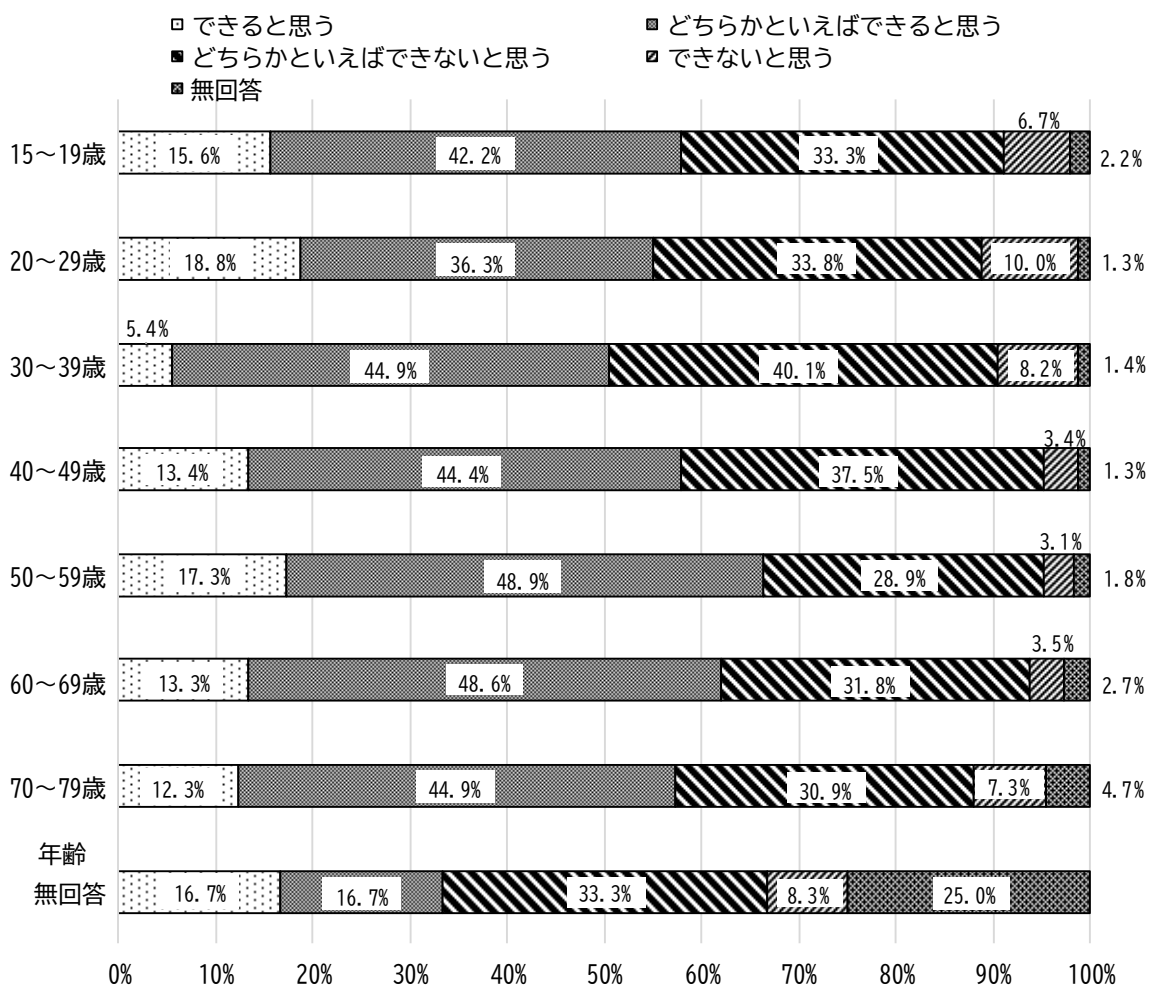
1 ハラスメント【*】の場面に居合わせたとき、やめるように注意する

【*】行為をした者の意図に関係なく、受けた相手や周りにいる人を不快にさせたり、実質的な損害を与えるなどして、強く嫌がられる行為の一般的総称。セクシャルハラスメント（セクハラ）、パワーハラスメント（パワハラ）など。

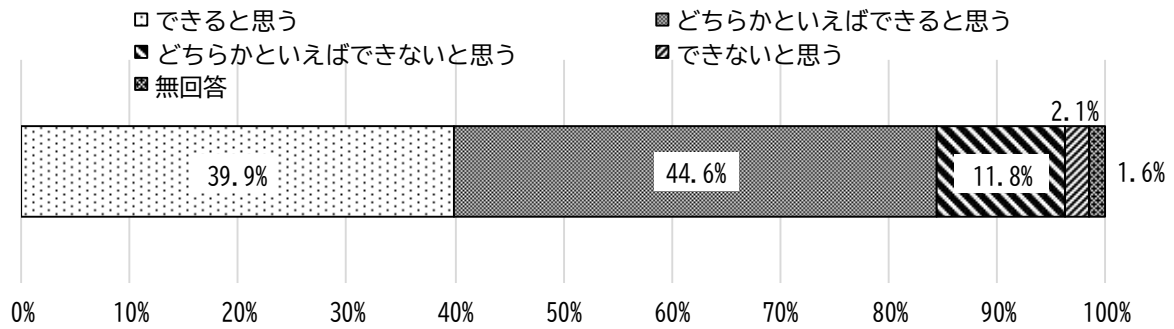


「ハラスメントの場面に居合わせたとき、やめるように注意する」については、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と答えた人の割合は58.6%、「できないと思う」「どちらかといえばできないと思う」と答えた人の割合は38.6%となっている。

年齢別でみると、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と答えた人の割合は「50～59歳」（66.2%）が最も高く、次いで「60～69歳」（61.9%）、「15～19歳」「40～49歳」（57.8%）となっている。

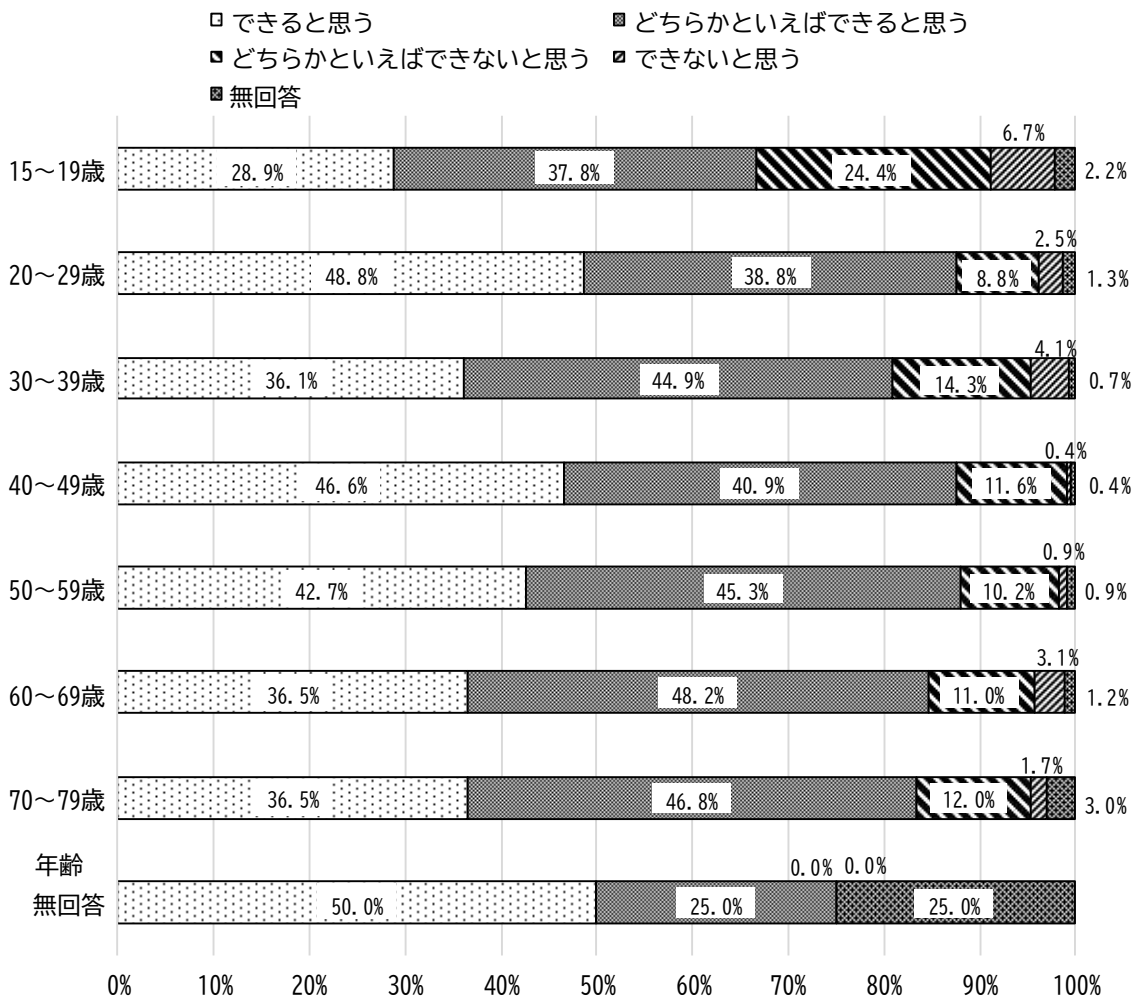


2 子どものいじめ、体罰、虐待などに気づいたとき、関係機関に相談する

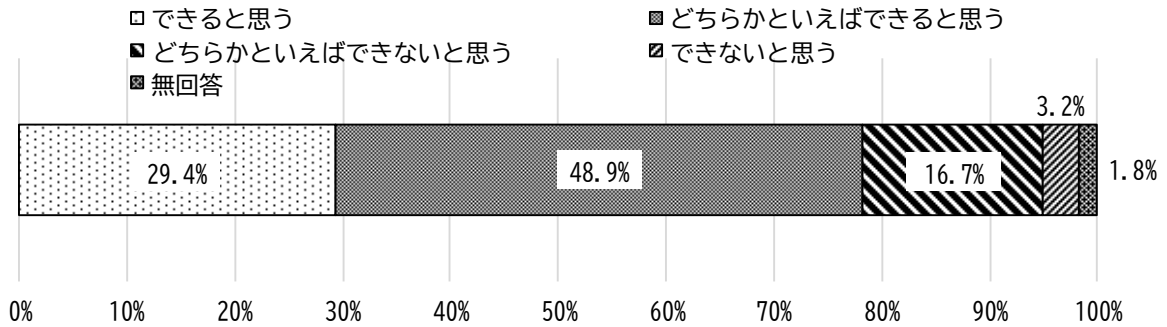


「子どものいじめ、体罰、虐待などに気づいたとき、関係機関に相談する」については、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と答えた人の割合は84.5%、「できないと思う」「どちらかといえばできないと思う」と答えた人の割合は13.9%となっている。

年齢別でみると、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と答えた人の割合は「50～59歳」（88.0%）が最も高く、次いで「20～29歳」（87.6%）、「40～49歳」（87.5%）となっている。

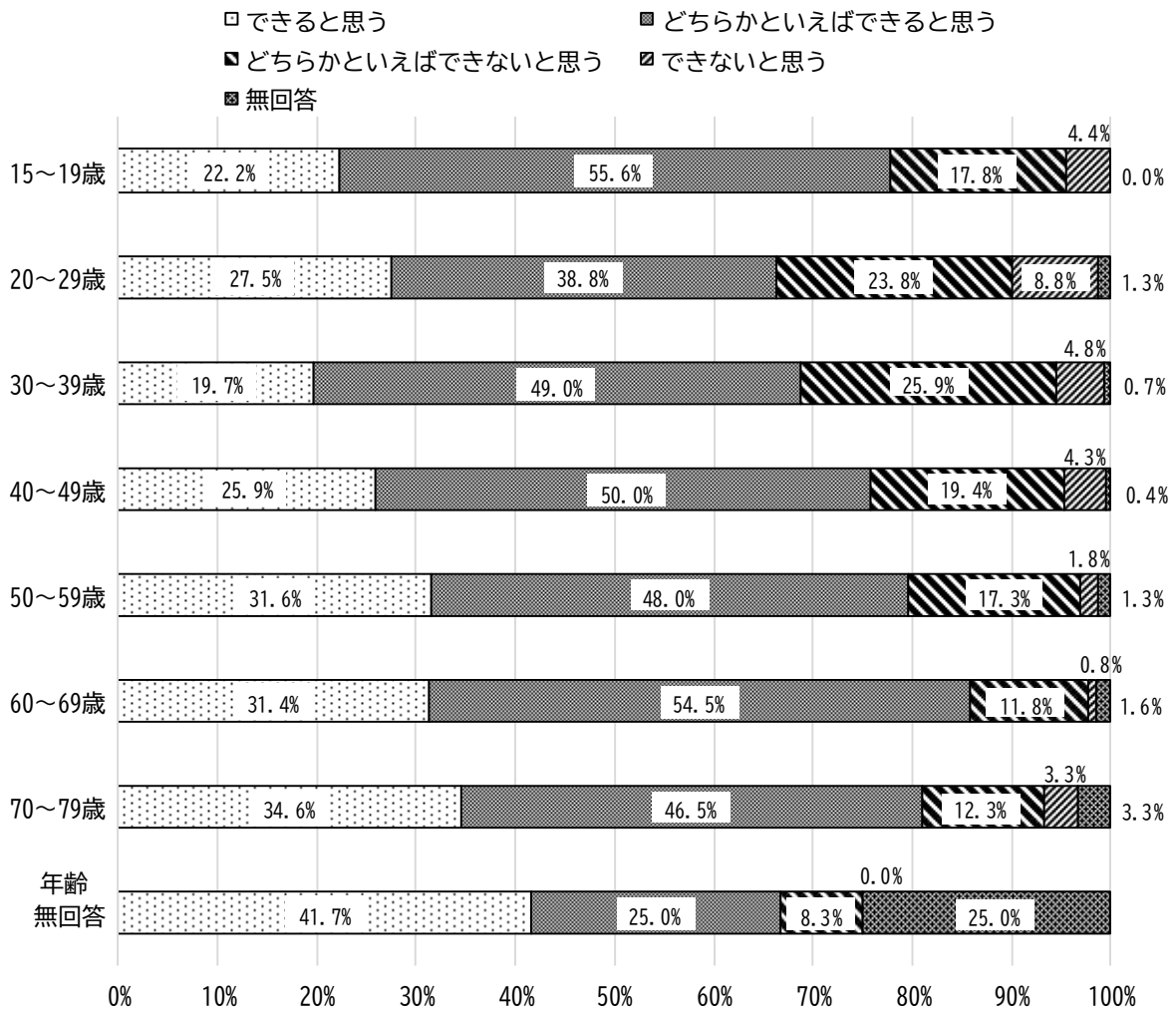


3 災害時に、地域の高齢者や障がいのある人など、避難に困難を抱える人の避難について気を配る

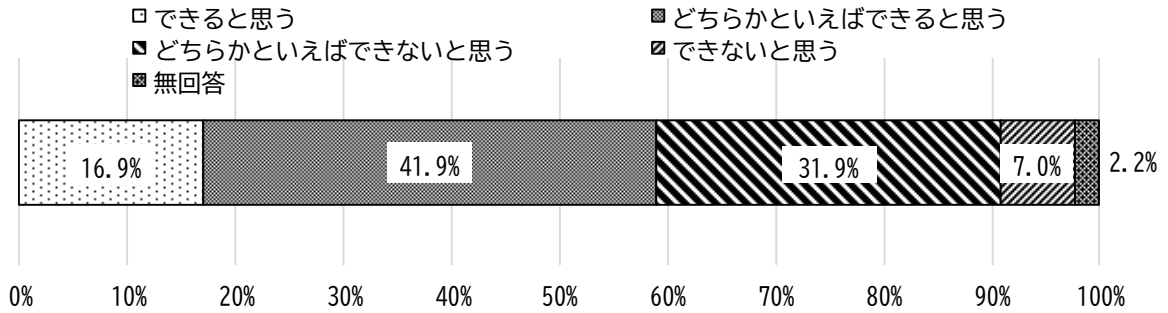


「災害時に、地域の高齢者や障がいのある人など、避難に困難を抱える人の避難について気を配る」については、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と答えた人の割合は78.3%、「できると思わない」「どちらかといえばできると思わない」と答えた人の割合は19.9%となっている。

年齢別でみると、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と答えた人の割合は「60～69歳」（85.9%）が最も高く、次いで「70～79歳」（81.1%）、「50～59歳」（79.6%）となっている。

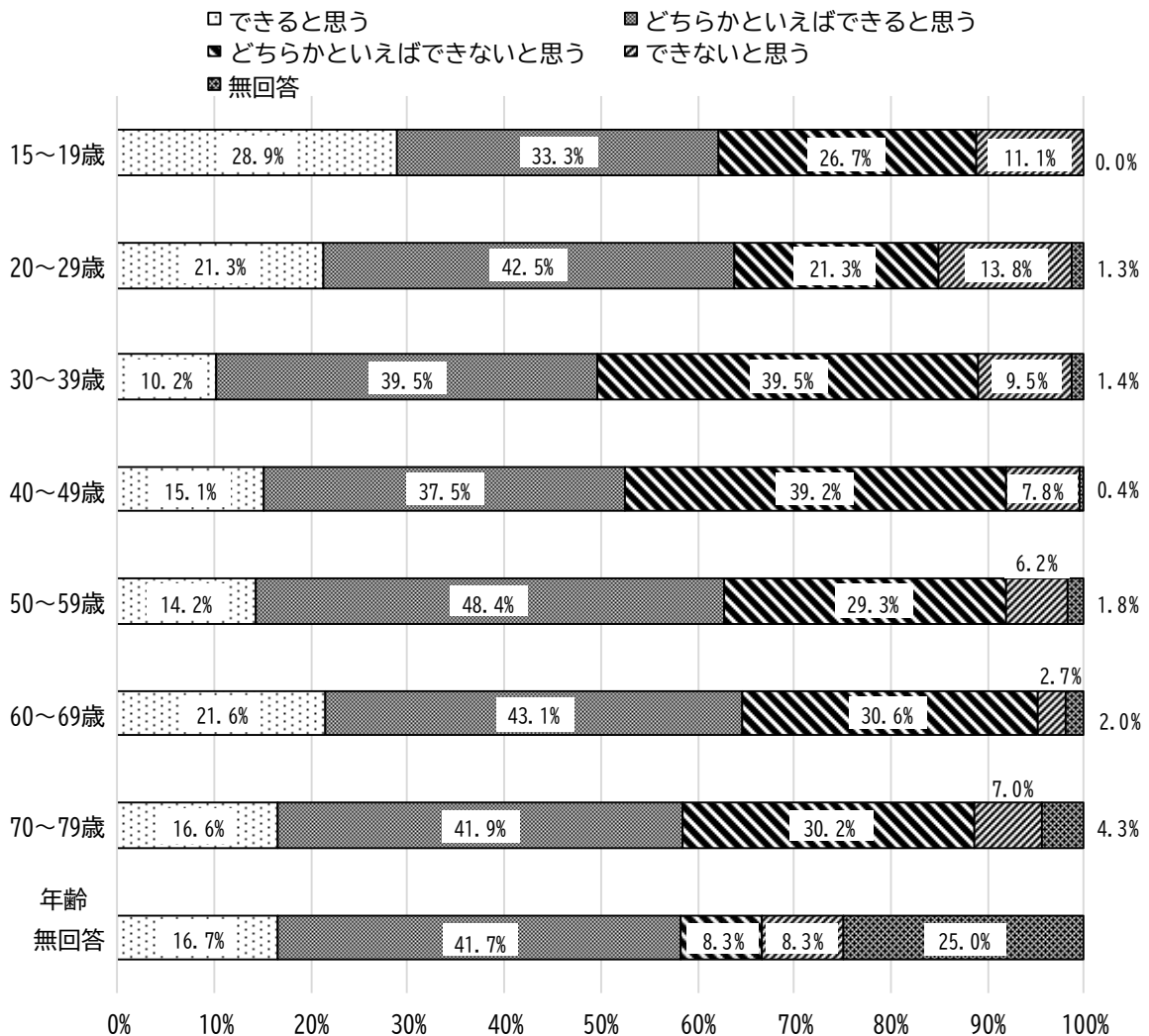


4 地域で暮らす外国人と積極的にコミュニケーションをとったり、お互いの文化を理解し合えるようにする

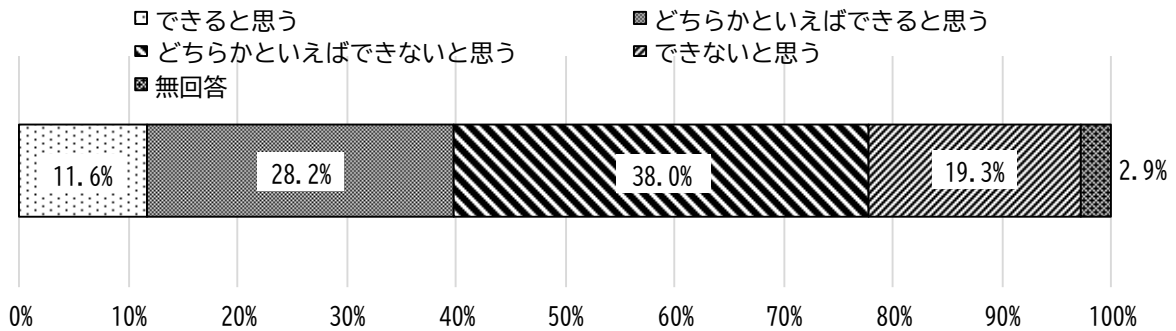


「地域で暮らす外国人と積極的にコミュニケーションをとったり、お互いの文化を理解し合えるようにする」については、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と答えた人の割合は58.8%、「できると思わない」「どちらかといえばできると思わない」と答えた人の割合は38.9%となっている。

年齢別でみると、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と答えた人の割合は「60～69歳」（64.7%）が最も高く、次いで「20～29歳」（63.8%）、「50～59歳」（62.6%）となっている。

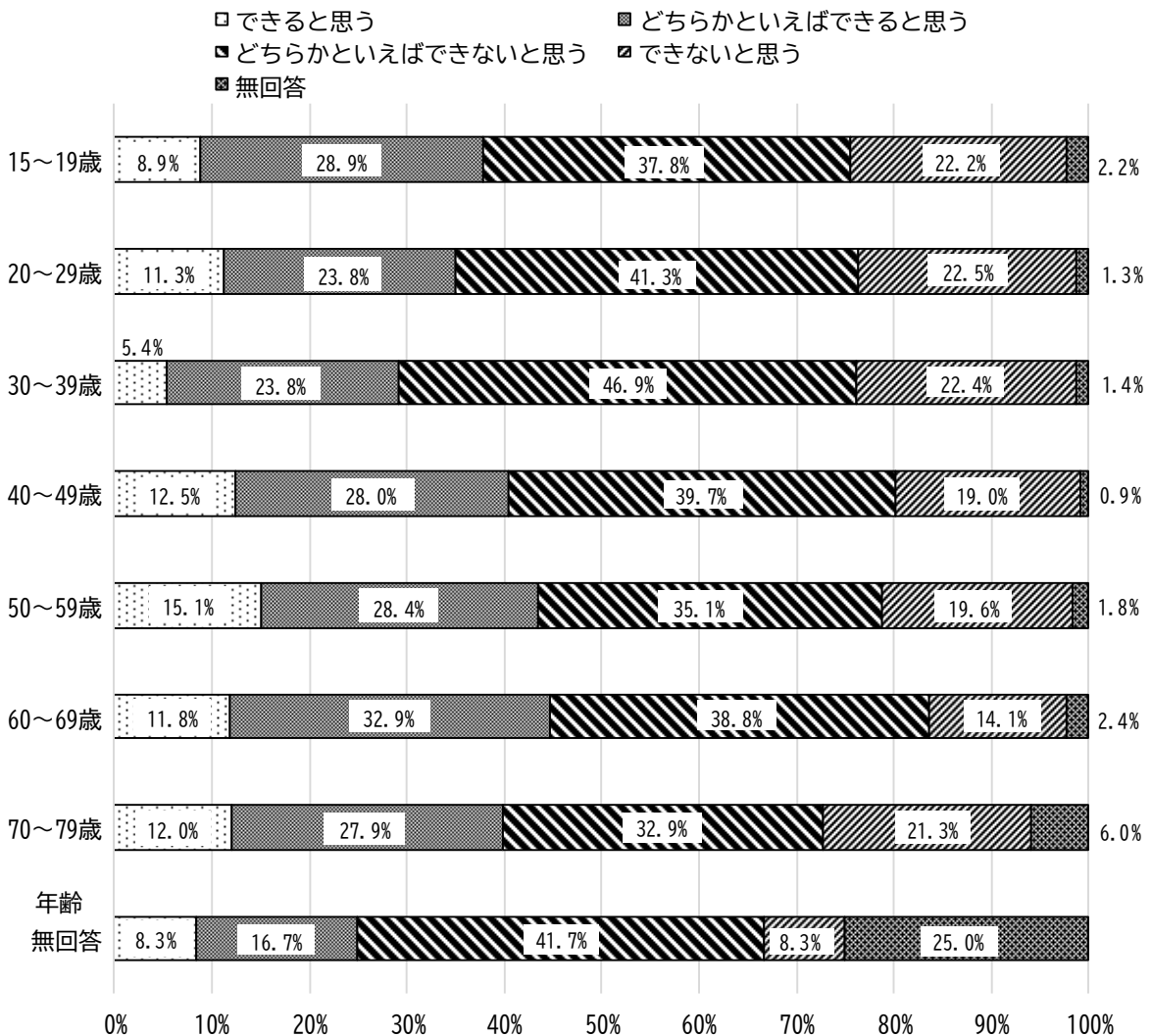


5 インターネットの掲示板などで差別書き込みを見つけたとき、関係機関に通報する

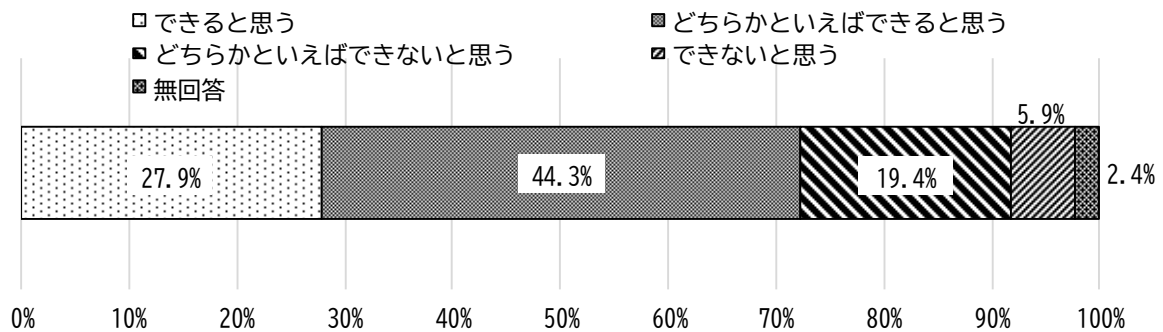


「インターネットの掲示板などで差別書き込みを見つけたとき、関係機関に通報する」については、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と答えた人の割合は39.8%、「できると思わない」「どちらかといえばできると思わない」と答えた人の割合は57.3%となっている。

年齢別でみると、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と答えた人の割合は「60～69歳」（44.7%）が最も高く、次いで「50～59歳」（43.5%）、「40～49歳」（40.5%）となっている。

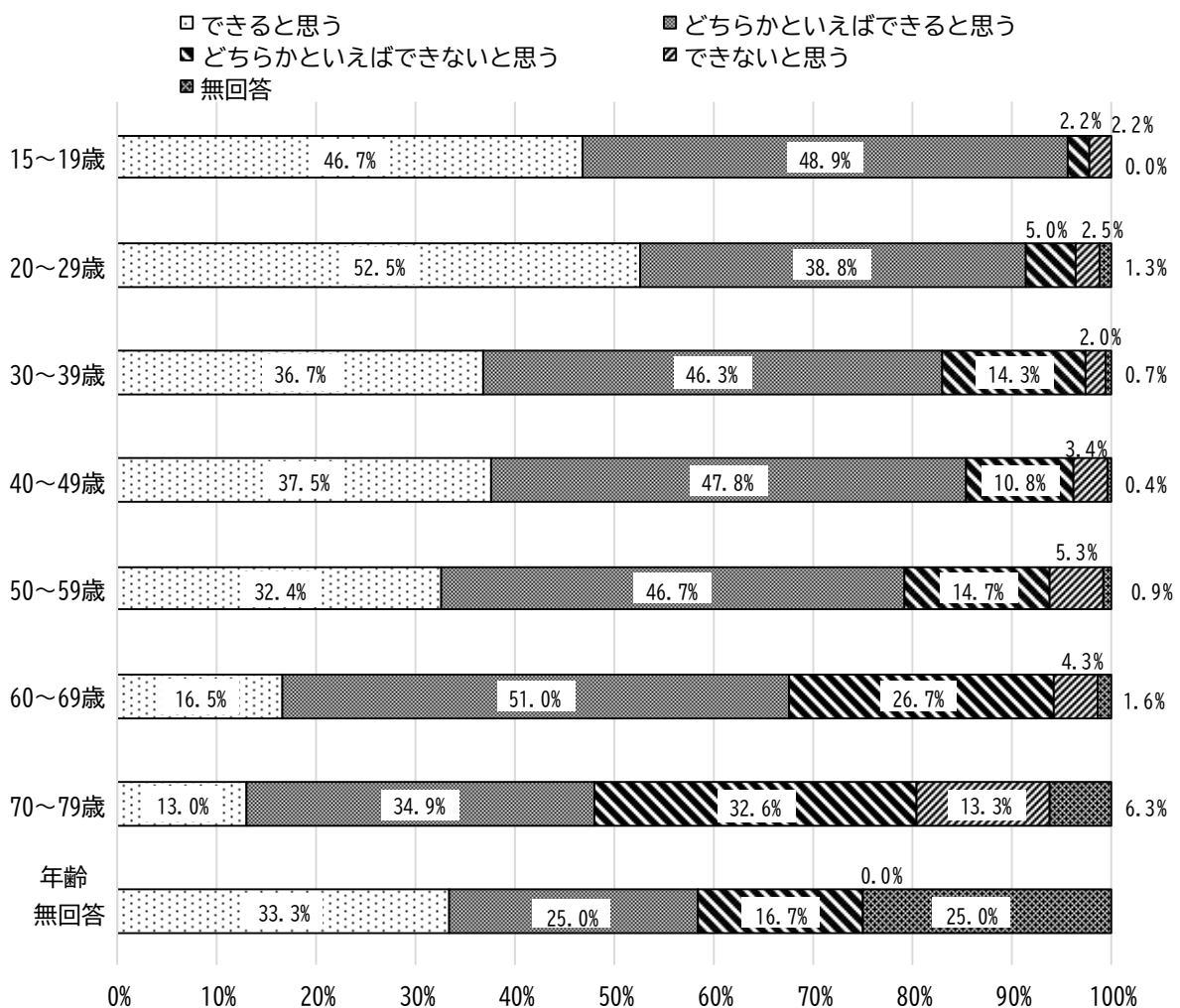


6 身近な人から性的マイノリティであると告白（カミングアウト）を受けたとき、共感したり、支援する意思を伝える

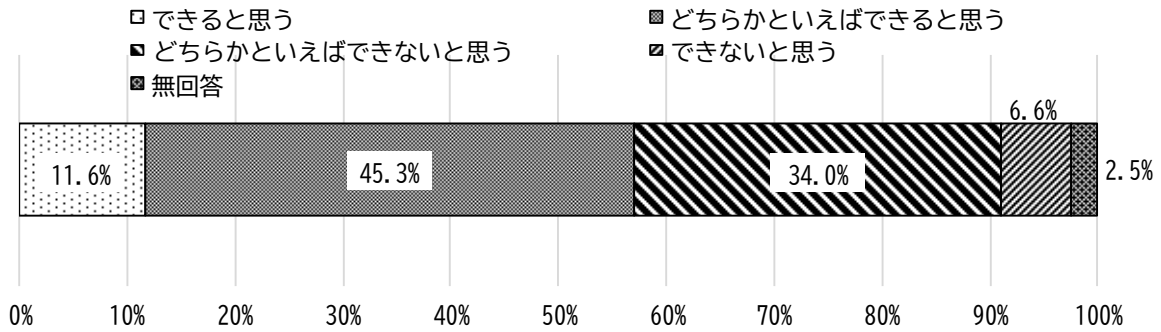


「身近な人から性的マイノリティであると告白（カミングアウト）を受けたとき、共感したり、支援する意思を伝える」については、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と答えた人の割合は72.2%、「できると思わない」「どちらかといえばできると思わない」と答えた人の割合は25.3%となっている。

年齢別でみると、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と答えた人の割合は「15～19歳」（95.6%）が最も高く、次いで「20～29歳」（91.3%）、「40～49歳」（85.3%）となっている。

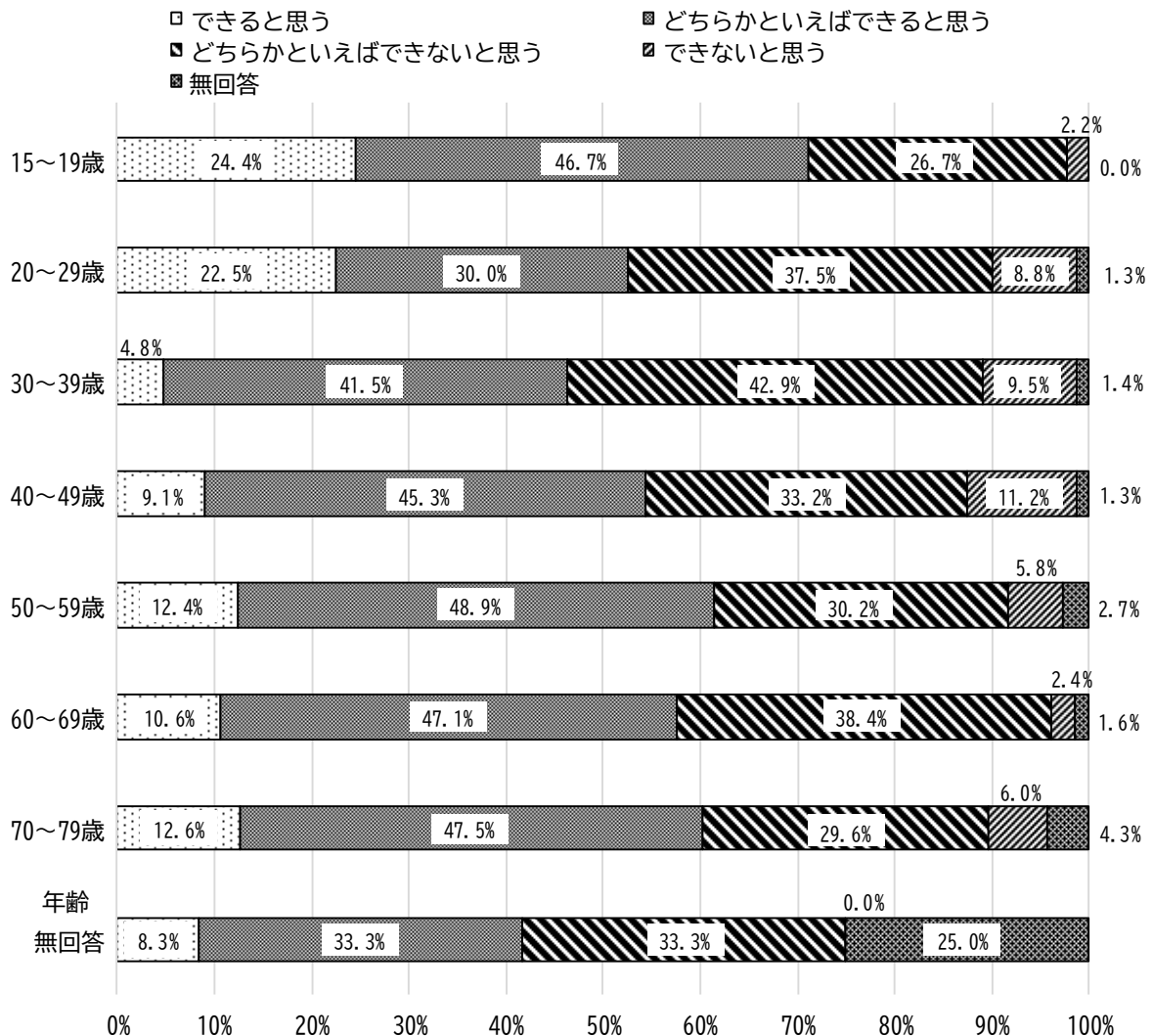


7 近所に刑を終えて出所した人がいたとき、地域の仲間として迎える

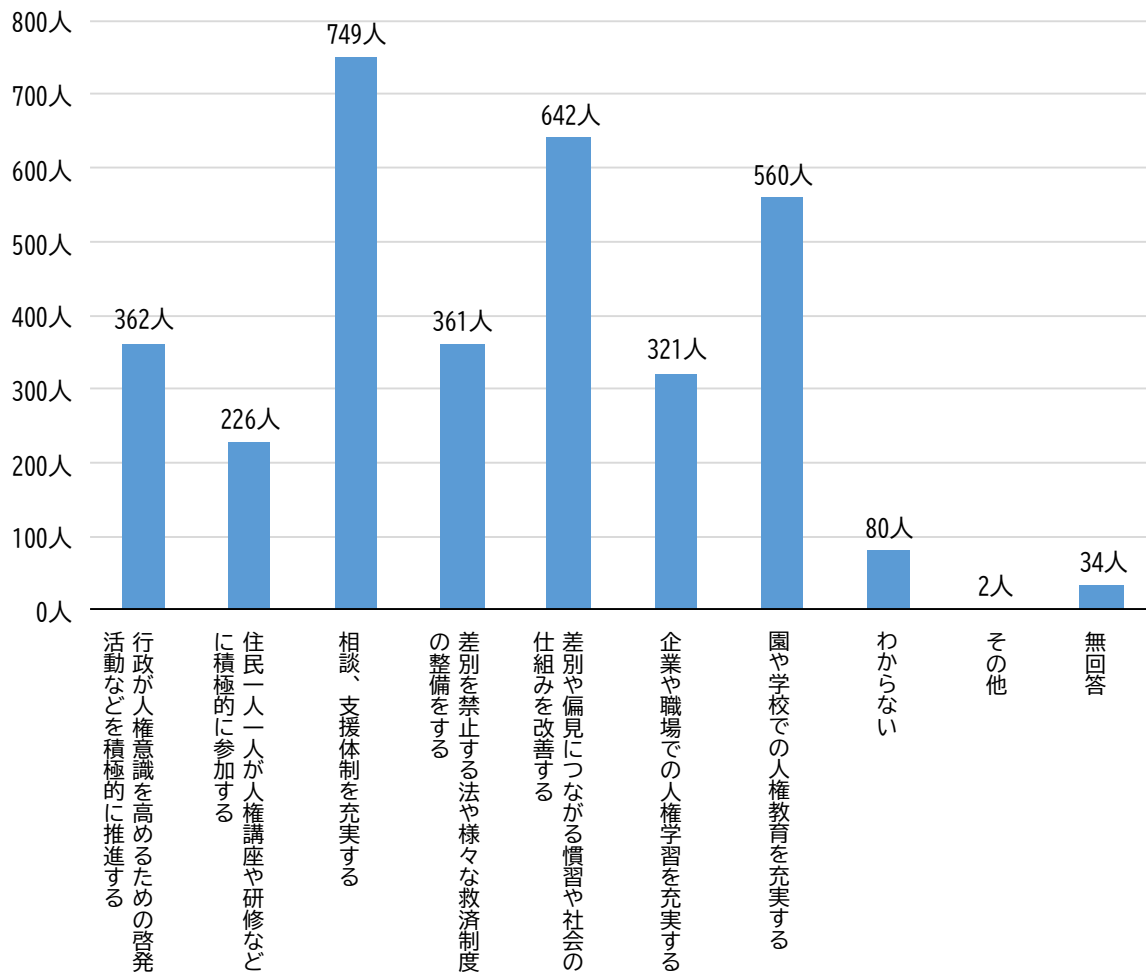


「近所に刑を終えて出所した人がいたとき、地域の仲間として迎える」については、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と答えた人の割合は56.9%、「できると思わない」「どちらかといえばできると思わない」と答えた人の割合は40.6%となっている。

年齢別でみると、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と答えた人の割合は「15～19歳」(71.1%)が最も高く、次いで「50～59歳」(61.3%)、「70～79歳」(60.1%)となっている。



問11 人権が尊重される社会にするためには、どのような取組が必要だと思いますか。
(〇は3つまで)



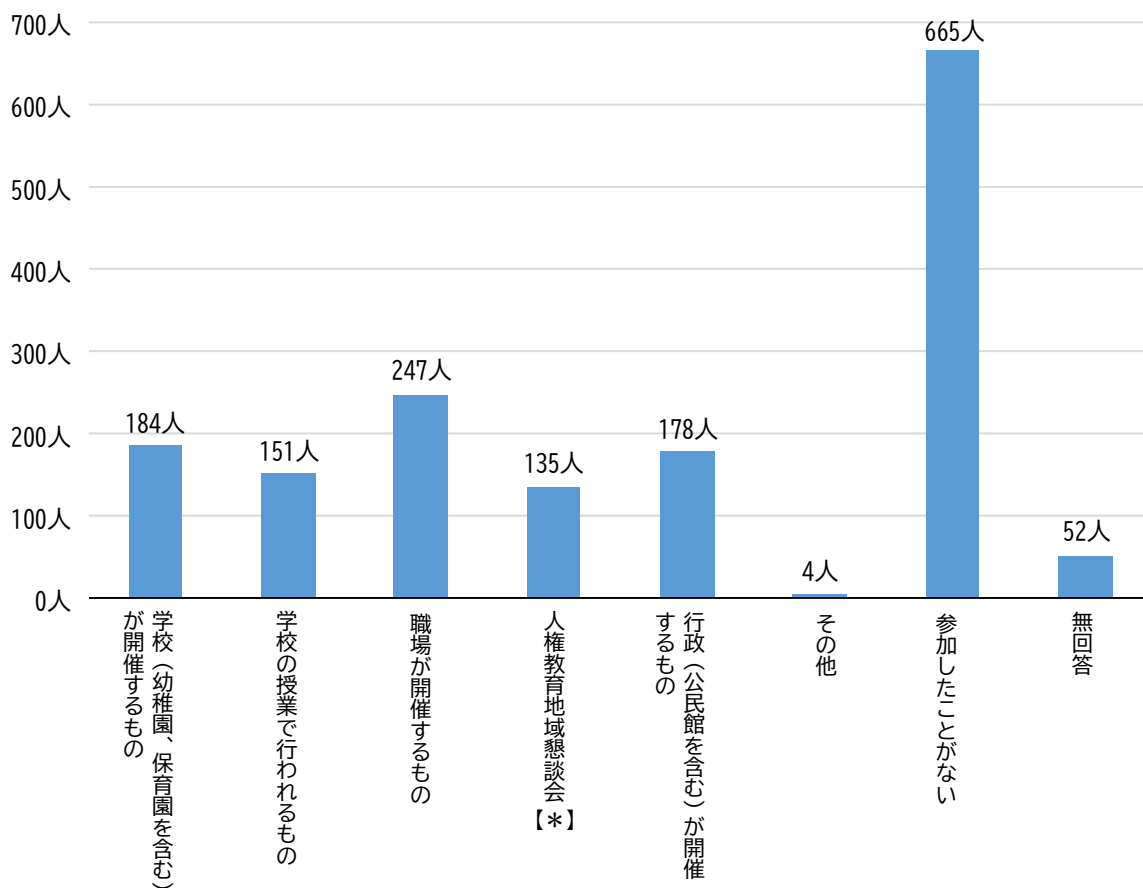
「人権が尊重される社会にするためには、どのような取組が必要だと思うか」については、「相談、支援体制を充実する」が最も多く、続いて「差別や偏見につながる慣習や社会の仕組みを改善する」、「園や学校での人権教育を充実する」と答えた人が多くなっている。

年齢別でみると、「15～19歳」で最も多いのは「企業や職場での人権学習を充実する」、
「20～29歳」では「差別や偏見につながる慣習や社会の仕組みを改善する」が最も多く、
「30～39歳」「40～49歳」「50～59歳」「60～69歳」「70～79歳」では「相談、支援体制を
充実する」が最も多くなっている。

	15～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	無回 答
行政が人権意識を高めるための啓発活動などを積極的に推進する	8	11	28	55	66	71	120	3
住民一人一人が人権講座や研修などに積極的に参加する	10	9	16	36	42	47	65	1
相談、支援体制を充実する	20	44	81	121	139	157	183	4
差別を禁止する法や様々な救済制度の整備をする	13	22	46	70	60	78	68	4
差別や偏見につながる慣習や社会の仕組みを改善する	19	47	78	119	104	131	142	2
企業や職場での人権学習を充実する	24	22	37	72	49	53	63	1
園や学校での人権教育を充実する	23	40	73	110	95	103	112	4
わからない	2	3	6	10	14	20	25	0

◎人権啓発についてのあなたのご意見をお聞かせください。

問12 あなたは、過去5年間に人権に関するどのような研修会や講演会に参加しましたか。(〇はいくつでも)



【*】通称、小地域懇談会。市内の全自治会で2～3年に一度開催される人権への理解を深めてもらうための懇談会。DVDの視聴、ワークショップなど様々な方法で開催されている。

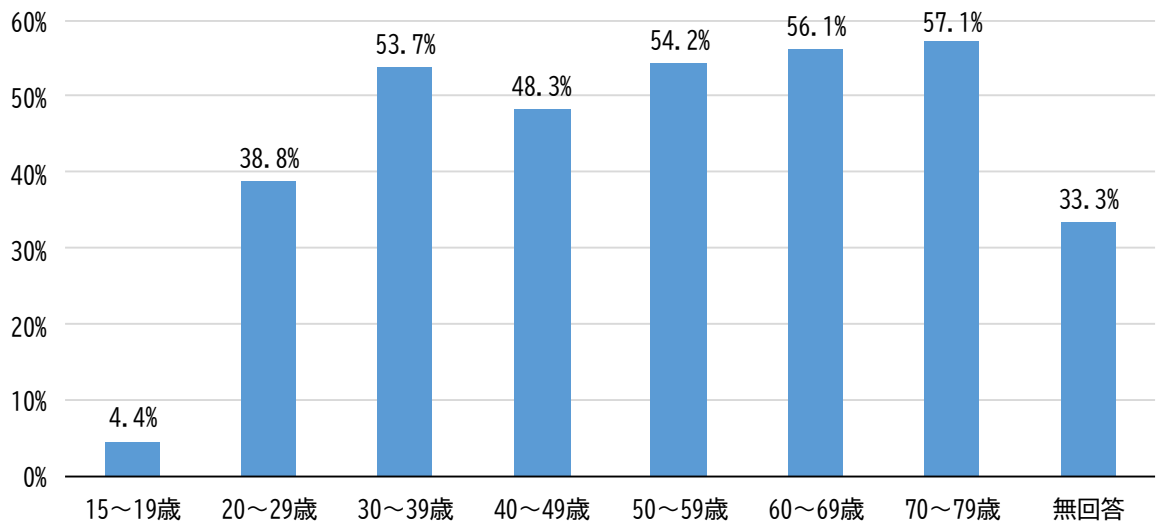
「過去5年間に人権に関するどのような研修会や講演会に参加したか」については、「参加したことがない」が最も多く、回答していただいた1,297人のうち、半数以上の665人が研修や講演会に参加したことがないと回答している。参加したことがある研修会や講演会としては、「職場が開催するもの」が最も多く、続いて「学校（幼稚園、保育園を含む）が開催するもの」、「行政（公民館を含む）が開催するもの」と答えた人が多くなっている。

年齢別で、研修会や講演会に参加したことがある人が最も多いのは、「15～19歳」「20～29歳」が「学校の授業で行われるもの」、「30～39歳」「40～49歳」「50～59歳」「60～69歳」では「職場が開催するもの」、「70～79歳」では「行政（公民館を含む）が開催するもの」となっている。

	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	無回答
学校（幼稚園、保育園を含む）が開催するもの	30	24	24	52	30	14	9	1
学校の授業で行われるもの	41	32	15	33	14	6	7	3
職場が開催するもの	0	10	43	62	63	45	21	3
人権教育地域懇談会	1	2	8	15	28	31	50	0
行政（公民館を含む）が開催するもの	3	2	10	19	31	44	67	2

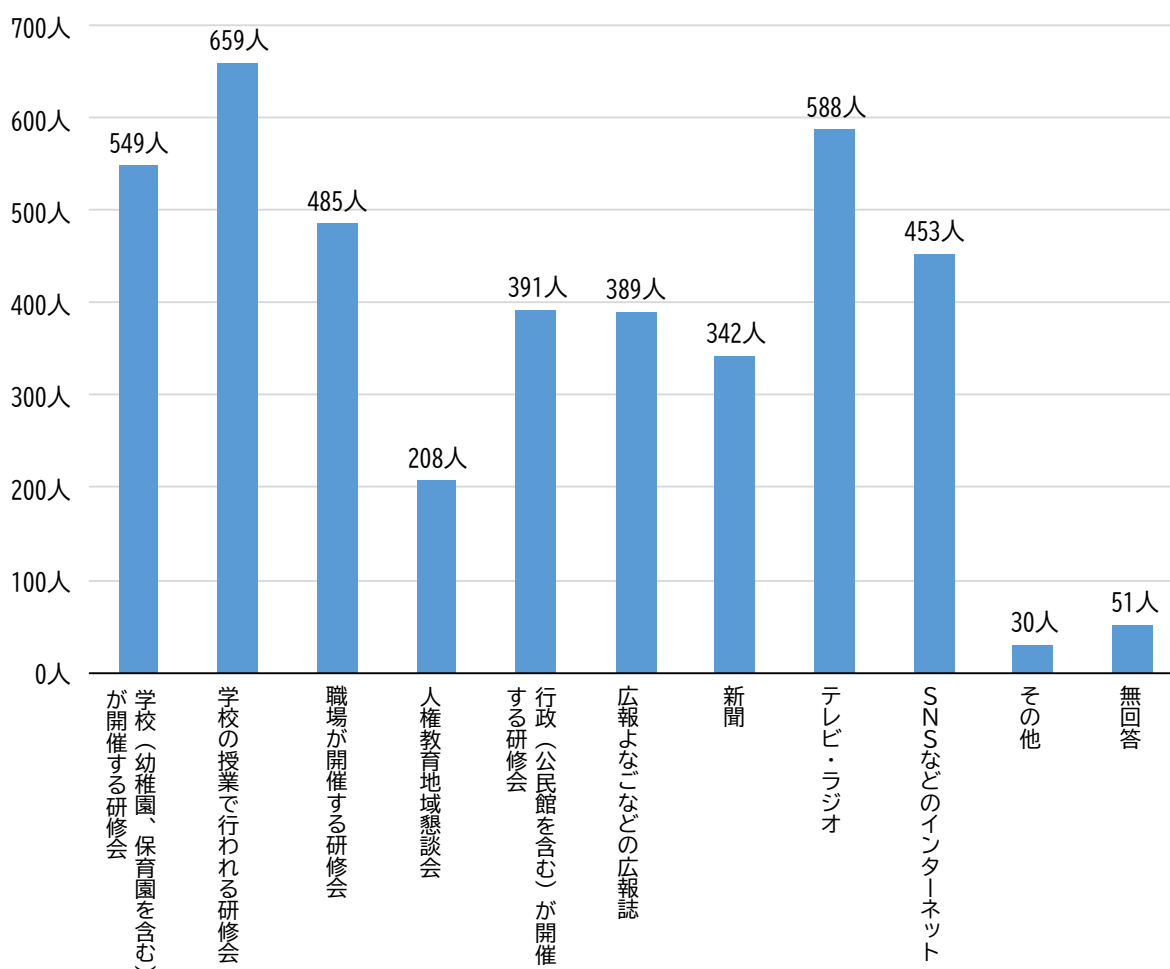
「参加したことがない」と回答した人の、年齢別有効回答者数に占める割合

年齢別に、「参加したことがない」と回答した人の、年齢別有効回答者数に占める割合をみると、「15～19歳（4.4%）」、「20～29歳（38.8%）」、「30～39歳（53.7%）」、「40～49歳（48.3%）」、「50～59歳（54.2%）」、「60～69歳（56.1%）」、「70～79歳（57.1%）」となっている。



	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	無回答
参加したことがないと回答した人数（人） A	2	31	79	112	122	143	172	4
年齢別有効回答者数（人） B	45	80	147	232	225	255	301	12
年齢別有効回答者数に占める参加したことがないと回答した人の割合（%） A/B	4.4	38.8	53.7	48.3	54.2	56.1	57.1	33.3

問13 今後、人権への理解を深めるのに役に立つと思うものはどれですか。(〇はいくつでも)



「今後、人権への理解を深めるのに役に立つと思うもの」については、「学校の授業で行われる研修会」が最も多く、続いて「テレビ・ラジオ」、「学校（幼稚園、保育園を含む）が開催する研修会」と答えた人が多くなっている。

年齢別でみると、「20～29歳」、「30～39歳」で最も多いのは「SNSなどのインターネット」、「15～19歳」、「40～49歳」、「60～69歳」では「学校の授業で行われる研修会」、「50～59歳」では「テレビ・ラジオ」、「70～79歳」では「行政（公民館を含む）が開催する研修会」が最も多くなっている。

	15～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	無回 答
学校（幼稚園、保育園を含む）が開催する研修会	28	40	70	99	92	101	113	6
学校の授業で行われる研修会	36	46	74	125	115	127	130	6
職場が開催する研修会	21	37	62	101	89	89	81	5
人権教育地域懇談会	6	5	18	27	39	38	74	1
行政（公民館を含む）が開催する研修会	9	12	25	49	63	82	147	4
広報よなごなどの広報誌	11	14	35	66	66	85	109	3
新聞	15	9	35	58	68	69	85	3
テレビ・ラジオ	22	34	69	97	127	116	118	5
SNSなどのインターネット	25	48	86	107	86	59	38	4

2 自由記述

人権に関するご意見やご要望、ご自身のご経験などを自由にお書きください。
また、個別の人権課題についてもご意見がありましたら、こちらにお書きください。
キーワード：同和問題(部落差別)、外国人、障がい者、男女共同参画、子ども、高齢者、病気にかかわる人、犯罪被害者等、性的マイノリティ、生活困窮者、刑を終えて出所した人等、インターネット、拉致被害者等、被災者、アイヌ、ひきこもり など
(259件の回答から一部抜粋して記載)

*障がい、障害の記述については、原文をそのまま記載しています。

- ・人権問題が多岐にわたることを再認識できました。身近にない課題に対しては、意識が低くなってしまっています。同和問題に関しては、若年層になるほど差別意識は持っていないのではないかと思います。学校での授業やPTA活動で取り上げることに、異議を唱える人もいます。自分の言動に気を付け、かえりみるよう意識していきたいと思います。(40～49歳)
- ・障がい者を雇用する企業が支援金を受けるだけの目的でなく真の雇用であり、その企業に在勤する方々への障がい者の理解を持って接する教育がなければならないと思う。理解がない職場から差別は、なくなる。人権とは、立派なことをしなくても人のおもいやりから出るものでなければと思いますが、今の社会の中では、命の大切さが見えないのが一番の問題でしょう。それゆえに差別が生まれるのかもしれない。(70～79歳)
- ・密室での子ども虐待とか気になる。地域、保育の場とか家庭以外でも子どもを守れるような社会になってほしいです。(50～59歳)
- ・自分自身も含めて、「自分の周りにはそういう人はいない」と思いこんでいる人が多いと思う。特に同和問題、性的マイノリティ、生活困窮者、ひきこもりについてはなかなか目に見えないことなので、常日頃から意識していきたいと思う。(40～49歳)
- ・人権についての意識は、本当に人によって差がものすごく大きいと思います。意識が高い人は、自分から積極的に学習の場へ参加すると思います。誰もが人権への理解を深めることが大事で、そのためには人権について皆が当たり前知る機会を作ることが大切かと思えます。(学ぶ機会がある、職場、学校で学ぶ子どもなどは良いですが、大人になって、職場で学ぶことがなかったり、そういう場に出る機会のない人は、知ろうとするきっかけさえないのでないでしょうか。)誰もが、意識を高め、差別や偏見のない世の中になることを願っています。(40～49歳)
- ・頭では分かっているけど、自分の身近な問題になると関わるのを避けてしまう…という人が多いと思います。(私も含め)積極的に差別する側にまわらなくても、傍観していることも差別につながることを、もっと日常的に意識する必要があり、それは学校や職場で必須の研修会などを実施することで意識づけするなど継続したとりくみが必要だと思えます。子

どもの人権、高齢者の人権についてなど本当は誰しも身近なことのはずなので、支援体制、相談体制も身近なものになるともっとみんなの意識が変わるのではと思います。

(30～39 歳)

- ・ 同和問題は年長者ほど偏見が多いと感じる。若い世代にしっかり教育、啓発が必要である。(70～79 歳)

- ・ 知らないから差別に気づかない。(30～39 歳)

- ・ 高齢者の方の職場が(受け入れ)少なすぎる。70歳を越えても元気な方は沢山います。70歳まだまだ働かないと生活出来ない方が沢山います。少し見直しを考えてほしいと思います。(50～59 歳)

- ・ 子どものころからの家庭での教育、その基となる義務教育での個性を認め合う教育が大変必要な気がします。コロナ禍の中で個人個人を認め合う場が少なくなっている頃、いままでの努力が無駄にならないようお互いを認め合う場をより多く作っていただきたい。(60～69 歳)

- ・ 人権問題を理解しているつもりでも、自分に関わることを想像すると保身に走ってしまいそうです。いじめ、ハラスメントなどに遭遇した時に、すぐに親身に相談にのってくれる機関があれば良いと感じます。イメージでは、行政も警察も、プライバシーの問題等で、よほどの緊急性がない限り、動いてくれない気がします。広報やCMなどで、どこに相談したら良いかもっと周知していただきたいです。(内容によって相談先も変わると思うので)(40～49 歳)

- ・ 障がい者として行政から認定されないボーダーラインの障がい者がたくさんいらっしゃるので、その方達が労働・生活しやすい職場環境づくり・インフラづくり・地域づくりが必要だと思う。(40～49 歳)

- ・ 私は海外短期留学の経験があり、その際に同性カップル(配偶者を含む)も多く見てきました。そのカップルを見ていると、どのパートナーを持つ者に関しても偏見を抱くことは許されないと強く感じました。ただ一方で日本ではあまり表面化しておらず理解が進まないことにも納得できます。米子市などの地方では尚更かもしれません。ただ「ありのままの他者を受け入れる」姿勢がない地域(地域住民含む)では生きづらさを感じる人が一定数生まれてしまうことも事実です。地方自治体の人権侵害についてのポスター等を作るだけで「啓発運動だ」としているのでは無意味なような気がします。幼少期から学校や社会全体で講座や講演を行い、日頃から人権問題を身近に考えていけたらと願います。

(30～39 歳)

- ・子どもの学校役員で人権委員になったため、活動の一環として、講演を聴きに行く機会がありました。一般の人がよほど意欲や関心がなければ、講演には行かないと思います。そういう意味では、講演に行けてよかったと思っています。興味のない人に興味を持ってもらうためには、学校での集まりにセットで機会をもつなどや、地域の集まりにセットしてしまう方が単独の企画にするよりは、関心のない方へのアプローチとしては、よいと思います。(40~49歳)
- ・以前は、高齢者施設勤務。現在は、児童福祉に就いています。やはり、障がい者を有する者が、平等に住みやすい環境や多くの社会資源が活用できるような体制を望みます。相談する事を知らずに困られている方が多くおられると思います。老老介護も多いので、情報がいくようにしてあげて欲しい。(40~49歳)
- ・アンケートを記入してみて、自分の身のまわりに関係する事はわりと関心が深いですが、その他の事には関心が薄い事がわかった。もっと広い視野を持って関心を持ちたい。(40~49歳)
- ・子どもの学校の保護者会が主催する講演会とか研修に参加することによって、自分自身の思い込みや偏見に沢山気づくことができました。やはり、大人になっても学ぶって必要なんだなと思いました。講演会、研修以外にもテレビ、映画、You Tube等の動画でもいいので、学ぶ機会が必要だと思いました。(50~59歳)
- ・災害時要支援者対策、個別避難計画が進んでいないと感じる。1番優先して行わないといけないことだと思う。災害時要支援者には、高齢者や身体障がい者に加えて、乳児や幼児連れの家族、妊婦などを含めて欲しい(会議や広報の資料に追記など)。災害時、避難所が要支援者優先で使用できるスペースを確保するなどを取り決めてもらいたい。(50~59歳)
- ・子どもの頃の経験は、その後の人生にかかわってくると思うので、「いじめ問題」を解決する事が重要だと思います。自身は、いじめられた経験はありませんが、いじめられた経験がある方は心に深い傷をうけると思います。例えば、「いじめる側」の人へのカウンセリング(家庭環境など…)等の実施、教室をオープンにする等の環境づくりなど。教員の方へのサポート(いじめが起きてしまった際、全体で解決できる様に)等を実施して頂きたいです。(40~49歳)
- ・差別はどこでも起きている。永い年月をかけても消えない。個人的にもどこかで頭の片隅で起きているし、されていると思う。これが自然な流れだと思う。(70~79歳)
- ・人権についてあまり問題にしなくても良いと思います。又思い出だけです。(70~79歳)

- ・ワタシは精神障害者です。支援者は”辛いコトやしんどいコトは、1人で抱えず相談して下さい”とよく言われますが、その相談すると言うパワーやストレスでうもれてしまって、”相談する”と言う行為すらできない時があります。そういうコトも支援側は理解して欲しいと切に願います。(40~49歳)

- ・母が精神の病な為、子どもの頃から大変苦労してきました。昔はその事を口止めされていたため友達にも言えず親戚にも「あなたが支えてあげて」と放置されていたため、私がやってあたり前だと思っていました。ですが「ヤングケアラー」という言葉をテレビで知り、自分はこれだったのか、子どもが1人でかかえる問題ではなかったのだと驚きました。こういう子どもがこれからは気持ちを吐き出せるようなカウンセリングのような場所ができればすこしは楽になれると思いました。(40~49歳)

3 調査結果のまとめ

今回の調査では、多様化する人権問題をできる限り多く取り上げ、市民の人権に関する認識や教育・啓発等との関係を確認するため、調査項目を前回調査(平成 29 年実施)から大幅に変更している。

この調査結果を基に、設問同士のクロス集計も併せて、市民の人権意識や今後の啓発等の取組への課題についてまとめる。

(1) 人権問題への関心について

人権問題に関心があるかについての設問(問1)では、「普段から関心を持っている」「時々関心を持つことがある」と回答した人が7割を超えている。

一方で、「普段から関心を持っている」と回答した人の割合は24.3%で、「時々関心を持つことがある」(52.0%)の半数以下の割合にとどまっている。

・「人権問題に関心を持っていない人」と他の設問項目とのクロス集計結果

問1と他の設問項目とのクロス集計の結果、人権問題に「関心がある人」(「普段から関心を持っている」「時々関心を持つことがある」と回答した人)と、人権問題に「関心がない人」(「あまり関心を持っていない」「関心を持ったことがない」と回答した人)の回答割合に10ポイント以上の違いが出た設問項目について記述する。

人権問題に「関心がない人」は、次の設問項目で、人権問題を正しく認識しているといえる回答(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」等)の割合が低くなっている。

問3「2 同和問題(部落差別)について、差別や偏見に基づく間違った情報に惑わされないためにも、正しい理解のための学習や啓発が必要だ」(「関心がある人」(87.0%)と「関心がない人」(70.0%)で17.0ポイント差)

問3「3 日本で暮らす外国人が母国の言葉や文化を大切にすることを、尊重するべきだ」(「関心がある人」(90.2%)と「関心がない人」(79.7%)で10.5ポイント差)

問3「7 自分は差別しないので人権問題を学ぶ必要はない」に「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した人の割合が低くなっている。(「関心がある人」(83.9%)と「関心がない人」(60.7%)で23.2ポイント差)

「身元調査(問8)」については、「してはいけないと思う」と回答した人の割合が低くなっている。

「1 企業が社員を採用するとき」(「関心がある人」(52.4%)と「関心がない人」(41.4%)で11.0ポイント差)

「2 結婚するとき」(「関心がある人」(41.4%)と「関心がない人」(29.3%)で12.1ポイント差)

「人権問題に関する行動(問10)」では、全ての項目で、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と回答した人の割合が低くなっている。

「1 ハラスメントの場面に居合わせたとき、やめるように注意する」(「関心がある人」(63.0%)と「関心がない人」(44.8%)で18.2ポイント差)

「2 子どものいじめ、体罰、虐待などに気づいたとき、関係機関に相談する」(「関心がある人」(87.7%)と「関心がない人」(74.8%)で12.9ポイント差)

「3 災害時に、地域の高齢者や障がいのある人など、避難に困難を抱える人の避難につい

て気を配る」(「関心がある人」(82.3%)と「関心がない人」(64.8%)で17.5ポイント差)
「4 地域で暮らす外国人と積極的にコミュニケーションをとったり、お互いの文化を理解し合えるようにする」(「関心がある人」(64.2%)と「関心がない人」(40.7%)で23.5ポイント差)
「5 インターネットの掲示板などで差別書き込みを見つけたとき、関係機関に通報する」(「関心がある人」(43.1%)と「関心がない人」(29.3%)で13.8ポイント差)
「6 身近な人から性的マイノリティであると告白(カミングアウト)を受けたとき、共感したり、支援する意思を伝える」(「関心がある人」(78.0%)と「関心がない人」(53.8%)で24.2ポイント差)
「7 近所に刑を終えて出所した人がいたとき、地域の仲間として迎える」(「関心がある人」(61.4%)と「関心がない人」(42.8%)で18.6ポイント差)

(2) 様々な人権課題への関心について

様々な人権課題への関心についての設問(問2)で、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合が最も高かった課題は、「病気にかかわる人」であった。その他では、「障がい者」、「子ども」、「高齢者」の順に高くなっている。

一方で、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合が低かったのは、「刑を終えて出所した人等」、「性的マイノリティ」、「同和問題(部落差別)」、「外国人」などとなっている。

・年齢別で回答割合の違いが大きかった項目

問2の人権課題中、年齢別で、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合の違いが最も大きかった項目は、「インターネットによる人権侵害」で、最も高い「20~29歳」(90.0%)と、最も低い「70~79歳」(61.5%)では、28.5ポイント差となっている。その他、「性的マイノリティ」(「20~29歳」(71.3%)と「70~79歳」(46.2%)で25.1ポイント差)、「災害時の人権」(「70~79歳」(80.4%)と「15~19歳」(55.6%)で24.8ポイント差)、「拉致被害者」(「70~79歳」(73.8%)と「30~39歳」(49.0%)で24.8ポイント差)などとなっている。

(3) 人権に関する考え方について

人権に関する考え方についての設問(問3)では、「7 自分は差別しないので人権問題を学ぶ必要はない」を除く項目で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人が8割を超えている一方で、「そう思う」と回答した人の割合はどの項目も5割に届いていない。

・年齢別で回答割合の違いが大きかった項目

問3の項目中、年齢別の回答割合の違いが最も大きかった項目は、「7 自分は差別しないので人権問題を学ぶ必要はない」で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が最も高い「70~79歳」(33.9%)と、最も低い「20~29歳」(8.8%)では、25.1ポイント差となっている。

「そう思う」と回答した人をみると、最も大きい違いがあった項目は、「2 同和問題(部落差別)について、差別や偏見に基づく間違った情報に惑わされないためにも、正しい理解のための学習や啓発が必要だ」で、最も高い「15~19歳」(75.6%)と、最も低い

「70～79 歳」(40.2%)では、35.4 ポイント差となっている。

- ・「自分は差別しないので人権問題を学ぶ必要はない」と他の設問項目とのクロス集計結果
「7 自分は差別しないので人権問題を学ぶ必要はない」と他の設問項目とのクロス集計の結果、「学ぶ必要がある」(「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した人)と、「学ぶ必要はない」(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人)の回答割合に 10 ポイント以上の違いが出た設問項目について記述する。

人権問題を「学ぶ必要はない」と回答した人は、次の設問項目で、人権問題を正しく認識しているといえる回答(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」等)の割合が低くなっている。

問3「2 同和問題(部落差別)について、差別や偏見に基づく間違っただ情報に惑わされないためにも、正しい理解のための学習や啓発が必要だ」(「学ぶ必要がある」(88.3%)と「学ぶ必要はない」(65.6%)で 22.7 ポイント差)

問5「1 自分の身内に同和地区の人との結婚話があったときには、本人の意思を尊重し結婚を祝福する」(「学ぶ必要がある」(89.8%)と「学ぶ必要はない」(76.7%)で 13.1 ポイント差)

「身元調査(問8)」については、「してはいけないと思う」と回答した人の割合が低くなっている。

「1 企業が社員を採用するとき」(「学ぶ必要がある」(53.3%)と「学ぶ必要はない」(37.0%)で 16.3 ポイント差)

「2 結婚するとき」(「学ぶ必要がある」(42.4%)と「学ぶ必要はない」(26.0%)で 16.4 ポイント差)

「人権問題に関する行動(問10)」では、「6 身近な人から性的マイノリティであると告白(カミングアウト)を受けたとき、共感したり、支援する意思を伝える」で、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と回答した人の割合が低くなっている。(「学ぶ必要がある」(76.7%)と「学ぶ必要はない」(57.2%)で 19.5 ポイント差)

(4) 職場における人権問題について

職場における人権問題についての設問(問4)では、ほとんどの項目で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が8割を超えているが、「1 障がいがあるからといって、仕事をするのに仕事内容を制限されるべきではない」については、59.9%と最も低くなっており、「そう思う」と回答した人を見ると、19.7%と低い割合を示している。

- ・年齢別で回答割合の違いが大きかった項目

問4の項目中、年齢別の回答割合の違いが最も大きかった項目は「7 従業員が刑を終えて出所した人だとわかったことで解雇されるのは問題がある」で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が最も高い「70～79 歳」(92.1%)と、最も低い「30～39 歳」(74.8%)では、17.3 ポイント差となっている。

「そう思う」と回答した人をみると、最も大きい違いがあった項目は、「3 育児休業や介護休業の制度を取りにくい雰囲気があることは、結果的に職場のためにならない」で、最も高い「20～29 歳」(81.3%)と、最も低い「70～79 歳」(46.2%)では、35.1 ポイン

ト差となっている。その他、「6 性的マイノリティという理由で、職場で嫌がらせや不利な扱いを受けるのは問題がある」(「20~29歳」(82.5%)と「70~79歳」(53.8%)で28.7ポイント差)などとなっている。

(5) 家庭生活における人権問題について

家庭生活における人権問題についての設問(問5)では、ほとんどの項目で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が8割を超えているが、「2 住居を選ぶ際に、物件が同和地区(被差別部落)にあるかどうかはこだわらない」では67.2%と低くなっている。

「そう思う」と回答した人をみると、「2 住居を選ぶ際に、物件が同和地区(被差別部落)にあるかどうかはこだわらない」(30.3%)、「5 保護者が子どもを叩いたり怒鳴ったりするのは、しつけのためといわれても虐待である」(33.1%)、「1 自分の身内に同和地区の人との結婚話があったときには、本人の意思を尊重し結婚を祝福する」(48.7%)の各項目で回答割合が5割に届いていない。

・年齢別で回答割合の違いが大きかった項目

問5の項目中、年齢別の回答割合の違いが最も大きかった項目は「2 住居を選ぶ際に、物件が同和地区(被差別部落)にあるかどうかはこだわらない」で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が最も高い「15~19歳」(82.2%)と、最も低い「70~79歳」(60.4%)では、21.8ポイント差となっている。

「そう思う」と回答した人をみると、最も大きい違いがあったのは、「4 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくても良い」で、最も高い「20~29歳」(86.3%)と、最も低い「70~79歳」(41.9%)では、44.4ポイント差となっている。その他、「2 住居を選ぶ際に、物件が同和地区(被差別部落)にあるかどうかはこだわらない」(「15~19歳」(60.0%)と「70~79歳」(18.9%)で41.1ポイント差)、「1 自分の身内に同和地区の人との結婚話があったときには、本人の意思を尊重し結婚を祝福する」(「15~19歳」(71.1%)と「70~79歳」(35.2%)で35.9ポイント差)などとなっている。

(6) 社会生活における人権問題について

社会生活における人権問題についての設問(問6)では、ほとんどの項目で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が8割を超えているが、「3 認知症の高齢者の徘徊を防ぐため、体を拘束することは高齢者の人権を侵害している」では70.9%と、他の項目よりも低くなっている。

「そう思う」と回答した人をみると、「3 認知症の高齢者の徘徊を防ぐため、体を拘束することは高齢者の人権を侵害している」(28.9%)、「1 文化や生活習慣の違いを理由に、外国人の賃貸住宅などへの入居を拒否するのは問題がある」(39.2%)、で回答割合が5割に届いていない。

・年齢別で回答割合の違いが大きかった項目

問6の項目中、年齢別の回答割合の違いが最も大きかった項目は「3 認知症の高齢者の徘徊を防ぐため、体を拘束することは高齢者の人権を侵害している」で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が最も高い「15~19歳」(82.2%)と、最も低い「20~29歳」(55.0%)では、27.2ポイント差となっている。

「そう思う」と回答した人をみても、最も大きい違いがあった項目は、「5 ホテルや旅館が、ハンセン病回復者やHIV感染者などの宿泊を断ることは、病気についての理解不足であり対応に問題がある」で、最も高い「15～19歳」(68.9%)と、最も低い「70～79歳」(46.8%)では、22.1ポイント差となっている。

(7) インターネット上での書き込みや拡散について

インターネット上での書き込みや拡散する行為についての設問(問7)では、全ての項目で「問題だと思う」「どちらかといえば問題だと思う」と回答した人が9割前後であり、多くの人々が、インターネット上での「同和問題(部落差別)」「外国人」「個人のプライバシー」「根拠のない噂」等の書き込みや拡散行為が人権侵害だという認識を持っている。

一方で、「問題だと思う」と回答した人をみても、「1 同和地区(被差別部落)の地名や所在地を明らかにする」で回答割合が64.8%となっており、他の項目と比較すると低くなっている。

問7では、各項目で年齢別の回答割合に大きな違いはみられなかった。

(8) 身元調査について

身元調査についての設問(問8)では、身元調査をすることを「してはいけないと思う」と回答した人の割合は、「1 企業が社員を採用するとき」が49.8%、「2 結婚するとき」が38.8%となっており、身元調査をしてはいけないと思う人の割合が半数に届いていない。この結果は、問5-1、問5-2、問7の各項目の回答結果と矛盾しており、「身元調査」について正しく認識されていないことがうかがえる。

年齢別の結果をみると、身元調査を「してはいけないと思う」と回答した人の割合が最も低いのは、1、2ともに「15～19歳」となっている。

また、性別により、回答割合に10ポイント以上の違いがあった設問項目が、「1 企業が社員を採用するとき」で、「してはいけないと思う」と回答した人の割合が、「男性」(40.5%)、「女性」(56.9%)で、16.4ポイント差となっている。一方で、「2 結婚するとき」については、「してはいけないと思う」と回答した人の割合が、「男性」(34.2%)、「女性」(42.0%)で、7.8ポイント差となっている。

(9) 差別解消に関する3つの法律について

差別解消に関する3つの法律についての設問(問9)では、「1 障害者差別解消法」「2 ヘイトスピーチ解消法」「3 部落差別解消推進法」について、「内容まで知っている」と回答した人の割合はどの法律も10%以下であった。

(10) 人権に関する行動について

人権に関する行動についての設問(問10)では、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と答えた人の割合が最も高いのは、「2 子どものいじめ、体罰、虐待などに気づいたとき、関係機関に相談する」で、84.5%であった。

一方、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と答えた人の割合が最も低いのは、「5 インターネットの掲示板などで差別書き込みを見つけたとき、関係機関に通報する」で、39.8%であった。

この結果から、子どもの虐待などについては、相談する機関や方法が認知されてきていることがうかがえる。

一方で、インターネット上での差別書き込みについては、関係機関へ通報し、削除を依頼する方法が周知されていないと考えられる。

また、性別により、回答割合に10ポイント以上の違いがあった設問項目が、「1 ハラスメントの場面に居合わせたとき、やめるように注意する」で、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と回答した人の割合が、「男性」(69.7%)、「女性」(50.8%)で、18.9ポイント差となっている。この項目では、年齢別で「30～39歳」が最も低くなっており、職場等で弱い立場にいると思われる人が声を上げにくいことがうかがえる。

なお、今回のアンケート結果で、性別で回答割合に10ポイント以上の違いがあったのは、この設問項目（「1 ハラスメントの場面に居合わせたとき、やめるように注意する」）と、前述の「問8 身元調査 1企業が社員を採用するとき」との2項目のみであった。

・年齢別で回答割合の違いが大きかった項目

問10の項目中、年齢別の回答割合の違いが最も大きかった項目は「6 身近な人から性的マイノリティであると告白(カミングアウト)を受けたとき、共感したり、支援する意思を伝える」で、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と回答した人の割合が最も高い「15～19歳」(95.6%)と、最も低い「70～79歳」(47.9%)では、47.7ポイント差となっている。年齢が高くなるにしたがって、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と答えた人の割合が低くなっており、今回調査した全設問項目中で、年齢間の認識の違いが最も大きい結果となった。

「できると思う」と回答した人の結果でも、回答した人の割合の違いが最も大きかった項目は「6 身近な人から性的マイノリティであると告白(カミングアウト)を受けたとき、共感したり、支援する意思を伝える」で、最も高い「20～29歳」(52.5%)と、最も低い「70～79歳」(13.0%)では、39.5ポイント差となっている。

(11) 人権尊重社会のための取組について

人権が尊重される社会のために必要な取組(問11)については、「相談、支援体制を充実する」が最も多く、続いて「差別や偏見につながる慣習や社会の仕組みを改善する」、「園や学校での人権教育を充実する」と答えた人が多くなっている。

(12) 人権に関する研修会・講演会への参加について

過去5年間の人権に関する研修会等への参加(問12)については、「参加したことがない」が最も多く、665人となっている。参加したことがある研修会等では、「職場が開催するもの」が最も多く、年齢別では30歳から69歳までの間で、「職場が開催するもの」が最も多くなっている。

・研修会等に「参加したことがない人」と他の設問項目とのクロス集計結果

問12と他の設問項目とのクロス集計の結果、「参加したことがある」(「いずれかの研修会等に参加したことがある」と回答した人)と、「参加したことがない」と回答した人の、

回答割合に 10 ポイント以上の違いが出た設問項目について記述する。

研修会等に「参加したことがない人」は、問3「7 自分は差別しないので人権問題を学ぶ必要はない」に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が高くなっている。（「参加したことがある」(12.9%)、「参加したことがない」(25.9%)で 13.0 ポイント差)

「身元調査(問8)」については、「してはいけないと思う」と回答した人の割合が低くなっている。

「1 企業が社員を採用するとき」(「参加したことがある」(57.1%)、「参加したことがない」(44.5%)で 12.6 ポイント差)

「2 結婚するとき」(「参加したことがある」(45.2%)、「参加したことがない」(33.8%)で 11.4 ポイント差)

「人権問題に関する行動(問10)」では、次の設問項目で、「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と回答した人の割合が低くなっている。

「1 ハラスメントの場面に居合わせたとき、やめるように注意する」(「参加したことがある」(65.0%)、「参加したことがない」(53.1%)で 11.9 ポイント差)

「4 地域で暮らす外国人と積極的にコミュニケーションをとったり、お互いの文化を理解し合えるようにする」(「参加したことがある」(65.5%)、「参加したことがない」(52.6%)で 12.9 ポイント差)

「5 インターネットの掲示板などで差別書き込みを見つけたとき、関係機関に通報する」(「参加したことがある」(46.6%)、「参加したことがない」(34.0%)で 12.6 ポイント差)

「6 身近な人から性的マイノリティであると告白(カミングアウト)を受けたとき、共感したり、支援する意思を伝える」(「参加したことがある」(80.9%)、「参加したことがない」(66.5%)で 14.4 ポイント差)

(13) 今後の人権教育・啓発の取組について

今後、人権への理解を深めるのに役に立つと思うもの(問13)については、「学校の授業で行われる研修会」が最も多くなっている。

また、年齢別でみると、15～19歳では、「学校の授業で行われる研修会」が役に立つという回答が最も多く、20歳～39歳では、「SNSなどのインターネット」が役に立つとの回答が最も多くなっている。年齢が上がるにしたがって、対面での研修会やテレビ・ラジオなどのメディアによる教育・啓発が役に立つとの回答が多くなっている。

(14) まとめ

今回の調査結果から、今後の啓発に関する課題をまとめる。

人権に関する講演会、研修会等へ参加したことがない人が回答者の半数を占めることから、講演会、研修会へ、参加しやすく、参加してみようと思ってもらえるよう、いかに工夫するかが課題である。併せて、参加できない人のために、リモートや動画配信等、対面での開催以外の方法も取り入れ、様々な形態での啓発に取り組む必要がある。

どのような講演会、研修会等へ参加したかについては、「職場が開催するもの」へ参加したという回答が最も多いことから、企業等での人権研修を充実させるための取組が重要である。

本市では、企業、職場への研修講師の派遣の他、米子市人権問題企業連絡会会員企業への人権問題研修会を開催しているが、職場での研修の重要性を改めて啓発するとともに、研修方法等をより充実させていく必要がある。

併せて、職場で問題となることの多いハラスメントについての設問項目では、女性や若い世代が声を上げにくい傾向にあるという結果が出ていることから、ハラスメントの防止についての一層の啓発が必要である。

また、学校や職場等での人権研修のほか、地域での人権教育を推進するため、人権教育地域懇談会（小地域懇談会）、その他の研修会等の充実を図る必要がある。

人権尊重社会のために必要な取組として、「相談支援体制の充実」を求める回答が多い結果となっている。本市では、どこに相談すれば良いかわからない人のために福祉関係の総合相談窓口「えしこに」が設置されているが、その他にも様々な機関で相談窓口が設置されていることを周知し、必要な支援につなげることが重要である。

その他、「身元調査」の問題が正しく認識されている割合が低いという調査結果について、身元調査が、同和問題(部落差別)における結婚差別や土地差別につながるほか、外国人、障がい者などのその他の様々な人権問題や、プライバシーの侵害にも関わってくる非常に重大な問題のある行為であることを広く周知するため、パンフレットや広報、ホームページ、研修会等を利用し、一層の啓発に努める必要がある。

また、年代によって認識への差がみられる人権課題が明らかになっており、それぞれの年代に適した啓発方法を取り入れ、人権課題への認識を深める取組が求められる。

今回の調査結果から、様々な人権課題について、ある程度正しく認識されているといえるが、自分が行動することができるかは難しいという結果となっている。

今後は、人権問題を知識として認識するだけにとどまらず、自分のこととして考え、行動できるよう、より一層啓発を進めていく必要がある。

参考資料



人権に関する市民アンケート

～皆様のご意見をお聞かせください～



○ 人権とは … 誰もが個人として尊重され、社会の中で幸せに生きていくことのできる権利です。

日ごろから市政の推進にご協力いただき、ありがとうございます。

米子市では、5年ごとに、人権に関する市民アンケートを行い、人権施策の参考にしております。

今回のアンケートは、市内にお住まいの15歳以上、80歳未満の方から無作為に抽出した3,500の方に送付しております。

皆様のご意見は、今後の米子市の人権施策の推進のための参考資料としてのみ利用します。回答者個人が特定されたり、目的外に利用されたりすることは一切ありません。

アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年9月

米子市長 伊木 隆司

【このアンケートを読むことが難しいかたへ】

ご家族など、親しいかたに読んでもらって答えていただくか、問い合わせ先に、ご連絡ください。

For Those Who can't read: Please have a family member or friend read or contact us

米子市人権尊重シンボルマーク

～ご記入にあたってのお願い～



- ◆ あて名のご本人がお答えください。
- ◆ このアンケートには名前や住所を記入していただく必要はありません。
- ◆ 記入していただいた内容は、すべて統計的に処理します。プライバシーにかかわる内容が公表されることは一切ありません。
- ◆ お答えは質問にしたがって、あてはまるものの番号に○をつけてください。
- ◆ 記入していただいたアンケートは、同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに9月30日(金)までに投かんしてください。
- ◆ このアンケートについてご不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

インターネットによる回答もできます。
裏面「インターネットから回答する場合」をご覧ください。

【問い合わせ先】

〒683-8686 米子市東町161番地2 米子市総合政策部人権政策課

電話：0859-23-5415 (直通) F A X：0859-37-3184

メール：jinkenseisaku@city.yonago.lg.jp



= インターネットから回答する場合 =

下記のQRコード、またはURLからご回答ください。



https://s-kantan.jp/city-yonago-tottori-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=6301

入力期限：令和4年9月30日（金）

*インターネットで回答された場合は、紙の調査票の返送は不要です。

◇ ここから、アンケートにお答えください ◇

◎あなたご自身のことについてお聞かせください。

あなたの性別にあてはまる番号に○をつけてください。

- | | | | |
|------|------|-------|----------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 その他 | 4 答えたくない |
|------|------|-------|----------|

あなたの年齢にあてはまる番号に○をつけてください。（令和4年9月1日現在）

- | | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1 <u>15～19歳</u> | 2 <u>20～29歳</u> | 3 <u>30～39歳</u> | 4 <u>40～49歳</u> |
| 5 <u>50～59歳</u> | 6 <u>60～69歳</u> | 7 <u>70～79歳</u> | |

◎人権についてのあなたのご意見をお聞かせください。

問1 あなたは人権問題について関心がありますか。（○は一つ）

- | |
|----------------|
| 1 普段から関心を持っている |
| 2 時々関心を持つことがある |
| 3 あまり関心を持っていない |
| 4 関心を持ったことがない |

- 問2 次のような人権課題について、どの程度関心がありますか。1～14のすべてについてお答えください。(それぞれ1つに○をつけてください)
1～14以外に関心のある人権課題がある人は、「15 その他()」に具体的な内容を記入してください。

	関心がある	少し関心がある	あまり関心がない	関心がない
1 同和問題(部落差別)【*1】	1	2	3	4
2 外国人【*2】	1	2	3	4
3 障がい者	1	2	3	4
4 男女共同参画	1	2	3	4
5 子ども	1	2	3	4
6 高齢者	1	2	3	4
7 病気にかかわる人【*3】	1	2	3	4
8 犯罪被害者等	1	2	3	4
9 性的マイノリティ【*4】	1	2	3	4
10 生活困難者【*5】	1	2	3	4
11 刑を終えて出所した人等	1	2	3	4
12 インターネットによる人権侵害	1	2	3	4
13 災害時の人権【*6】	1	2	3	4
14 拉致被害者等	1	2	3	4
15 その他()				

【*1】日本社会の歴史的過程で形づくられた身分差別。同和地区(被差別部落)出身であることや、そこに住んでいるということだけで、日常生活の上でいろいろな差別を受けるなどしている、日本固有の人権問題。

【*2】在日韓国・朝鮮の人に対するヘイトスピーチ(国籍・民族などの違いを理由に差別的・侮辱的な発言、書き込みなどを行う行為)のほか、外国人への不利な労働条件、文化や習慣の違いによる生活への不安など、様々な問題がある。

【*3】病気にかかっている人やその家族のほか、病気にかかわる業務に従事している人も含む。近年は、新型コロナウイルス感染症に関する中傷や差別、プライバシーの侵害などが問題となっている。

《関連》HIV感染者：HIV(ヒト免疫不全ウイルス)に感染した人。発病した人をエイズ患者と称して区別する。
ハンセン病：病原性の弱い「らい菌」による細菌性感染症。過去には遺伝病と誤解されたり、恐ろしい伝染病と考えられ、体の一部が変形したりする外観の特徴等から差別や偏見の対象とされた。

【*4】性同一性障がい(性的違和)や、性的指向が異性とは限らないなど、性のあり方について少数にある人。

【*5】経済情勢などにより離職を余儀なくされたり、働いても低賃金のため最低限度の生活を営むための収入を得ることができなかつたりするといった生活困難に直面している人。

【*6】被災地出身者に対する誹謗中傷や避難所でのプライバシーの保護など。

問3 次のような考え方についてどう思われますか。1～7のすべてについてお答えください。
(それぞれ1つに○をつけてください)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
1 差別やいじめは、する側に問題がある	1	2	3	4
2 同和問題（部落差別）について、差別や偏見に基づく間違った情報に惑わされないためにも、正しい理解のための学習や啓発が必要だ	1	2	3	4
3 日本で暮らす外国人が母国の言葉や文化を大切にすることを、尊重するべきだ	1	2	3	4
4 障がいのある人が困難を経験するのは、周りの環境や制度などが障がいのない人（多数派）に合わせて作られているからだ	1	2	3	4
5 犯罪被害者やその家族に対する、過剰な取材や中傷は人権侵害である	1	2	3	4
6 生活困窮の問題は、本人の努力だけでは全てを解決することは不可能なので、支援が必要である	1	2	3	4
7 自分は差別しないので人権問題を学ぶ必要はない	1	2	3	4

問4 職場における場面での次のような意見や考え方についてどう思われますか。1～7のすべてについてお答えください。（それぞれ1つに○をつけてください）

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
1 障がいがあるからといって、仕事をするのに仕事内容を制限されるべきではない	1	2	3	4
2 採用や昇給、昇進などで、男女の待遇に差が出るのは問題がある	1	2	3	4
3 育児休業や介護休業の制度を取りにくい雰囲気があることは、結果的に職場のためにならない	1	2	3	4
4 高齢者が、就職が困難だったり、労働条件が低くなるのは問題がある	1	2	3	4
5 病歴から就職や仕事の待遇などで不利な扱いを受けるのは問題がある	1	2	3	4
6 性的マイノリティという理由で、職場で嫌がらせや不利な扱いを受けるのは問題がある	1	2	3	4
7 従業員が刑を終えて刑務所を出所した人だとわかったことで解雇されるのは問題がある	1	2	3	4

問5 家庭の生活場面での次のような意見や考え方についてどう思われますか。1～7のすべてについてお答えください。(それぞれ1つに○をつけてください)

	そう思う	そう思う どちらかといえば	そう思わない どちらかといえば	そう思わない
1 自分の身内に同和地区の人との結婚話があったときには、本人の意思を尊重し結婚を祝福する	1	2	3	4
2 住居を選ぶ際に、物件が同和地区（被差別部落）にあるかどうかはこだわらない	1	2	3	4
3 家事、育児、介護などは、男性・女性関係なく協力して行うのが良い	1	2	3	4
4 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくても良い	1	2	3	4
5 保護者が子どもを叩いたり怒鳴ったりするのは、しつけのためといわれても虐待である	1	2	3	4
6 子どもが、過度な家事や家族の世話などを日常的に行い、学校に通えなかったり、友だちと遊べなかったりするのは問題がある【*】	1	2	3	4
7 高齢者や障がいのある人を家庭で介護している人の負担を少なくするため、支援体制を充実させる必要がある	1	2	3	4

【*】このような状況にある18歳未満の子どもを「ヤングケアラー」と言う。

問6 社会生活の場面で次のような意見や考え方についてどう思われますか。1～7のすべてについてお答えください。(それぞれ1つに○をつけてください)

	そう思う	そう思う どちらかといえば	そう思わない どちらかといえば	そう思わない
1 文化や生活習慣の違いを理由に、外国人の賃貸住宅などへの入居を拒否するのは問題がある	1	2	3	4
2 障がいのある人に対して、店や施設の利用など、サービスの提供や賃貸住宅などへの入居を拒否するのは問題がある	1	2	3	4
3 認知症の高齢者の徘徊を防ぐため、体を拘束することは高齢者の人権を侵害している	1	2	3	4
4 新型コロナウイルスへの感染者やその家族のほか、医療機関や学校、職場など関係する様々な人や機関への中傷や差別は許されない	1	2	3	4
5 ホテルや旅館が、ハンセン病回復者やHIV感染者などの宿泊を断ることは、病気についての理解不足であり対応に問題がある	1	2	3	4
6 知人から性的マイノリティであることを告白され、そのことを本人の同意を得ずに他の人に教えることはあってはならない	1	2	3	4
7 災害などの緊急時に、日本語がわからない外国人や、聴覚や視覚に障がいがある人への対応がおろそかになるのは問題がある	1	2	3	4

問7 インターネット上での次のような書き込みやそれを拡散する行為についてどう思われますか。
1～6のすべてについてお答えください。(それぞれ1つに○をつけてください)

	問題だと思 う	ど ち ら か と い え ば 問 題 だ と 思 う	ど ち ら か と い え ば 問 題 だ と 思 わ な い	問 題 だ と 思 わ な い
1 同和地区（被差別部落）の地名や所在地を明らかにする	1	2	3	4
2 同和地区（被差別部落）出身者の名前や所在を明らかにする	1	2	3	4
3 同和地区（被差別部落）に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げる	1	2	3	4
4 日本に住む外国人（在日韓国・朝鮮人など）に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げる	1	2	3	4
5 個人の私生活や人間関係などのプライバシーに関する情報	1	2	3	4
6 他人に対する根拠のない悪いうわさ、悪口など	1	2	3	4

問8 あなたは、次のような場面で身元調査（本籍地・出生地・居住地などをしらべる）をすることをどう思われますか。(それぞれ1つに○をつけてください)

	思 う 当 然 だ と	仕 方 な い と 思 う	し て は い け な い と 思 う
1 企業が社員を採用するとき	1	2	3
2 結婚するとき	1	2	3

*米子市では、戸籍や住民票などの不正取得を防止するため、第三者等に戸籍謄本や住民票の写しを交付したとき、その事実を本人に通知する「本人通知制度」を導入しています。

問9 次の差別解消に関する3つの法律を知っていますか。(それぞれ1つに○をつけてください)

	知 っ て い る 内 容 ま で	内 容 は 知 ら な い	名 称 は 知 っ て い る が 内 容 は 知 ら な い	知 ら な い
1 障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）	1	2	3	
2 ハイトスピーチ解消法（本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律）	1	2	3	
3 部落差別解消推進法（部落差別の解消の推進に関する法律）	1	2	3	

問10 あなたは、次のような行動をとることができると思いますか。1～7のすべてについてお答えください。(それぞれ1つに○をつけてください)

	できないと思う	できな いと思 う	できな いと思 う	できな いと思 う
1 ハラスメント【*】の場面に居合わせたとき、やめるように注意する	1	2	3	4
2 子どものいじめ、体罰、虐待などに気づいたとき、関係機関に相談する	1	2	3	4
3 災害時に、地域の高齢者や障がいのある人など、避難に困難を抱える人の避難について気を配る	1	2	3	4
4 地域で暮らす外国人と積極的にコミュニケーションをとったり、お互いの文化を理解し合えるようにする	1	2	3	4
5 インターネットの掲示板などで差別書き込みを見つけたとき、関係機関に通報する	1	2	3	4
6 身近な人から性的マイノリティであると告白(カミングアウト)を受けたとき、共感したり、支援する意思を伝える	1	2	3	4
7 近所に刑を終えて出所した人がいたとき、地域の仲間として迎える	1	2	3	4

【*】 行為をした者の意図に関係なく、受けた相手や周りにいる人を不快にさせたり、実質的な損害を与えるなどして、強く嫌がられる行為の一般的総称。セクシャルハラスメント(セクハラ)、パワーハラスメント(パワハラ)など。

問11 人権が尊重される社会にするためには、どのような取組が必要だと思いますか。
(○は3つまで)

1 行政が人権意識を高めるための啓発活動などを積極的に推進する 2 住民一人一人が人権講座や研修などに積極的に参加する 3 相談、支援体制を充実する 4 差別を禁止する法や様々な救済制度の整備をする 5 差別や偏見につながる慣習や社会の仕組みを改善する 6 企業や職場での人権学習を充実する 7 園や学校での人権教育を充実する 8 わからない 9 その他 ()

◎人権啓発についてのあなたのご意見をお聞かせください。

*「その他」に○を付けた方は、()の中に具体的な内容を記入してください。

問12 あなたは、過去5年間に人権に関するどのような研修会や講演会に参加しましたか。
(○はいくつでも)

1 学校（幼稚園、保育園を含む）が開催するもの	2 学校の授業で行われるもの
3 職場が開催するもの	4 人権教育地域懇談会【*】
5 行政（公民館を含む）が開催するもの	6 その他（)
7 参加したことがない	

【*】通称、小地域懇談会。市内の全自治会で2～3年に一度開催される人権への理解を深めてもらうための懇談会。DVDの視聴、ワークショップなど様々な方法で開催されている。

問13 今後、人権への理解を深めるのに役に立つと思うものはどれですか。(○はいくつでも)

1 学校（幼稚園、保育園を含む）が開催する研修会	2 学校の授業で行われる研修会
3 職場が開催する研修会	4 人権教育地域懇談会
5 行政（公民館を含む）が開催する研修会	6 広報よなごなどの広報誌
7 新聞	8 テレビ・ラジオ
9 SNSなどのインターネット	10 その他（)

◎人権に関するご意見やご要望、ご自身のご経験などを自由にお書きください。

また、個別の人権課題についてもご意見がありましたら、こちらにお書きください。

キーワード：同和問題（部落差別）、外国人、障がい者、男女共同参画、子ども、高齢者、病気にかかわる人、犯罪被害者等、性的マイノリティ、生活困窮者、刑を終えて出所した人等、インターネット、拉致被害者等、被災者、アイヌ、ひきこもり など

お忙しい中、アンケートにご協力いただきありがとうございました。

この調査票を同封の返信用封筒に入れて、**令和4年9月30日までに**投かんしてください。

切手は不要です。

米子市人権問題市民意識調査報告書
令和5年7月発行

米子市総合政策部人権政策課

〒683-8686 米子市東町161番地2

電話：0859-23-5415

FAX：0859-37-3184

メール：jinkenseisaku@city.yonago.lg.jp